

平成22年度  
自己点検・評価報告書

* 奈良佐保短期大学の特色	1
I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	7
II 教育の内容	11
III 教育の実施体制	25
IV 教育目標の達成度と教育の効果	35
V 学生支援	50
VI 研究	63
VII 社会的活動	67
VIII 管理運営	73
IX 財務	92
X 改革・改善	97
巻末資料	

《\* 奈良佐保短期大学の特色等》

## 《\* 奈良佐保短期大学の特色等》

(1) 短期大学を設置する学校法人（以下「法人」という）の沿革（概要）及び短期大学の沿革（概要）。

### 学校法人佐保会学園及び奈良佐保短期大学の沿革の概要

昭和 6 年 4 月 1 日	各種学校佐保女学院（本学の前身）開設。
昭和 40 年 1 月 25 日	学校法人佐保会学園設立認可。
昭和 40 年 4 月 1 日	佐保女学院短期大学（家政科入学定員 100 名）開設。
昭和 42 年 4 月 1 日	家政科を家政専攻（入学定員 100 名）と食物栄養専攻（入学定員 50 名）に変更し、栄養士養成課程を開設。
昭和 44 年 4 月 1 日	佐保女学院短期大学を奈良佐保女学院短期大学に校名変更。
昭和 48 年 4 月 1 日	家政科を家政学科に学科名変更。 家政学科の入学定員を家政学専攻 50 名、食物栄養専攻 50 名に変更。 初等教育学科（入学定員 50 名）開設。
昭和 51 年 4 月 1 日	初等教育学科の入学定員を 100 名に増加。
昭和 61 年 4 月 1 日	家政学科家政専攻の入学定員を 100 名に臨時増員することが認可される。（昭和 61 年 4 月 1 日～平成 12 年 3 月 31 日） 初等教育学科の入学定員を 150 名に増加。
昭和 63 年 4 月 1 日	家政学科を生活科学科に学科名変更、家政専攻を生活科学専攻に専攻名変更。
平成 11 年 4 月 1 日	生活科学科生活科学専攻を分離し、生活福祉専攻を設置。 （生活科学専攻入学定員 40 名、生活福祉専攻入学定員 60 名）
平成 13 年 4 月 1 日	奈良佐保女学院短期大学を奈良佐保短期大学に校名変更。 男女共学となる。 初等教育学科を幼児教育科（入学定員 100 名）に学科名変更。
平成 14 年 4 月 1 日	生活科学科生活科学専攻を廃止。
平成 15 年 4 月 1 日	専攻科福祉専攻（定員 30 名）を設置。
平成 20 年 4 月 1 日	生活科学科生活福祉専攻の入学者を 10 名減じ 50 名とする。 幼児教育科の入学定員を 30 名増やし 130 名とする。 生涯学習教育センターを設置。
平成 21 年 4 月 1 日	生活科学科を生活未来科に学科名変更。 生活未来科は専攻課程を廃止し、入学定員を 100 名とする。
平成 22 年 4 月 1 日	幼児教育科を地域こども学科に学科名変更し入学定員を 100 名とする。 日本語教育別科を設置。

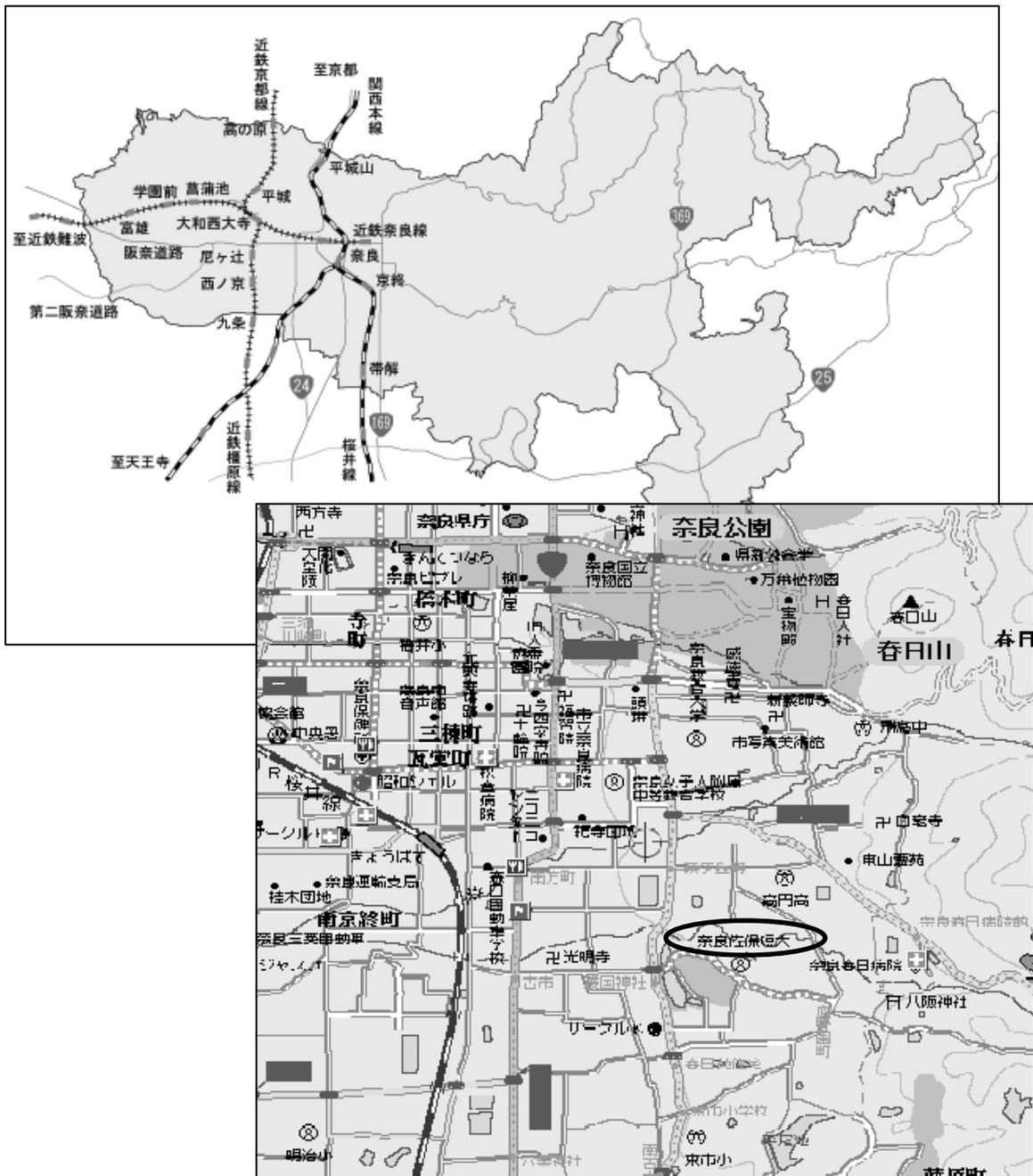
(2) 短期大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等。

① 所在地 奈良市鹿野園町八〇六

② 周囲の状況

本学は世界遺産に指定された多くの史跡に囲まれ、豊かな自然が広がる地域に位置する。奈良市は国際文化観光都市であるとともに、大阪や京都などの大都市に近く、平成 18 年には学研都市の開発にあわせ近鉄けいはんな線が開通し、また 21 年 3 月に阪神なんば線の開通により阪神電車と近鉄奈良線が相互乗り入れし神戸まで直通運転が始まるなど新たな交通網の整備や開発等が進んでいる。

③ 位置



(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、AL Oの氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、TEL、FAX、E-Mail等を記載して下さい。

理事長

氏名	奥村 晶子
連絡先	TEL 0742-63-5015                      FAX 0742-61-6858 E-Mail houjin0@narasaho-c.ac.jp
略歴	昭和30年3月 奈良女子大学理学部化学科卒業 昭和44年3月 理学博士(大阪市立大学) 昭和31年10月 奈良女子大学理学部助手 昭和44年4月 奈良女子大学理学部助教授 昭和62年4月 奈良女子大学理学部教授 平成05年2月 学校法人佐保会学園評議員(平成8年9月まで) 平成08年3月 奈良女子大学理学部定年退職 平成08年9月 学校法人佐保会学園監事(平成17年7月まで) 平成17年8月 学校法人佐保会学園理事就任 平成18年12月 学校法人佐保会学園理事長就任 平成21年8月 学校法人佐保会学園理事長重任

学 長

氏名	大石 正
連絡先	TEL 0742-61-3858                      FAX 0742-61-8054 E-Mail toishi@narasaho-c.ac.jp
略歴	昭和40年3月 京都大学理学部動物学科卒業 昭和42年3月 京都大学大学院理学研究科修士課程動物学専攻修了 昭和47年8月 アルバータ大学大学院博士課程動物学修了 昭和52年4月 奈良女子大学理学部助教授 平成01年4月 奈良女子大学理学部教授 平成18年3月 奈良女子大学定年退職 平成18年4月 奈良佐保短期大学学長就任 平成21年4月 奈良佐保短期大学学長重任

AL O

氏名	宮川 久美
連絡先	TEL 0742-61-3858                      FAX 0742-61-8054 E-Mail miyagawa@narasaho-c.ac.jp
略歴	奈良女子大学文学部国語国文学科卒業 奈良女子大学院文学研究科国文学専攻修士課程修了 昭和54年4月 奈良佐保女学院短期大学初等教育学科助手 昭和57年4月 奈良佐保女学院短期大学初等教育学科講師 平成08年4月 奈良佐保女学院短期大学初等教育学科助教授 平成15年4月 奈良佐保短期大学幼児教育科教授 平成17年8月 学校法人佐保会学園理事・評議員(平成21年7月31日まで)

(4) 平成16年度から22年度までの学科・専攻（通信による教育を行う学科（以下「通信教育学科」という）、専攻科を含み、以下「学科等」という）ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率（%）、収容定員、在籍者数、収容定員充足率（%）を作成して下さい。廃止、募集停止等の学科等を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度5月1日時点とします。

平成16年度～22年度の設置学科、入学定員等

(在籍者数は、毎年度5月1日時点)

学科・専攻名		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	備考
生活未来科	入学定員						100	100	21年度 名称変更 専攻廃止
	入学者数						101	96	
	入学定員 充足率(%)						101	96	
	収容定員						210	200	
	在籍者数						162	195	
	収容定員 充足率(%)						77	97	
生活未来科 (生活科学科 生活福祉専攻)	入学定員	60	60	60	60	50			21年度 名称変更 専攻廃止
	入学者数	52	57	45	28	18			
	入学定員 充足率(%)	87	95	75	47	36			
	収容定員	120	120	120	120	110			
	在籍者数	100	111	101	72	52			
	収容定員 充足率(%)	83	93	84	60	47			
生活未来科 (生活科学科 食物栄養専攻)	入学定員	50	50	50	50	50			21年度 名称変更 専攻廃止
	入学者数	56	57	48	40	40			
	入学定員 充足率(%)	112	114	96	80	80			
	収容定員	100	100	100	100	100			
	在籍者数	89	110	105	89	83			
	収容定員 充足率(%)	89	110	105	89	83			
地域こども学科 (幼児教育科)	入学定員	100	100	100	100	130	130	100	22年度 名称変更
	入学者数	145	160	139	120	87	90	90	
	入学定員 充足率(%)	145	160	139	120	67	69	90	
	収容定員	200	200	200	200	230	260	230	
	在籍者数	318	309	297	261	208	182	178	
	収容定員 充足率(%)	159	155	149	131	90	70	77	
専攻科 福祉専攻	入学定員	30	30	30	30	30	30	30	
	入学者数	16	20	24	31	20	21	13	
	入学定員 充足率(%)	53	67	80	103	67	70	43	
	収容定員	30	30	30	30	30	30	30	
	在籍者数	16	21	25	31	20	21	13	
	収容定員 充足率(%)	53	70	83	103	66	70	43	

〔注意〕 1. 「学科等の名称」欄には7年間に設置された学科等をすべて記載し、設置以前の年度については、

入学定員以下は空欄として下さい。

2. 7年間のうちに学科等の名称変更を行ったことのある場合は、最新の名称で記載し、直下の( )に旧名称を記載して下さい。
3. 通信教育学科の場合、学科等の名称欄に「通信教育」と記載して下さい。
4. 募集停止を行った学科等は、募集を停止した年度の入学定員欄に「募集停止」と記載して下さい。
5. 新たに学科等を新設した場合は、募集年度の入学定員欄に「新設」と記載して下さい。
6. 「入学定員充足率(%)」欄及び「収容定員充足率(%)」欄は、小数点以下第1位を切り捨てて記載して下さい。

(5) 平成19年度～21年度に入学した学生(この事項においては通信教育学科の学生を除く)の出身地別人数及び割合(10程度の区分)を毎年度5月1日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

出身地別学生数(平成19年度～21年度)

地域	19年度		20年度		21年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
近畿	180	95.7	137	94.5	181	94.8
奈良	112	59.6	79	54.5	126	66.0
大阪	40	21.3	19	13.1	29	15.2
京都	15	8.0	21	14.4	13	6.8
三重	7	3.7	11	7.6	10	5.2
滋賀	1	0.5	1	0.7	0	0
和歌山	5	2.7	5	3.5	0	0
兵庫	0	0	1	0.7	3	1.6
北海道	1	0.5	0	0	2	1.1
東北	0	0.0	0	0	0	0
関東	0	0.0	3	2.1	1	0.5
中部	1	0.5	0	0	1	0.5
中国	4	2.1	0	0	0	0
四国	1	0.5	1	0.7	0	0
九州	1	0.5	0	0	0	0
沖縄	0	0	0	0	1	0.5
その他	0	0	4	2.7	5	2.6
合計	188		145		191	

(6) 法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数をそれぞれ平成22年5月1日時点で作成して下さい。

法人が設置する他の教育機関の現状

平成22年5月1日現在

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園	奈良県生駒市鹿ノ台南2-12	—	220	230
奈良佐保短期大学附属河内長野幼稚園	大阪府河内長野市大矢船中町10-1	—	120	50
奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園	岡山県倉敷市徳芳869-116	—	105	103

(7) その他評価員が誤解しないように事前に知ってもらいたい事項や事情があれば、記述して下さい。

本学の前身は、昭和6年に奈良高等女子師範学校(現奈良女子大学)の同窓会(佐保会)が「教養識見ある女性を養成し、社会に貢献できる人材を育成することを目的」として開設した佐保女学院である。昭和40年に学校法人佐保会学園が設立され、同年4月に「女子専門の學術技芸を教授、研究し、実生活に必要な能力を有する教養識見ある女性を育成することを目的」とする佐保女学院短期大学を開設した。当初は家政科のみであったが、昭和42年に家政専攻と食物栄養専攻に変更して栄養士養成課程を開設した。昭和44年には校名を奈良佐保女学院短期大学に変更し、引き続き女子教育に力を注いだ。昭和48年に家政科を家政学科に名称変更し、また小学校及び幼稚園教諭養成を目的とする初等教育学科を開設した。

昭和63年には家政学科を生活科学科に、家政専攻を生活科学専攻に変更して教育内容の進展を図った。平成11年に生活科学専攻から生活福祉専攻を分離、設置して介護福祉士養成を開始した。平成10年ごろから小学校教員を目指す学生が減り、保育士資格を希望する学生が増えてきたことから、平成13年に保育士養成課程を開設し、初等教育学科を幼児教育科に名称変更するとともに校名を奈良佐保短期大学と改称し、男女共学とした。平成15年には1年課程の介護福祉士養成課程として専攻科福祉専攻を開設し、3年で3つの免許・資格を取得できるようにした。平成21年に生活科学科を専攻課程からコース制に変更するとともにビジネスキャリアコースを新設し、併せて生活未来科に名称変更した。また幼児教育科では、得意分野を持った保育者<sup>+</sup>の養成を目指しフィールド制を導入した。22年に幼児教育科を地域こども学科に名称変更し、従来からの幼稚園教諭・保育士資格を取得する幼児教育コースのほかに保育士資格と社会福祉士受験資格を目指す保育ソーシャルワークコースを新設した。また国際交流を進めるため平成21年度から留学生の受け入れを始めたが、これは発展して平成22年の日本語教育別科設置に至っている。

このように、奈良佐保短期大学は時代や社会情勢の変化に合わせて学科や教育内容を改編し、発展してきた。これからも地域とともに歩む短期大学として、時代の要請を敏感に受け止め地域の期待に応えるよう変革していきたいと考えている。

《 I 建学の精神・教育理念、  
教育目的・教育目標》

## 《Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》

### 【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

#### 建学の精神

昭和6年、当時の奈良女子高等師範学校の同窓会(佐保会)が佐保女学院を設立するにあたり、「教養識見ある女性を養成し、社会に貢献できる人材を育成すること」を掲げた。昭和40年、短期大学の開設にあたっては、「女子専門の学術技芸を教授、研究し、実生活に必要な能力を有する教養識見ある女性を育成すること」を謳った。

#### 教育理念

- 1 自律する人
- 2 自己と他者を尊重する人
- 3 事象に自らかかわる人

短期大学基準協会による平成19年度第三者評価において、建学の精神・教育理念について文言を明確にするよう指摘があったことを受けて、自己点検評価室を中心に確定する作業を進め、教授会に提案して平成20年度に文言を確定した。

1. 第6回教授会(平成20年9月8日)において、教育理念の文言を募集することを報告。
2. 第15回教授会(平成21年1月5日)において、原案を提案。
3. 学科等での検討を経て、第17回教授会(同年2月9日)において建学の精神及び教育理念の文言を決定した。16日に教職員集会を開き、建学の精神及び教育理念の文言とその内容について説明し、周知を図った。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

学生便覧、キャンパスライフに掲載し、年度始めに全学生と教職員(兼任教員を含む)に配付している。学生に対しては、入学式・卒業式・年度始のオリエンテーションで建学の精神・教育理念の趣旨を説明し、どのような学生に育ってほしいのかを語っている。このことは、同時に教職員、来賓及び保証人等に建学の精神・教育理念を周知することになっている。

学内や学外に向けては、大学案内・学生募集要項・ウェブサイトに記載して周知している。また教育理念を額装して、学内全事務部署・理事長室・学長室・会議室・第一応接室・第二応接室・食堂・学生ロッカー室・体育館等に掲げることになっている。

〔添付資料：1-A 学生便覧 1-B 学生便覧(専攻科) 2 CAMPUS LIFE2010  
3-A CAMPUS GUIDE2011(短期大学案内) 4-A 学生募集要項〕

### 【教育目的、教育目標について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います（例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

本学は、学則第 1 条においてその教育目的を「学校教育法に則り、専門の学術技芸を教授、研究し、情操を陶冶して、教養識見高く社会の進展に貢献する有能な人材を育成することを目的及び使命とする。」と規定している。

**生活未来科**は、健全で豊かな生活を支える専門的な知識・技術を身につけ、社会に貢献できる幅広い視野と教養を備えた人材を養成することを教育目標としている。（学則第 1 条の 3 第 1 項）

#### 【生活福祉コース】

1. 介護に関する専門的な知識・技術・倫理を習得し、高齢者・障害者の心身の状況に応じた個別性の高い介護が提供できる介護福祉士を養成する。
2. 国家試験対策をカリキュラムに組み込み、全員の合格を目指す。

#### 【食物栄養コース】

1. 全国栄養士養成施設協会が示す「コアカリキュラム」に沿った内容の授業を編成し、バランスの取れた栄養士を養成する。
2. 調理実習や給食管理実習を重視して、調理技術の確実な修得を目指す。

#### 【ビジネスキャリアコース】

1. それぞれの適性を見極めて、各人のキャリア形成を支援し、課題の発見、課題の解決、自己学習力など社会人としての基礎力を身につける。
2. デザインやアート、ものづくり等の科目や現場の見学や体験を通して、豊かな感性を磨き、奈良の自然や文化、伝統工芸等の現状と未来へ継承する意義を学び、地域で活躍できる人材を育成する。

**地域こども学科**は、自ら情操と教養を育み、こどもへの深い理解をもって家族・地域の子育て支援に貢献できる保育者を養成することを教育目標としている。（学則第 1 条の 3 第 2 項）

1. 保育に関する専門的知識と技能を修得し、論理的思考や表現力をもって実践する能力を養う。
2. 学外実習および事前・事後指導において、課題を探求し、自ら振り返り、行動できる能力の修得を目指す。

**専攻科福祉専攻**は、保育を通して身につけた対人援助職としての基本的な知識・技術・価値を発展させ、介護に関する専門的な知識と技術を根拠とした生活支援を行うことのできる質の高い介護福祉士の養成を教育目標としている。（学則第 1 条の 3 第 3 項）

**(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在はどのような方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。**

本学では、平成21年度に中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」を踏まえて3つの方針を策定した。学科の教育目標を基に学位授与の方針を定め、それに沿って教育を展開することとしている。

**生活未来科生活福祉コース**は、「介護実習要項」に教育目標を掲載し学生に周知している。介護総合演習の授業には生活福祉コースの全教員が関わるため、教員に対しても教育目標の周知を図っている。「介護実習要項」は実習施設にも配付している。

**食物栄養コース及びビジネスキャリアコース**は、入学時のオリエンテーションやホームルームにおいて、教育目標の周知を図っている。

**地域こども学科**は、入学時のオリエンテーションで教育目標を説明するとともに、実習指導やフィールド授業などで折に触れ説明し周知している。

**専攻科福祉専攻**は、教育目標について日常の授業で繰り返しその意図を伝えている。

教員に対しては、教育課程の改定を審議する際に教育目標を確認している。入学時及び年度始めのオリエンテーションにおける学生への説明は、同時に教職員に周知を図ることにもなっている。

学科の教育目標及び学士課程教育における3つの方針を大学ウェブサイトに公表している。〔添付資料 1-A 学生便覧、1-B 学生便覧(専攻科)、8 学則〕

#### **【定期的な点検等について】**

**(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。**

建学の精神・教育理念は平成20年度に確定したばかりなので、見直しはしていない。教育目標の点検は、学科構成の変更に際して行われている。

建学の精神・教育理念の点検は、自己点検評価室を中心に行い、教授会、理事会を経て決定される。

教育目標については、学科で点検されたものが教授会の審議を経て決定され、学則改正により確定する。

**(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。**

建学の精神・教育理念の文言確定にあたっては、短期大学教授会における審議の結果を理事会に報告した。理事会で出された意見を踏まえ、再度教授会で審議して最終決定に至った。理事会は、学則改正の審議を通して教育目標の点検に関わるが、現在まで積極的な関与はしていない。点検結果を周知するための施策は、教授会に審議事項あるいは報告事項として提案され、承認又は了承されて実施される。

**【特記事項について】**

(1) この《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

建学の精神・教育理念が確定したことを受けて、本学の教育活動がこれらを踏まえたものになるよう浸透を図る必要がある。本学が配付する文書にこれらを記載することが一般的となるよう、常に教育理念を確認する体制を作っていきたい。

教育目的や教育目標については、学生の状況を見極めつつ学科やコースの会議で常に検討している。

## 《Ⅱ 教育の内容》

## 《Ⅱ 教育の内容》

### 【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

平成22年度に学科改組等を行った場合は、平成21年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

表1 平成22年度 教育課程

(平成22年5月1日現在)

### 基礎教養科目 (生活未来科・幼児教育科・地域こども学科共通)

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考	
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任			
人権と差別	○			2			○		177 (3)	卒業必修	
国語表現法	○			2			○		180 (5)	卒業必修	
英語Ⅰ		○			1			○	147 (4)	} 2単位卒業必修	
英語Ⅱ		○			1			○	83 (2)		
英語Ⅲ		○			1			○	31 (1)		
英語Ⅳ		○			1			○	7 (1)		
英会話		○			1			○	14 (1)		
フランス語Ⅰ		○			1			○	66 (2)		
フランス語Ⅱ		○			1			○	9 (1)		
中国語Ⅰ		○			1			○	- -		平成22年度開講
中国語Ⅱ		○			1			○	- -		平成22年度開講
ドイツ語入門Ⅰ	○				2				放送大学互換科目 0 (0)		
中国語入門Ⅰ	○				2				放送大学互換科目 1 (1)		
韓国語入門Ⅰ	○				2				放送大学互換科目 0 (0)		
社会学	○				2				- -	介必修・社会福祉士選択必修 平成23年度開講	
日本の憲法	○				2			○	133 (2)	介選択必修・教職必修	
生命のつながり	○				2			○	64 (2)	介選択必修	
くらしの文化史	○				2			○	47 (1)	介選択必修	
哲学と人生	○				2			○	- -	平成22年度開講	
心理学	○				2			○	107 (2)	社会福祉士選択必修 健康管理士必修	
文学	○				2			○	46 (1)		
ジェンダー論	○				2			○	16 (1)		
人と自然の共生	○				2			○	25 (1)	健康管理士必修	
国際理解	○				2			○	10 (1)		
宇宙観の歴史と科学	○				2				放送大学互換科目 0 (0)		
文化人類学	○				2				放送大学互換科目 0 (0)		
介護食演習		○			2				提携校科目 2 (1)		
健康管理概論	○				2			○	4 (1)	健康管理士必修	
キャリアデザイン	○				2			○	142 (4)		
数の世界 (キャリアナビⅡ 数学・科学のおもしろさ)	○				2			○	87 (2)		
奈良の自然と文化	○				2			○	9 (1)		
日本語・日本事情Ⅰ		○			1			○	2 (1)		
日本語・日本事情Ⅱ		○			1			○	2 (1)		

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
健康・スポーツ論	○				1		○		117 (3)	教職・保・健必修
健康・スポーツ実習			○		1			○	94 (4)	教職・保必修
情報処理演習Ⅰ		○			1		○		130 (5)	} 医・介事必修
情報処理演習Ⅱ		○			1		○		168 (7)	
情報処理演習Ⅲ		○			1		○		28 (1)	} 教職は2科目必修
情報処理演習Ⅳ		○			1		○		23 (1)	

生活未来科 専門教育科目 (生活福祉コース)

授業科目名	授業形態			単位				教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考
				介護福祉士		社会福祉士 受験資格		専任	兼任	兼任		
	講義	演習	実習	必修	選択	必修	選択					
コミュニケーション演習		○		1					○		- -	平成22年度開講
家族社会学	○			2					○		21 (1)	
社会福祉概論	○			2					○		58 (1)	社会福祉士選択必修
介護概論Ⅰ	○			2					○		51 (1)	
介護概論Ⅱ	○			2					○		51 (1)	
高齢者福祉サービスの制度と実践	○			2						○	51 (1)	
生活レクリエーション	○			2						○	- -	平成22年度開講
介護予防	○			2						○	- -	平成22年度開講
セラピー概論	○			2							52 (1)	
コミュニケーションの基本	○			2					○		51 (1)	
点字・手話		○		1						○	- -	平成22年度開講
生活支援技術Ⅰ		○		2					○		51 (2)	健康管理士科目
生活支援技術Ⅱ		○		2					○		51 (2)	健康管理士科目
生活支援技術Ⅲ		○		2					○		- -	平成22年度開講
生活経営・管理の技法	○			1					○		- -	平成22年度開講
居住環境整備の技法		○		1					○		52 (1)	
家事支援の技法Ⅰ・被服		○		1						○	51 (2)	
家事支援の技法Ⅱ・栄養	○			1					○		- -	健康管理士科目 平成22年度開講
家事支援の技法Ⅲ・調理		○		1					○		- -	平成22年度開講
介護過程Ⅰ	○			2					○		51 (1)	
介護過程Ⅱ		○		1					○		51 (2)	
介護過程Ⅲ		○		1					○		- -	平成22年度開講
介護過程Ⅳ		○		2					○		- -	平成22年度開講
介護総合演習Ⅰ		○		1					○		51 (2)	
介護総合演習Ⅱ		○		1					○		- -	平成22年度開講
介護総合演習Ⅲ		○		2					○		- -	平成22年度開講
介護実習Ⅰ			○	3					○		51 (1)	
介護実習Ⅱ			○	4					○		15 (1)	
介護実習Ⅲ			○	4					○		15 (1)	
発達と老化の理解	○			2						○	51 (1)	健康管理士科目
高齢者の心理	○			2						○	51 (1)	
認知症の理解Ⅰ	○			2					○		51 (1)	
認知症の理解Ⅱ	○			2					○		- -	平成22年度開講
障害の理解Ⅰ	○			2					○		- -	平成22年度開講
障害の理解Ⅱ	○			2					○		- -	平成22年度開講
こころとからだのしくみⅠ(こころのしくみ)	○			2						○	51 (1)	
こころとからだのしくみⅡ(解剖生理学)	○			2						○	51 (1)	
こころとからだのしくみⅢ(生活援助方法論)	○			2					○		51 (1)	
こころとからだのしくみⅣ(嚥下と口腔衛生)	○			2					○		51 (1)	
社会福祉施設経営	○				2						- -	平成23年度開講
施設経営論	○				2					○	- -	平成22年度開講
グリーンプランニングⅠ	○				2				○	○	30 (1)	介護必修

授業科目名	授業形態			単位				教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考
				介護福祉士		社会福祉士 受験資格		専任	兼任	兼任		
	講義	演習	実習	必修	選択	必修	選択					
グリーンプランニングⅡ	○				2			○		○	12 (1)	
医療事務管理総論	○				2					○	-	平成22年度開講
介護事務管理総論	○				2					○	-	平成22年度開講
社会調査法	○					2					-	平成23年度開講
相談援助の基盤と専門職	○					2				○	-	平成22年度開講
相談援助の理論と方法	○					2					-	平成23年度開講
地域福祉の理論と方法	○					2					-	平成23年度開講
福祉行財政と福祉計画	○					2					-	平成23年度開講
社会福祉施設経営	○					2					-	平成23年度開講
社会保障	○					2					-	平成23年度開講
高齢者に対する支援と介護保険制度	○					2					-	平成23年度開講
低所得者に対する支援と生活保護制度	○					2				○	-	平成22年度開講
保健医療サービス	○					2			○		-	平成22年度開講
更生保護制度	○					2					-	平成23年度開講
相談援助演習Ⅰ		○				1			○		-	平成22年度開講
相談援助演習Ⅱ		○				4			○		-	平成22年度開講
相談援助実習指導	○					3			○		-	平成22年度開講
相談援助実習	○					4			○		-	平成22年度開講
資格に必要な単位数				74	8	42						

生活未来科 専門教育科目 (食物栄養コース)

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
社会福祉概論	○			2		○			37 (1)	
公衆衛生学	○			2				○	36 (1)	健康管理士科目
人体の構造と機能Ⅰ	○			2				○	43 (1)	
人体の構造と機能Ⅱ	○			2				○	44 (1)	健康管理士科目
生理学実習			○	1		○			35 (1)	
運動生理学	○			2				○	38 (1)	
生化学	○			2				○	51 (1)	
生化学実験			○	1				○	46 (2)	
食品科学	○			2		○			43 (1)	フードスペシャリスト科目
食品材料学 (加工学を含む)	○			2		○			43 (1)	フードスペシャリスト科目
食品学実験			○	1		○			43 (2)	フードスペシャリスト科目
食品衛生学	○			2		○			38 (1)	フードスペシャリスト科目
食品衛生学実習			○	1		○			35 (1)	フードスペシャリスト科目
基礎栄養学	○			2		○			45 (1)	フードスペシャリスト科目 健康管理士科目
応用栄養学	○			2		○			38 (1)	健康管理士科目
応用栄養学実習			○	1				○	35 (1)	
臨床栄養学	○			2				○	35 (1)	
食事療法論	○			2		○			35 (1)	
食事療法実習			○	1		○			35 (1)	
栄養指導論Ⅰ	○			2		○			43 (1)	フードスペシャリスト科目
栄養指導論Ⅱ	○			2		○			35 (1)	
栄養指導論実習Ⅰ			○	1		○			43 (1)	
栄養指導論実習Ⅱ			○	1				○	35 (1)	
公衆栄養学	○			2				○	35 (1)	健康管理士科目
給食実務論	○			2		○			43 (1)	
給食計画論	○			2		○		○	34 (1)	

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
給食管理実習			○	2		○			34 (1)	
学外実習Ⅰ			○	1		○			33 (1)	
学外実習Ⅱ			○		1	○			24 (1)	
調理学	○			2		○			45 (1)	フードスペシャリスト科目
調理実習Ⅰ			○	1		○			43 (2)	フードスペシャリスト科目
調理実習Ⅱ			○	1		○			43 (2)	フードスペシャリスト科目
調理実習Ⅲ			○	1		○		○	35 (1)	フードスペシャリスト科目
専門調理		○		2		○		○	23 (1)	
育児学	○			2			○		3 (1)	生活未来科共通
食品微生物学	○			2		○			15 (1)	
食育実践演習						○		○	- -	平成22年度開講
ゼミナールⅠ		○		2		○			21 (1)	
食料経済	○			2				○	25 (1)	フードスペシャリスト科目
フードスペシャリスト論	○			2		○			55 (1)	フードスペシャリスト科目
食品の官能評価・鑑別論	○			2		○			25 (1)	フードスペシャリスト科目
フードコーディネータ論	○			2				○	27 (1)	フードスペシャリスト科目
食品加工実習			○	1		○			23 (1)	フードスペシャリスト科目
カラーコーディネータ論	○			2			○		44 (1)	フードスペシャリスト科目
情報処理演習		○		1			○		48 (2)	フードスペシャリスト科目
栄養士免許に必要な単位数				52						
フードスペシャリスト資格に必要な単位数				29						

生活未来科 専門教育科目 (ビジネスキャリアコース)

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
キャリアナビⅠ(職業人意識)	○				2	○		○	6 (1)	
キャリアナビⅡ(数の世界)	○				2	○			5 (1)	
キャリアナビⅢ(ビジネス文書)	○				2			○	- -	平成22年度開講
キャリアナビⅣ(現代社会を読み解く)	○				2	○			- -	平成22年度開講
キャリアナビⅤ(キャリアナビゲーション)	○				2	○		○	9 (2)	
コミュニケーション演習		○			1	○			5 (1)	
文書作成Ⅰ		○			1		○		5 (1)	
文書作成Ⅱ		○			1		○		- -	平成22年度開講
データ処理Ⅰ		○			1		○		8 (1)	
データ処理Ⅱ		○			1		○		- -	平成22年度開講
データベース		○			1		○		- -	平成22年度開講
プレゼンテーション・ビデオ編集		○			1		○		- -	平成22年度開講
ホームページ作成		○			1		○		- -	平成22年度開講
イラスト・画像処理		○			1			○	5 (1)	
2次元CADⅠ		○			1			○	12 (1)	
2次元CADⅡ		○			1			○	- -	平成22年度開講
3次元CADⅠ		○			1			○	- -	平成22年度開講
3次元CADⅡ		○			1			○	- -	平成22年度開講
観光ビジネス	○				2			○	- -	平成22年度開講
地域活性化論	○				2			○	- -	平成22年度開講
カラーコーディネータ演習		○			1		○		30 (1)	
イラストレーション		○			2			○	7 (1)	
クラフトデザイン		○			1			○	10 (1)	
テキスタイルアートⅠ		○			1			○	8 (1)	

授業科目名	授業形態			単位	教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習		専任	兼担	兼任		
テキスタイルアートⅡ		○		1		○		- -	平成22年度開講
奈良の伝統工芸演習Ⅰ		○		2	○			5 (1)	
奈良の伝統工芸演習Ⅱ		○		2	○			- -	平成22年度開講
奈良の自然と文化Ⅰ	○			2	○		○	6 (1)	
奈良の自然と文化Ⅱ		○		1	○			6 (1)	
卒業制作・研究報告		○		4	○		○	- -	平成22年度開講
ゼミナールⅠ		○		2	○		○	26 (3)	

地域こども学科 専門教育科目

授業科目名	授業形態			単位						H21年度履修 人員/クラス	備考				
	講義	演習	実習	幼稚園免許 必修	幼稚園免許 選択	保育士資格 必修	保育士資格 選択	社会福祉士 受験資格 必修	社会福祉士 受験資格 選択			専任	兼担	兼任	
社会福祉	○					2		2		○			81 (2)	社会福祉士選択必修 (科目等履修生1名)	
社会福祉援助技術		○				2				○			75 (2)	(科目等履修生1名)	
障害者福祉	○					2	2			○			19 (1)		
児童福祉	○					2		2			○		72 (2)		
保育原理A	○				2	2				○			84 (2)		
保育原理B	○				2	2				○			88 (2)		
養護原理	○					2				○			85 (2)		
教育原理	○			2		2				○			78 (2)	(科目等履修生1名)	
発達心理学	○			2		2				○			86 (2)		
教育心理学	○			2		2				○			85 (2)		
発達臨床心理学	○			2		2				○			- -	平成22年度開講	
小児保健A	○					2				○			83 (2)		
小児保健B	○					2					○		84 (2)	(科目等履修生1名)	
小児保健実習			○			1				○			84 (3)		
小児栄養		○				2					○		76 (2)		
精神保健	○				2	2					○		75 (2)	(科目等履修生1名)	
家族援助論	○				2	2				○			73 (2)	(科目等履修生1名)	
こどもの発達相談	○				2	2				○			67 (2)		
幼児理解		○		1			1			○			- -	平成22年度開講	
保育課程総論		○		1		1				○			86 (2)		
保育 (健康)		○		1		1				○			74 (2)		
保育 (人間関係)		○		1		1				○			84 (2)		
保育 (環境)		○		1		1				○			83 (2)		
保育 (言葉)		○		1		1				○			89 (2)		
保育 (表現・音楽Ⅰ)		○		1		1					○		70 (4)	(科目等履修生2名)	
保育 (表現・幼児造形Ⅰ)		○		1		1					○		84 (3)		
保育 (表現・身体表現Ⅰ)		○		1		1				○			84 (3)		
保育 (表現・音楽Ⅱ)		○		1	2 科目 必修	1					○		11 (4)	(科目等履修生1名)	
保育 (表現・幼児造形Ⅱ)		○		1		1					○			72 (3)	
保育 (表現・身体表現Ⅱ)		○		1		1					○			75 (3)	
乳児保育		○				2				○			85 (3)		
障害児保育		○			1	1					○		83 (2)		
養護内容		○				1				○			72 (2)	(科目等履修生1名)	
保育方法		○			1	1				○			- -	平成22年度開講	
障害児理解	○					2					○		72 (1)		
保育ソーシャルワーク	○				2	2				○			- -	平成22年度開講	
保育相談	○			1		1					○		71 (2)		
相談援助演習Ⅰ		○				1	1			○			- -	平成22年度開講	
相談援助演習Ⅱ		○				4	4			○			- -	平成22年度開講	
教職論	○			2							○		83 (2)		
教育方法メディア論	○			2						○			74 (2)		
総合演習A・B・C		○		2		2				○			86 (8)		

授業科目名	授業形態			単位			教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	幼稚園免許 必修	保育士資格 選択	社会福祉士 受験資格 必修	専任	兼任	兼任		
保育・教職実践演習(幼稚園)		○		2	2					-	平成23年度開講
国語	○			2	2		○			21 (1)	
文章作法	○			2	2		○			33 (2)	
こどもと自然	○			2			○			62 (2)	
環境教育フィールド演習		○		1	1		○			1 (1)	
生活	○			2			○			14 (1)	
児童文化		○		1	1		○			29 (1)	
音楽Ⅰ		○		2	2		○	○		121 (8)	(科目等履修生4名)
音楽Ⅱ		○		2	2		○			6 (1)	
音楽Ⅲ		○		2	2			○		12 (2)	
器楽合奏		○		1	1			○		35 (1)	
合唱		○		1				○		26 (1)	
造形美術		○		1	1			○		83 (3)	
体育		○		1	1		○	○		84 (3)	
レクリエーション指導法		○		1	1			○		44 (2)	
ゼミナールⅠ		○		2				○		82 (7)	
ゼミナールⅡ		○		2				○		-	平成22年度開講
教育実習			○	5				○		139 (2)	(科目等履修生2名)
保育実習Ⅰ			○		5			○		144 (2)	(科目等履修生3名)
保育実習Ⅱ			○		2	1 科目 必修		○		39 (1)	(科目等履修生1名)
保育実習Ⅲ			○		2			○		19 (1)	
相談援助実習指導	○							○		-	平成22年度開講
相談援助実習	○							○		-	平成22年度開講
資格に必要な単位数				31	19	52	8	42			

### 専攻科福祉専攻 専門教育科目

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考	
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任			
介護に必要な制度の理解	○			2			○			20 (1)	
介護概論Ⅰ	○			2			○			20 (1)	
介護概論Ⅱ	○			2			○			20 (1)	
高齢者福祉サービスの制度と実践	○			2			○			20 (1)	
障害者福祉サービスの制度と実践	○			2			○			20 (1)	
介護予防	○			2				○		20 (1)	
生活レクリエーション		○		2				○		20 (1)	
コミュニケーションの基本		○		1				○		20 (1)	
手話・点字		○		1				○		20 (1)	
生活支援技術Ⅰ		○		2			○			20 (1)	
生活支援技術Ⅱ		○		2			○			20 (1)	
生活支援技術Ⅲ		○		2			○			20 (1)	
生活経営・管理の技法	○			1				○		20 (1)	
居住環境整備の技法		○		1				○		20 (1)	
家事支援の技法Ⅰ：被服		○		1				○		20 (1)	
家事支援の技法Ⅱ：栄養	○			1				○		20 (1)	
家事支援の技法Ⅲ：調理		○		1				○		20 (1)	
介護過程Ⅰ	○			2			○			20 (1)	
介護過程Ⅱ		○		1			○			20 (1)	
介護過程Ⅲ		○		1			○			20 (1)	
介護過程Ⅳ		○		2			○	○		20 (1)	
介護総合演習Ⅰ		○		1			○			20 (1)	
介護総合演習Ⅱ		○		1			○			20 (1)	
介護実習Ⅰ			○	1			○			20 (1)	

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
介護実習Ⅱ			○	3		○			20 (1)	
介護実習Ⅲ			○	4		○			20 (1)	
発達と老化の理解	○			2				○	20 (1)	
認知症の理解Ⅰ	○			2			○		20 (1)	
認知症の理解Ⅱ	○			2			○		20 (1)	
障害の理解	○			2			○		20 (1)	
人体の構造と機能	○			2				○	20 (1)	
現代社会と疾病	○			2			○		20 (1)	
ゼミナール		○			2	○			20 (1)	
資格に必要な単位数				54						

日本語教育別科 専門教育科目

※平成22年度後期から開講

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H21年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
日本語Ⅰa		○		2				○	--	(日本語会話a)
日本語Ⅰb		○		2				○	--	(日本語会話b)
日本語Ⅱa		○		2				○	--	(日本語聴解a)
日本語Ⅱb		○		2				○	--	(日本語聴解b)
日本語Ⅲa		○		2				○	--	(日本語作文a)
日本語Ⅲb		○		2				○	--	(日本語作文b)
日本語Ⅳa		○		2				○	--	(日本語読解a)
日本語Ⅳb		○		2				○	--	(日本語読解b)
日本語Ⅴa		○		1				○	--	(日本語能力試験対策a)
日本語Ⅴb		○		1				○	--	(日本語能力試験対策b)
日本語Ⅵa		○		1				○	--	(進路・編入対策a)
日本語Ⅵb		○		1				○	--	(進路・編入対策a)
日本語・日本事情Ⅰ		○		1			○		--	(日本事情a)
日本語・日本事情Ⅱ		○		1			○		--	(日本事情b)
奈良の自然と文化Ⅰ	○			2			○	○	--	
奈良の自然と文化Ⅱ		○			1		○	○	--	
奈良の伝統工芸演習		○		2			○	○	--	
キャリアデザイン	○				2			○	--	
文学	○				2		○		--	
文書作成		○			1		○		--	(Word)
データ処理		○			1		○		--	(Excel)
英語Ⅰ		○			1			○	--	
英語Ⅱ		○			1			○	--	
スポーツⅠ		○			1		○		--	
スポーツⅡ		○			1			○	--	

〔注意〕

1. 実習には実験、実技を含みます。
2. 講義、演習、実習のうち2以上の方法の併用により授業を行う場合については、該当するそれぞれの授業形態に○印を付して下さい。
3. 前年度の履修人員欄の括弧書き数字は、履修人員を幾つのクラスに分けているかを示します。
4. 前年度の履修人員には正規の学生の履修人員を記入し、その他の学生（科目等履修生等）の履修人員は、備考欄に注記して下さい。
5. 通信教育学科の場合にあつては、備考欄に主たる授業の方法（「印刷教材等による授業」、「放送授業」、「面接授業」、「メディアを利用して行う授業」）の別を「印刷」、「放送」などと略記して下さい。

〔巻末資料3 平成21年度教育課程〕

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

社会人として必要な基礎教養の育成を目指し、「国語表現法」「キャリアデザイン」「国際理解」「数の世界」を開講している。「国語表現法」は、基本的素養として美しい日本語が使えるようになることを期する必修科目である。「キャリアデザイン」「国際理解」「数の世界」は、グローバルな視野を持つ社会人としての力を身につけるための科目として全学生に受講を勧めている。

平成22年度から外国語科目に「中国語」を新設した。「情報処理演習」は、基礎から画像処理・IT活用の応用まで、4段階の授業を開講して、学生のレベルと希望に応じた選択ができるようにしている。

選択科目では、「哲学と人生」など基礎的教養を高める科目、「人と自然の共生」「ジェンダー論」など現代的課題に対応する科目のほか、世界遺産に囲まれた本学の地域性を活かした「奈良と自然の文化」を開講している。

専門教育科目は、それぞれの免許・資格取得に必要な指定科目を中心に、幅広い知識を持つ資格者育成を目指して、隣接する専門領域の科目も加えて教育課程を編成している。授業形態は免許・資格取得の要件として指定されていることが多いが、演習科目と実習科目については、授業を複数開講するなど時間割上の工夫をして、受講者数の適正化に配慮している。

必修科目と選択科目のバランスは免許・資格要件でほぼ決まっているが、それぞれの学科・コースに本学独自の選択科目を5～10科目を開講して選択の幅を広げる工夫をしている。また他の学科・コースの専門教育科目を所属課程外専門教育科目に設定することで科目選択の自由度を高めている。

表2 平成22年度 必修科目開講数と選択科目開講数

		必修科目開講数		選択科目開講数	
		基礎	専門	基礎	専門
生活未来科	生活福祉コース	16	41	23	4
	食物栄養コース	13	32	25	15
	ビジネスキャリアコース	13	3	20	30
地域こども学科	保育ソーシャルワークコース	11	46	28	30
	幼児教育コース	16	39	23	39

1. 選択必修科目は最低必要な必修科目数のみ必修科目に含む
2. 幼稚園教諭・保育士資格とも選択の科目は選択科目に含む

主要な科目には、可能な限り専任教員を配置している。美術や音楽など芸術関係及び医学関係など特殊な技能・資格を必要とする科目、ビジネス現場に対応する科目は兼任教員に委嘱している。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

表3 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格

学 科	資 格	履修方法
生活未来科 生活福祉コース	介護福祉士 訪問介護員2級 社会福祉主事任用資格 社会福祉士受験資格	所属課程において必要単位を修得すれば資格を取得できる
生活未来科 食物栄養コース	栄養士免許 社会福祉主事任用資格	
生活未来科 ビジネスキャリアコース	社会福祉主事任用資格	
地域こども学科	幼稚園教諭二種免許状 保育士資格 社会福祉士受験資格 社会福祉主事任用資格	
専攻科福祉専攻	介護福祉士	

表4 教育課程に関係なく取得する機会を設けている免許・資格名と履修方法

対象学科	資 格	履修方法
生活未来科	医療管理秘書士 医事管理士 介護保険事務管理士 園芸福祉士 福祉住環境コーディネーター 健康管理士一般指導員	関連科目を受講し、認定試験を受験する
生活未来科 食物栄養コース	フードスペシャリスト	所定単位を修得し、認定試験を受験する
地域こども学科	おもちゃインストラクター	講習を受講することで修得する
全学	ピアヘルパー	所定科目を受講し、認定試験を受験する
	日商PC検定 (文書作成・データ活用)	関連科目で受験指導を受け、受験する
	カラーコーディネーター検定 (東京商工会議所)	
	ネイチャーゲーム初級指導員 (～21年度)	関連科目を受講し、認定試験を受験する
	CONEリーダー (自然体験活動リーダー) (～21年度)	
	Eco検定	
	こども環境管理士	
	介護食士3級	提携校で受講し単位を修得する
訪問介護員2級	講習を受講することで修得する	

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等でどのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

基礎教養科目は、できるだけ選択が可能な時間割作成に努めているが、免許・資格取得要件としての必修科目が多いため選択履修の幅は制約される。学生にとっては必修科目だけでもかなりの負担となり、選択科目を受講する学生は少ないのが現状である。

大学等を卒業後本学に入学した学生で既取得単位が認定された者や資格取得を目指さない学生のために、所属課程以外の専門教育科目を「所属課程外専門教育科目」として履修する制度を設け、30単位まで卒業に必要な単位に算入できるよう規定している。

[添付資料 1-A 学生便覧 1-B 学生便覧(専攻科) 5 講義内容]

[参考資料 1~4 時間割等]

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件(必修単位の修得、学生納付金の納付等)を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

卒業要件は、奈良佐保短期大学学則第26条に「2年以上在学し、62単位以上を取得しなければならない。」と規定している。専攻科福祉専攻の修了要件は、学則第51条第3項に「1年以上在学し40単位以上を取得するものとする。」と規定している。卒業に必要な履修単位(必修6単位を含む基礎教養科目12単位)については、学則別表I及び履修規程第3条に規定している。

授業料等納付金の納付は、学則上の卒業要件となっていないが、未納の場合は学則第31条第2項の規定により在学期間の不足を生じるおそれがあること並びに第18条第3号の規定を準用して、実質的に卒業要件としている。

学則等は「学生便覧」に掲載して全学生に配付している。また平成21年度からウェブサイトに掲載し学内だけでなく、学外にも公開している。

これらの規定は、入学時オリエンテーションのほか毎学期始めの履修指導でも説明し周知を図っている。

(奈良佐保短期大学学則)

第26条 本学を卒業するためには、学生は2年以上在学し、別表Iに定める科目を履修して、62単位以上を取得しなければならない。

第27条 本学に2年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

第31条 授業料等納付金は、別表IIに定める年額を次の2期に分けて納入する。

前期 4月1日から4月30日まで

後期 10月1日から10月31日まで

2 前項期日までに納入しない者は出席停止を命ずることがある。

3~5 (略)

第51条 (略)

3 専攻科福祉専攻の修了要件は、1年以上在学し40単位以上を取得するものとする。

第18条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1)～(2) (略)  
(3) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者  
(4)～(5) (略)

(奈良佐保短期大学履修規程)

第3条 基礎教養科目は、必修科目及び選択科目を合わせて12単位以上履修しなければならない。

**(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等。以下「学科長等」という）が記述して下さい。**

基礎教養科目は学科選出の委員からなる教務委員会で検討し、専門教育科目は学科・コースごとに検討・調整し、教育目的や教育目標が達成できる授業内容であるかを確認している。

〔生活未来科長〕生活福祉コースでは、平成 22 年度改定に向けてコース及び学科での教育課程を見直した。また地域こども学科と連携して、社会福祉士受験資格に必要な保育ソーシャルワーク関係の科目を新設した。今後は介護福祉士国家試験に向けて学力等の向上を図るため、内容の精選に努める必要がある。

食物栄養コースでは、調理実習の内容を充実させるため平成 19 年度に「専門調理」を開講した。また「ゼミナール」の授業でシェフやパティシエによる特別講義を年間数回行っていたが、実施回数を増やして製菓実習などの内容を充実させることとした。食育に関する教育の充実のため、農園を整備して野菜を栽培し、収穫物を調理実習に活用し、自然環境を生かした教育を実践する。平成 22 年度に「食育実践演習」を開講し、一年を通じて農園作業の経験を積み、さまざまな行事での食育の実践をする機会の増加を図ることにしている。また介護における食事支援の必要性の高まりから、若羽調理専門学校と協定し、平成 20 年度から介護食士の資格を取得できる「介護食演習」を基礎教養科目に開講した。

〔地域こども学科長〕地域こども学科では、学生の実態にあわせた教育課程の改定を常に検討しており、「音楽Ⅲ」「発達臨床心理学」「保育内容」を開講するとともに内容が重複する科目を廃止するなどの改善を図ってきた。平成21年度から、学生が得意分野を伸ばし自信を持って就職できるようフィールド制を導入し、「保育士<sup>+</sup>」への取組を始めた。また平成23年度に改定が予定されている保育士教育課程の変更に向けて検討を始めている。

#### 【授業内容・教育方法について】

**(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。**

シラバスは「講義内容」として印刷・配付し、ウェブサイトにて公開している。記載事項は、授業担当教員、授業目標(達成度)、15回(通年科目は30回)の授業概要、評価方法のほか、平成22年度から準備学習の項目を追加した。

現在構築中の新しい教務システムではシラバスをウェブサイト上で閲覧できるため、印刷物配付の必要性について検討している。

**(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。**

〔生活未来科長〕学生は、介護福祉士又は栄養士の資格取得のため、資格に直結する科目については意欲を持って授業に臨んでいる。ただし、専門教育科目でも医学・生化学など難解な内容を含む科目では、授業についていけず挫折し資格取得を断念する学生がやや増加している。入学段階で学力にかなりの幅があるため、よりわかりやすい授業の必要性が高まってきている。その一方で、選択科目や基礎教養科目を積極的に受講する学生が減少している。必修科目の履修で精一杯なこと、また経済的事情からアルバイトに追われ時間的余裕のないことが要因と考えられる。社会に出る前の最後の機会なので、専門分野の知識をより深め学習の幅を拡げるために、できるだけ多くの科目を履修するよう指導していきたい。

〔地域こども学科長〕学生は、幼稚園教諭及び保育士の資格取得のため専門教育科目については概ね熱心に受講している。ただし、ピアノ等技術を習得する科目では毎日の練習が欠かせないが、日常的な学習の習慣が身につけていないため再履修しなければならない場合がある。幼稚園教諭及び保育士の2つの資格取得を目指す場合、専門教育科目だけで時間割が埋まり、選択科目を履修できないことがある。教育目標に掲げる「自ら情操と教養を育」む保育者となるために、幅広く履修させる指導が必要である。

〔専攻科長〕本学幼児教育科(現地域こども学科)から進学する学生が多いため専攻科について十分理解できていること、保育士に加え介護福祉士の取得を目指していることから、学習意欲は高い。意欲的に実習に取り組む学生が多く、1年間で大きく成長する姿を見ることが出来る。

**【教育改善への努力について】**

**(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。**

平成18年度から、学生による授業評価アンケートと教員による授業評価アンケートを、前・後期のすべての開講科目で実施している。学生による授業評価アンケートは5段階評価のマーク・カードを使用し、各期の終了前3週間に実施し、教員が回収・封緘して自己点検評価室へ提出している。教員による授業評価アンケートは、学生による授業評価アンケート結果を受けて実施している。

授業評価を開始して3年を経過したので、学生による授業評価アンケートの項目についてFD推進委員会で検討し、平成21年度からは新しい内容で実施している。これに伴い教員による授業評価アンケートの項目も改定し、従来の4段階評価を5段階評価とし、自由記述を「学生による授業評価アンケート結果についての教員の考察」として担当授業科目から1つを選び回答する形式に改めた。

〔参考資料 5～7 学生・教員による授業評価アンケート等〕

**(2) 短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。**

授業改善の取組として、授業評価アンケート(学生・教員)のほか、平成21年度後期から公開授業を実施している。公開授業期間中は原則としてすべての授業を公開し、期間終了後に公開授業検討会を開催する。検討会の内容を踏まえてFD研修会を開催し、授業改善が組織的に進むよう図っている。

〔学長〕自己点検評価室を中心に、FD活動が組織的に行なわれている。FD研修会、授業評価アンケート、公開授業等について、FD推進委員会で検討したものを自己点検評価室で決定して実施している。

今後は、アンケート結果のフィードバックによる授業改善が必要である。また学生の就業力、社会人基礎力を向上させ卒業後の自分の姿を意識させるため、キャリア支援センターを設置し、ここを中心に全学でキャリア教育を推進していく予定である。

〔参考資料 8 規程集 奈良佐保短期大学FD規程〕

**(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。**

〔生活未来科長〕生活福祉コース・食物栄養コースは、専門領域の教員で構成されているため意思疎通を図りやすい。ビジネスキャリアコースでは、ビジネス関連の科目担当を元企業実務家である兼任教員に依頼しているため、コース会議において教育の方向性について話し合い、またテキスト作成を共同で行うなど教員間の連携を図る体制にしている。

〔地域こども学科長〕専門領域が異なる多数の教員から構成されているため、意見の一致を見ることは難しい場合がある。そのため日頃から学科会議等により教育方針を確認し協力する体制をとっている。平成21年度から専門教育科目を数個のグループに分け、それぞれの科目の知識や技術が段階的に身につく内容になっているかどうかの検証を始めた。今後はその結果を踏まえ、更に実力が付く教育課程となるよう教員間の話し合いを深めていきたい。

〔専攻科長〕専任教員は1つの研究室にいたので、日常的に授業の計画や評価について話し合う機会が多く意思疎通を図りやすい。担当科目の進捗状況や学生の理解力などをお互いに把握し、それぞれの科目の展開や進度に活かしている。

## 【特記事項について】

(1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取り組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

### 1) 単位互換制度

放送大学、奈良県立大学、種智院大学と単位互換協定を締結している。本学で開講していない科目を選択科目に設定して履修の幅を拡げている。

### 2) 情報メディア教育

基礎教養科目に4種類の「情報処理演習」を開講している。基礎編はパソコンの基礎的な活用技術の習得を目指し、全学生が履修できる時間割を設定している。またパソコン検定の受験も支援している。応用編ではホームページ作成やパワーポイント活用など発展的な内容としている。

### 3) 国際理解教育

基礎教養科目として「国際理解」「英会話」「日本語・日本事情」を開講し、世界の諸事情について学び、異文化について考える機会を設けている。また平成22年度に日本語教育別科を開設し、留学生の受け入れを推進することで異文化交流の機会を設ける努力をしている。

### 4) 環境教育の取り組み

基礎教養科目「人と自然の共生」「奈良の自然と文化」、専門教育科目「グリーンプランニング」「こどもと自然」を環境問題について考える機会とすると共に、本学の自然環境を活用した園芸福祉や食育活動に取り組み、自然と共生することの重要性を理解させるよう努力している。

### 5) 学科・コースでの取り組み

生活未来科生活福祉コースでは「介護過程」においてグループ・ディスカッションを重ね、結果を発表する。また「介護実習」で自らが展開した介護過程の評価を行い、その内容を事例研究にまとめて発表する。

生活未来科食物栄養コースでは、高齢者施設に就職する者が多く、若羽調理専門学校との単位互換により介護食士の資格を取得する学生が毎年数名いる。

生活未来科ビジネスキャリアコースでは、希望する進路に配慮した実習先でのインターンシップを1回生後期に行っている。現場での体験は、2回生での自己啓発にもなっている。また「ビジネス現場実践」では、企業と連携して学生が役割分担して会社経営を体験する。実務経験を有する教員の指導により、協働・共創の力や意識を育成するようになっている。

地域こども学科では、幼稚園教諭免許状・保育士資格を取得するための学外実習事前・事後指導を個人面談によって丁寧に行い、課題の明確化、行動の振り返り、新たな課題の見出しなど、学生が学外実習を通して課題を解決しながら実践力が身につくように努めている。

### 《Ⅲ 教育の実施体制》

## 《Ⅲ 教育の実施体制》

### 【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数を作成して下さい。

表1 専任教員表

(平成22年5月1日現在)

学科等名	専任教員数					設置基準で定める 教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
生活未来科	4	1	5	1	11	5(2)	-	5	0	
地域こども学科	4	5	3	0	12	10(3)	-	0	0	
(小計)	8	6	8	1	23	15	-	5	0	
〔ロ〕	3	0	1	0	4	-	4(2)	0	0	
(合計)	11	6	9	1	27	15(5)	4(2)	5	0	

#### 〔注意〕

1. 上表の〔イ〕とは短期大学設置基準第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める教員数(昼間または夜間において授業を行う学科が通信教育をあわせ行う場合には、短期大学通信教育設置基準第9条第2項に定める教員数を含む)をいう。ただし、通信教育学科のみを置く短期大学の場合は、短期大学通信教育設置基準第9条第1項別表第1に定める教員数をいう。
2. 上表の〔ロ〕とは短期大学設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める教員数をいう。なお、昼間または夜間において授業を行う学科が通信教育をあわせ行う場合には、短期大学通信教育設置基準第9条第2項に定める教員数を加算して下さい。
3. 上表の〔イ〕および〔ロ〕の欄の( )には、短期大学設置基準第22条別表第1のイの備考第1号に定める教授数を記入して下さい。通信教育学科のみを置く短期大学の場合は、短期大学通信教育設置基準第9条第1項別表第1備考第2号に定める教授数を記入して下さい。
4. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
5. 上表の〔ハ〕とは、助手以外の者で短期大学全体もしくは学科等の教育研究活動に直接従事する教職員(事務職員を除く)をいう(例えば副手、補助職員、技術職員等)。

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書(①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他)を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

[参考資料 9 履歴書 10 研究業績調書 11 担当授業科目名等]

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

教員の採用並びに昇任は、学科長の推薦に基づき学長を議長とする教員選考委員会において、奈良佐保短期大学教員選考基準に従って審議される。採用並びに昇任が認められた者について、学長が正教授会に諮り、その結果を理事長に具申する。

[参考資料 8 規程集 奈良佐保短期大学教員選考規程  
奈良佐保短期大学教員選考基準]

(4) 教員の年齢構成について現状を記載して下さい。

表2 専任教員等の年齢構成表

(年齢は平成22年4月1日現在)

区分	年齢ごとの専任教員数(助教以上)						平均年齢	助手等の平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下			
合計(人)	0	7	6	9	5	0	49.1	31.4	
割合(%)	0	25.9	22.2	33.3	18.5	0			

〔注意〕 1. 上表の助手等とは、助手に加えて助手以外の者で教育研究活動に直接従事する教職員（副手、補助職員、技術職員等）を含む。

年齢構成は、比較的バランスが取れているといえる。50歳代が少ないが、各養成課程教員として要求される資格・経験を備えて人材を得ることが難しい部分があり、またそうした人材の異動がかなり頻繁に起こる実情がある。

(5) 専任教員は、(a) 授業、(b) 研究、(c) 学生指導、(d) その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記4つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去3ヶ年（平成19年度～21年度）程度の教員の担当コマ数（担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む）、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

〔学長〕教員は、授業、研究、学生指導、その他教育研究上の業務に意欲的に取り組んでいる。

教員は十分な準備をして授業に臨んでいる。研究時間の確保は難しい状況にあるが、研究活動に熱心な教員が多い。大学院に入学して研究する教員や、学科・コース間で共同研究をする教員もおり、それぞれに努力している。科研費の採択率は高くないが、毎年申請する努力をしている。また他大学等と連携しての研究も行っている。

学生指導は、クラス担任が学生支援センターと連携して行っている。配慮が必要な学生には個別面談などの細やかな対応を心掛けていることから、教員は学生指導に熱心である。平成21年度は、大学教育・学生支援事業テーマBに「キャリアからリカレント教育へ展開する自律分散型支援プログラム」が採択された。

大学祭や大学展などの行事においても教員が支援している。また公開講座や地域との連携を目的とする学外行事でも、各教員の専門性を生かした幅広い活動を行っている。

授業については、教育課程の変更による授業時間増加に伴い担当時間数が増加していること、学生の多様化により授業に一層の工夫が欠かせない状況となってきた現状から教員の負担が増しており、今後は何らかの対策が必要である。

研究活動は、授業や学生指導、高校訪問のほか休日に開催されるオープンキャンパス、大学祭など種々の行事に時間をとられているが、時間を工夫して研究に取り組ん

でいる。

学外実習では事前・事後の指導が欠かせないが、個人面談を取り入れるなどして丁寧な準備と“振り返り”をしている。学外実習中は授業と平行して巡回指導を行っており、熱意を持って教育に当たっている。

平成20年度経済産業省主催「社会人基礎力育成グランプリ」において、専攻科教員の指導のもとに学生チームが「人に関わることによる成長～介護現場の実践を通して～」というタイトルの発表を行い、全国大会で準大賞及び会場特別賞を受賞した。

専任教員の担当コマ基準は規定していない。平均担当コマ数は年度により変動するが、増加傾向にある。生活未来科(生活科学科)の教授は特任教授を含んでいるため低くなっている。また担当科目には、専攻科開講科目が含まれている。

表 3 a (生活科学科/生活未来科)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平均(3年)
教授	7.0	7.9	5.8	6.9
准教授	7.3	13.0	10.8	10.4
講師	10.8	10.7	11.9	11.1

(幼児教育科)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平均(3年)
教授	9.5	9.5	11.1	10.0
准教授	11.1	11.7	12.2	11.7
講師	10.8	11.4	11.5	11.2

表 3 b 教員の担当コマ数

	氏名	職名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	備考
生活科学科・生活未来科	飯田 明美	特任教授	-	-	1.8	平成21年度後期 就任
	池内 ますみ	教授	12.0	10.6	11.7	
	池原 健二	特任教授	-	0	2.0	平成20年度 就任 平成21年度 退任
	伊藤 幸子	准教授	7.3	13.0	10.8	
	上地 加容子	講師	18.5	-	-	平成19年度 退任
	大石 正	教授	2.0	2.0	3.3	
	川端 泰啓	特任教授	-	-	2.5	平成21年度 就任・退任
	北口 照美	教授	10.0	12.0	8.0	
	笹谷 真由美	講師	6.7	12.1	9.3	
	島村 知歩	講師	8.0	16.3	16.6	
	三浦 さつき	講師	11.0	5.4	11.8	
	安永 龍子	講師	8.5	9.1	10.0	
矢和多 多姫子	教授	4.0	7.2	7.3		
幼児教育科	浅野 友子	教授	13.0	5.8	-	平成20年度後期 退任
	石田 裕子	講師	-	10.2	11.8	平成20年度 就任
	浦田 雅夫	講師	12.0	11.0	-	平成20年度 退任
	奥田 眞紀子	准教授	11.0	15.1	16.0	
	岸 優子	教授	10.0	-	-	平成19年度 退任
	澤田 博	教授	6.0	12.0	12.0	
	潮谷 光人	講師	10.0	11.0	11.7	
	関 智美	教授	11.0	14.1	11.5	
中田 奈月	准教授	14.0	11.0	11.5		

中村 妙子	教授	9.0	7.0	11.0	
中村 恵	講師	-	11.2	11.2	平成 20 年度 就任
古海 忍	准教授	12.0	10.0	12.5	
松本 しのぶ	講師	8.7	-	-	平成 19 年度 退任
森田 婦美子	准教授	9.3	14.1	11.3	平成 21 年度 退任
宮川 久美	教授	8.0	9.0	12.0	
森重 功	准教授	9.2	10.3	9.8	
山口 直範	講師	-	-	11.2	平成 21 年度 就任
和田 公子	教授	10.2	9.2	8.8	

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

〔学長〕生活未来科生活福祉コースに1名、食物栄養コースに4名の助手を配置している。実習準備、授業中の指導補助、授業時間以外での学生指導等において適切に機能している。また実習事務を補助する職員を地域こども学科に1名配置している。しかし、実習先との連絡・調整が多岐にわたるため十分とはいえない状況である。

(7) 2以上の校地（校地が隣接はしていないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外）において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

校地は分散していないので配置していない。

### 【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を作成して下さい。

校舎について、まず短期大学設置基準第31条（通信教育学科を置く短期大学の場合には短期大学通信教育設置基準第10条を含む）の規定による短期大学全体の基準面積（基準面積を算出する計算式を含む）を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途（室名）、専用・共用の別を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

表4 校舎・校地一覧表

(平成22年5月1日現在)

区分	収容定員	校舎			校地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
奈良佐保短期大学	430人	4,150 m <sup>2</sup>	10,748 m <sup>2</sup>	6,598 m <sup>2</sup>	4,300 m <sup>2</sup>	33,579 m <sup>2</sup>	29,279 m <sup>2</sup>

校舎の基準面積=2,600 m<sup>2</sup>+1,550 m<sup>2</sup>=4,150 m<sup>2</sup>

校地の基準面積=10 m<sup>2</sup>×(200+230)人=4,300 m<sup>2</sup>

〔注意〕 1. この項には図面（全体図、校舎等の位置を示す配置図、校地間の距離・校地間の交通手段

- 等を含む)を準備しておいて下さい。
2. 主要校地については訪問調査の際にご案内いただきます。
  3. 基準面積を算出する計算式については、表外に記載して下さい。

表5 短期大学設置基準第31条の規定による短期大学の基準面積

学科の種類	学科名	収容定員	基準校舎面積	加算校舎面積
家政関係	生活科学科	200名	-	1,550 m <sup>2</sup>
教育学・保育学関係	地域こども学科	230名*	2,600 m <sup>2</sup>	-

校舎の基準面積=2,600 m<sup>2</sup>+1,550 m<sup>2</sup>=4,150 m<sup>2</sup>

\*平成22年度のみ

[参考資料 12 校地・校舎図面]

(2) 校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述して下さい。

他の学校との共有部分はない。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。またその使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。なお、2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。

表6 情報機器整備状況

6号館3階	632情報処理演習室	PC:DELL OPTIPLEX330 Windows XP 31台 使用ソフト:Microsoft Office Pro 他4種 プリンター:EPSON LP7000C 1台 プロジェクター:EPSON EMP7800 1台
	633情報処理演習室	PC:DELL OPTIPLEX330 Windows XP 31台 使用ソフト:Microsoft Office Pro 他2種 プリンター:EPSON LP7000C 1台 プロジェクター:NEC VT770 1台 大型プリンター:Canon imagePROGRAF W8400 1台 スキャナー:EPSON ES-7000H 1台
	634情報処理演習室	PC:Fujitsu FMV E620 Windows XP 31台 使用ソフト:Microsoft Office Pro プリンター:Xerox DocuPrint 2000 1台
6号館2階	談話スペース	PC:Fujitsu FMV E620 Windows XP 4台 使用ソフト:Microsoft Office Pro
2号館1階	学生ホール	PC:Fujitsu FMV E620 Windows XP 4台 使用ソフト:Microsoft Office Pro
2号館2階	図書館	PC:Fujitsu FMV E20N231 Windows XP 6台 PC:EPSON BANA842400 Windows2000 1台 プリンター:富士ゼロックス DP2000 1台 テレビデオ:Panasonic TH14AV1 6台 DVD:MITSUBISHI DJ-D270 5台

(情報処理演習室)632、633 教室は主に授業に利用されており、年間を通じて週 15～20 時間の授業が行われている。634 教室は 9 時から 18 時 30 分まで、6 号館 2 階、2 号館 1 階の学生自習用パソコンは 8 時 30 分から 18 時 30 分まで開放しており、レポート作成や授業の調べ物等に利用されている。634 教室は申請すれば 19 時 30 分まで延長利用が可能である。

(図書館)パソコンは 1 日あたり 6～9 人の利用があり、1 日 1 回くらい質問を受けている。AV 機器については 1 日あたり 0.4～0.5 人の利用がある。

**(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況、整備計画等を含む）について、その概要を記述して下さい。2 以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。**

一般教室の機器・備品は学生支援センター教務係で管理し、必要な修理・補充をしている。専門領域に関する機器・備品は、厚生労働省の規定・指導に従って設置し、各学科・コースで管理している。

生活未来科食物栄養コースでは、調理実習室の器具類を順次買い替えている。平成 22 年度には老朽化していた給食管理実習室を改修した。これに伴い調理機器を新調し、スチームオーブン等新しい設備を入れ、HACCP システムを想定した実習が行えるよう整備した。

地域こども学科の練習室のピアノは老朽化しているので、順次買い替えている。機器・備品の整備計画がなく、必要に応じて関係分野の教員から購入・修理の発議が出され、理事長・学長の決裁を経て整備されている。今後は、大学全体としての整備・補修計画の早期策定が望まれる。〔参考資料 13 講義用機器備品整備状況等〕

**(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。**

校地の中央に運動場があり、緊急時の避難場所としている。校舎は、非常階段及び 2 ヶ所以上の出入口を設け、非常時の避難経路を確保している。

障害者への対応については、1 号館と 2 号館にスロープ、3 号館と 6 号館にスロープ、自動扉、障害者用トイレを設置している。すべての校舎が 3 階建であるため、エレベーターは設置していない。

運動場と体育館は、授業時間以外は自由に使用できる。昼休みや空き時間、放課後等に利用されている。体育館は、放課後にクラブが使うことが多い。

校地の東寄りに自然広場があり、学生の憩いの場となっている。学生食堂を兼ねた学生ホールと、6 号館ロビーに休息や談話のできるスペースを設けているが、新たに自然広場横にレストランを新築し、奈良の景観を一望できる休息・談話スペースを設置する予定である。

昭和 56 年 5 月以前に竣工した校舎が多いため、平成 21 年度に耐震検査を実施した。その結果、1 号館を耐震補強する必要のあることが判明し、今年度 8 月に工事を行う。

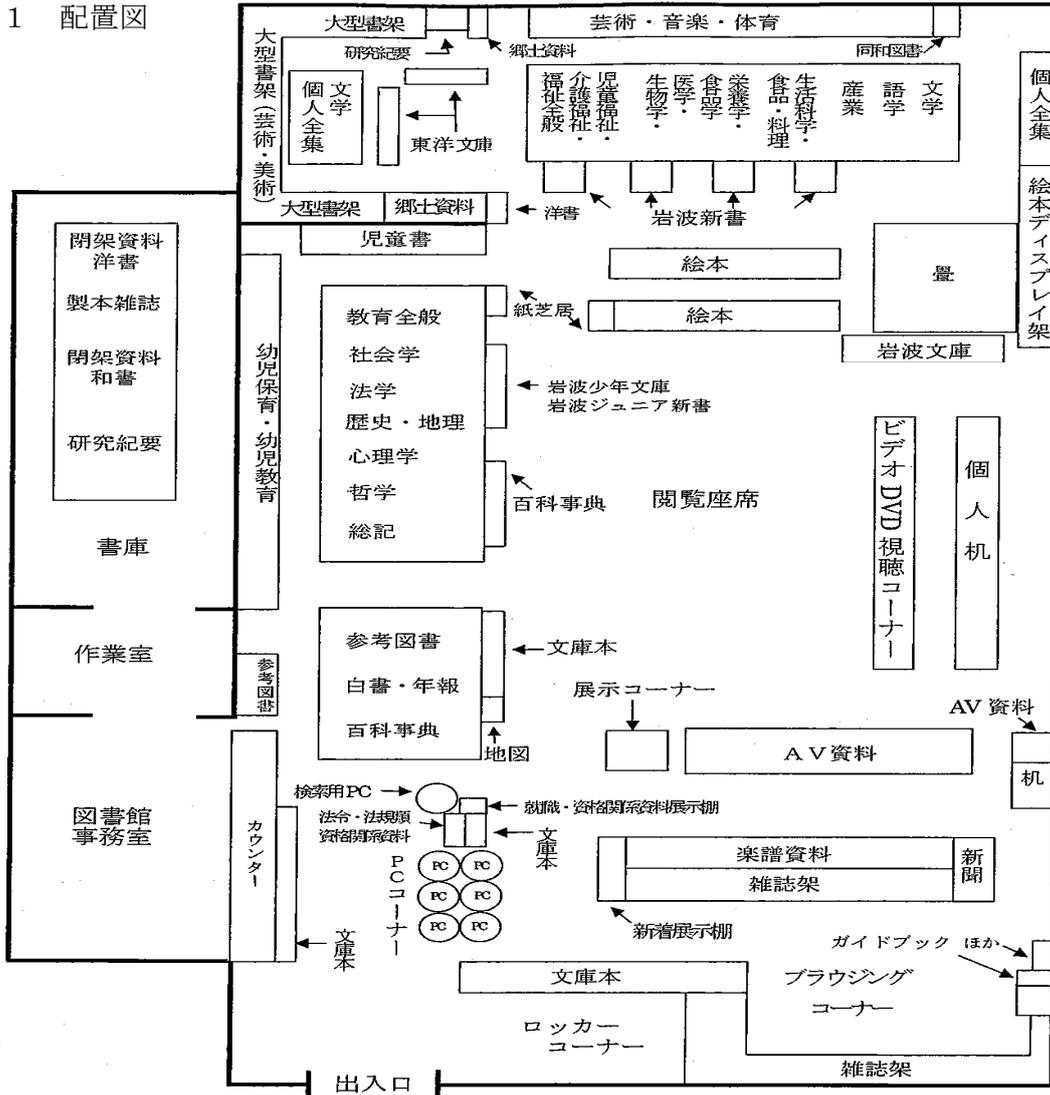
【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

表7 図書館の概要

面積	座席数	図書費	司書数
509.1 m <sup>2</sup>	92 席	3,510 千円	2 名

図1 配置図



購入図書等選定システム

図書資料は、「資料収集管理規程」「資料収集方針」に基づいて選定している。高額資料・専門資料・逐次刊行物については、図書委員会で選定して決定する。授業に関連する参考資料はシラバス作成時に担当教員の選書を受け付けている。また参考となる書評の配信や、平成 18 年度から丸善(株) Knowledge Worker の会員パスワードを全教員が取得することで購入の便を図っている。

図書等の廃棄は「資料除籍取扱内規」に基づいて選定し、図書委員会の議を経て図書館

長が決定する。資産登録された図書館資料については、理事長の決裁を経て除籍を決定し廃棄処理している。

図書館システムの情報化は少しずつ進んでいる。平成 20 年 8 月に Windows 対応で NACSIS/CAT・ILL 接続機能を持つ新図書館システム Lib Max を導入し、図書館専用サーバを購入した。蔵書の外部公開については学校全体のセキュリティ構築という課題が残っているが、システム的には学内はもとより全国の Web 上から蔵書検索を行うことが可能になった。

館内に Web 接続が可能なパソコンを 6 台設置しており、学生が情報検索・レポート作成などで活用している。

[参考資料 8 規程集 図書館規程 図書館利用規程 図書館資料収集管理規程  
図書館資料除籍取扱内規 図書館資料収集方針他 ]

**(2) 図書館等に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、AV 資料数等）を作成して下さい。**

表 8 図書館等蔵書数一覧

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

区分	和書※ <sup>1</sup>	洋書※ <sup>1</sup>	蔵書※ <sup>2</sup>	学術雑誌	AV 資料
冊 (種)	—	—	54, 227 冊	25 種	1, 169 点

※<sup>1</sup> 和書と洋書を分類して統計していない。

※<sup>2</sup> 内容は、基礎教養の基本図書と、介護福祉・食物栄養・幼児教育の専門科目が主となっている。

[参考資料 37 蔵書数・学術雑誌数・AV 資料数・座席数・年間図書館予算]

**(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者（図書館長等）が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。**

図書館資料は、「奈良佐保短期大学図書館資料収集方針」に「学生の学習並びに人格形成および向上に必要な一般教養書を収集する」と定めてあり、これに従って選定している。参考図書は、授業担当教員からの選書を受けて整備している。

[図書館長] 学生の図書館の利用状況は、年度により変動があるものの一人あたりの貸出冊数、貸出件数は増加傾向にあり、活発に利用されている。貸出件数の増加は、特別社会人や聴講生の受入れにより図書館利用が増加したこと、学内の子育て支援センターへの図書館サービスを開始したこと、また授業と連携し図書館利用率をあげる試みを重ねた結果と考えている。

具体的な試みとして、①『資料の探し方講習会』『事例研究のための文献の探し方講座』の開催 ②情報処理演習の授業で「オンラインデータベースの使い方」などの紹介 ③教員と連携した図書館資料を活用する授業の展開 ④新システム Lib Max の“ブックリスト機能”を活用した「児童書を読んでみよう」「昔話・民話の世界」「お薦め絵本」「ビジネスマナーの基本を学ぶ」などがあり、学生の利用サービス向上に努めている。

AV 資料や雑誌架、閲覧機の配置を工夫し、「新着図書」「お薦め本」「各専攻別の資料」などの展示コーナーを設けて学生の興味を惹く工夫をしたり、学科と連携して館内に絵本のディスプレイコーナーや畳ブースを設置するなど実習の場としての図書館の環境整備にも努めている。また各種イベントを主催することによって学生の図書館への関心を促し、専門知識だけでなく教養を身につけることができる場としての図書館の役割を果たしていると考えている。

表 9 図書館利用状況（平成 19 年度～21 年度）

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
入館者(人)	135/日	144/日	110/日
図書貸出数(冊)	22/日	21/日	25/日
	8/人	9/人	10/人

〔参考資料 38 奈良佐保短期大学図書館利用統計数 39 相互利用統計〕

**（４） 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。**

平成 19 年度から『きらっと☆図書館講座 きらきらミニ講座 レクリエーション編 ☆..きらきら よい子の遊び講座..☆』を開催している。“実習に向けてのワンポイント・アドバイス講座” “音楽ボランティアのお話や唱歌・懐メロの実演” “きらきら音楽隊の実演” など様々な講座を開催してきた。また大学祭では、クラブと共催してハンドベル演奏、絵本をアレンジしたペープサートの実演や『えほんのひろば』を開催した。このように「教育・研究をサポートする」「快適な環境で教養を涵養する」ことを目標に、学内への情報発信に努めている。

地域に対しては、平成 21 年度は試験的に祝日の授業日、土・日曜日に開催されたオープンキャンパスの計 5 日一般開放を行った。卒業生やシニアワークプログラム受講者へ利用カードを発行し貸出を含めた利用サービスを行い、公開講座受講者などには閲覧のみの利用サービスを行っている。

平成 21 年 11 月に開設された「奈良市地域子育て支援センター ゆめの丘 SAHO」へ絵本を中心とした資料（月 30 冊）の団体貸出、子育て支援センター職員への利用カード発行、貸出サービスを開始している。子育て支援センター一般利用者は、現在のところ閲覧のみであるが、利用状況をみてサービス内容を検討する。

他の図書館との連携については、平成 18 年度から「NACSIS-CAT/ILL システム」に参加し、相互利用を行っている。私立短期大学図書館協議会近畿地区協議会、奈良県図書館協会大学・図書館部会に参加し情報交換の機会としている。また平成 21 年 5 月から「奈良県立図書館遠隔地返却サービス」に参加し、奈良県立図書館で貸出した資料を本学図書館でも返却できるサービスを始めた。

〔図書館長〕 これまでも様々な取組をしてきたが、今後はより一層地域と連携する大学の図書館という視点からの情報発信及び図書サービスの拡充を図る必要があると考えている。

### 【特記事項について】

(1) この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

#### 1. 公開授業

平成21年度後期から公開授業（参観）を実施している。原則としてすべての授業を公開し、期間中は事前申込をすれば自由に参観できる。専任教員は2回、事務職員は1回の参観を課した結果、職員24名、教員延べ56名計延べ80名の参観があった。平成22年度前期は、職員16名、教員延べ57名計延べ73名の参観があった。

平成21年度後期、平成22年度前期とも期間終了後に公開授業検討会を持ち、検討会での議論を踏まえてFD研修会を開催した。今後は、この取組を基に授業改善の具体的な成果を残していく必要がある。

FD推進委員会では、公開授業実施要領を策定して自己点検評価室に提案した。FD活動を個人レベルから組織的な取組へと高めていく方策を検討したい。

#### 2. 外国人教員

英会話(旧オーラル・コミュニケーション)は、できる限り外国人教員を採用してきた。平成22年度の教育課程変更に伴って新規開講された中国語に、外国人教員を採用した。

[参考資料 40 公開授業関係資料]

## 《IV 教育目標の達成度と教育の効果》

## 《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》

### 【単位認定について】

(1) 「単位認定の状況表」に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。  
 なお、この表は平成21年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

表1 単位認定の状況

(平成21年度卒業生)

### 生活科学科 生活福祉専攻

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法 注1	単位修得状況(%)			最終の評価(%) 注2						
					本試験	追再試験	計	A°	A	B	C	認定	不可	
基礎 教養 科目	心理学	講義	18	②・③	88.9	0.0	88.9	16.7	38.9	22.2	11.1	0.0	11.1	
	文学	講義	6	①・②	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	50.0	
	くらしの文化史	講義	2	②・③・④	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
	日本の憲法	講義	17	①・③	76.5	23.5	100.0	11.8	23.5	0.0	64.7	0.0	0.0	
	人権と差別	講義	17	②・③	100.0	0.0	100.0	0.0	17.6	52.9	29.4	0.0	0.0	
	ジェンダー論	講義	1	②・③	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	人と自然の共生	講義	16	①・②	100.0	0.0	100.0	6.3	12.5	50.0	31.3	0.0	0.0	
	生命のつながり	講義	3	①・②・③	66.7	0.0	66.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	
	奈良の自然と文化	講義	2	①・③・④	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	
	国際理解	講義	1	②・③	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	日本語・日本事情Ⅰ	演習	1	③	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	日本語・日本事情Ⅱ	演習	1	③	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	国語表現法	講義	17	②	94.1	5.9	100.0	58.8	11.8	17.6	11.8	0.0	0.0	
	健康・スポーツ論	講義	19	①・②・③	89.5	0.0	89.5	5.3	5.3	36.8	42.1	0.0	10.5	
	健康・スポーツ実習	実習	17	③	100.0	0.0	100.0	35.3	23.5	29.4	11.8	0.0	0.0	
	情報処理演習Ⅰ	演習	16	②・③・④	93.8	0.0	93.8	31.3	25.0	31.3	6.3	0.0	6.3	
	情報処理演習Ⅱ	演習	11	②・③・④	100.0	0.0	100.0	36.4	36.4	27.3	0.0	0.0	0.0	
	情報処理演習Ⅲ	演習	16	②・③・④	81.3	0.0	81.3	12.5	37.5	31.3	6.3	0.0	12.5	
	情報処理演習Ⅳ	演習	12	②・③	41.7	8.3	50.0	0.0	41.7	0.0	0.0	0.0	58.3	
	英語表現Ⅰ	演習	16	①	81.3	6.3	87.5	12.5	12.5	18.8	43.8	0.0	12.5	
	英語表現Ⅱ	演習	10	①・③	100.0	0.0	100.0	20.0	40.0	30.0	10.0	0.0	0.0	
	アドバンスト・イングリッシュⅠ	演習	4	①・③	100.0	0.0	100.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	
	オーラルコミュニケーション	演習	1	①	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	英会話	演習	4	①・②	100.0	0.0	100.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	
	フランス語Ⅰ	演習	3	①・③	100.0	0.0	100.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	
	フランス語Ⅱ	演習	1	①・③	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	キャリアデザイン	講義	17	①・②・③	88.2	0.0	88.2	5.9	17.6	17.6	47.1	0.0	11.8	
	専門 教育 科目	生活概論	講義	16	①・②	93.8	0.0	93.8	25.0	12.5	50.0	6.3	0.0	6.3
		家族社会学	講義	17	②・④	94.1	0.0	94.1	11.8	52.9	23.5	5.9	0.0	5.9
		生活衛生	講義	2	②・③	100.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
		社会福祉概論Ⅰ	講義	19	①・②・③	78.9	10.5	89.5	10.5	26.3	15.8	36.8	0.0	10.5
		社会福祉概論Ⅱ	講義	17	①・②・③	70.6	29.4	100.0	29.4	5.9	23.5	41.2	0.0	0.0
		グリーンプランニングⅠ	講義	1	②・③	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
老人福祉論Ⅰ		講義	17	①・②・③	76.5	23.5	100.0	5.9	11.8	23.5	58.8	0.0	0.0	
老人福祉論Ⅱ		講義	17	①・②・③	64.7	17.6	82.4	5.9	23.5	11.8	41.2	0.0	17.6	
障害者福祉論		講義	17	①・②・③	88.2	11.8	100.0	11.8	5.9	23.5	58.8	0.0	0.0	
リハビリテーション論		講義	17	①	88.2	5.9	94.1	17.6	35.3	29.4	11.8	0.0	5.9	
社会福祉援助技術		講義	17	①・②・③	41.2	58.8	100.0	5.9	0.0	23.5	70.6	0.0	0.0	
社会福祉援助技術演習		演習	17	②・③	88.2	0.0	88.2	11.8	11.8	23.5	41.2	0.0	11.8	
レクリエーション活動援助法		演習	17	①・②・③	94.1	0.0	94.1	5.9	47.1	41.2	0.0	0.0	5.9	
老人・障害者の心理(老人)		講義	17	①・③	70.6	23.5	94.1	5.9	11.8	17.6	58.8	0.0	5.9	
老人・障害者の心理(障害者)		講義	17	①・③	100.0	0.0	100.0	29.4	17.6	29.4	23.5	0.0	0.0	
家政学概論Ⅰ		講義	18	①・②・③	88.9	5.6	94.4	22.2	33.3	27.8	11.1	0.0	5.6	
家政学概論Ⅱ		講義	17	①・②・③	100.0	0.0	100.0	17.6	35.3	29.4	17.6	0.0	0.0	
調理実習		演習	16	①・②・③	87.5	6.3	93.8	31.3	18.8	12.5	31.3	0.0	6.3	
衣服実習		演習	16	①・③・④	93.8	0.0	93.8	25.0	56.3	6.3	6.3	0.0	6.3	

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法 注1	単位修得状況(%)			最終の評価(%) 注2					
					本試験	追再試験	計	A°	A	B	C	認定	不可
専門教育科目	住居実習	実習	17	①・③・④	47.1	52.9	100.0	17.6	17.6	41.2	23.5	0.0	0.0
	医学一般Ⅰ	講義	17	①・②	100.0	0.0	100.0	17.6	17.6	29.4	35.3	0.0	0.0
	医学一般Ⅱ	講義	17	①	35.3	58.8	94.1	11.8	0.0	11.8	70.6	0.0	5.9
	解剖生理学	講義	17	①・②・③・④	94.1	5.9	100.0	0.0	5.9	23.5	70.6	0.0	0.0
	精神保健	講義	16	②・③	87.5	0.0	87.5	25.0	25.0	31.3	6.3	0.0	12.5
	介護概論Ⅰ	講義	17	①・②・③	100.0	0.0	100.0	17.6	17.6	35.3	29.4	0.0	0.0
	介護概論Ⅱ	講義	17	①・②・③	70.6	23.5	94.1	11.8	5.9	29.4	47.1	0.0	5.9
	介護技術Ⅰ	演習	17	①・②・③・④	100.0	0.0	100.0	11.8	41.2	23.5	23.5	0.0	0.0
	介護技術Ⅱ	演習	17	①・②・③・④	17.6	70.6	88.2	11.8	5.9	0.0	70.6	0.0	11.8
	介護技術Ⅲ	演習	15	①・②・③・④	100.0	0.0	100.0	46.7	13.3	33.3	6.7	0.0	0.0
	セラピー概論	講義	1	②・③	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	形態別介護技術Ⅰ	演習	17	①・②・③	29.4	64.7	94.1	11.8	5.9	11.8	64.7	0.0	5.9
	形態別介護技術Ⅱ	講義	15	①・②・③	93.3	6.7	100.0	20.0	20.0	53.3	6.7	0.0	0.0
	形態別介護技術Ⅲ(手話・点字)	演習	16	①・②・③・④	93.8	6.3	100.0	0.0	12.5	68.8	18.8	0.0	0.0
	居住環境整備の技法	演習	1	①・②・③	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	介護実習Ⅰ	実習	18	②・③・④	83.3	0.0	83.3	11.1	27.8	44.4	0.0	0.0	16.7
	介護実習Ⅱ	実習	15	②・③・④	86.7	0.0	86.7	13.3	40.0	26.7	6.7	0.0	13.3
	介護実習Ⅲ	実習	14	②・③・④	85.7	0.0	85.7	28.6	35.7	21.4	0.0	0.0	14.3
	実習指導Ⅰ	演習	18	②・③	83.3	0.0	83.3	11.1	38.9	33.3	0.0	0.0	16.7
	実習指導Ⅱ	演習	15	②・③	86.7	0.0	86.7	13.3	20.0	53.3	0.0	0.0	13.3
	実習指導Ⅲ	演習	14	②・③	85.7	0.0	85.7	28.6	35.7	21.4	0.0	0.0	14.3
	社会福祉施設論	講義	1	②・③	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	手工芸実習	演習	16	②・③・④	43.8	0.0	43.8	0.0	18.8	25.0	0.0	0.0	56.3
	歌唱	演習	13	③・④	92.3	7.7	100.0	23.1	53.8	23.1	0.0	0.0	0.0
	リズム運動	演習	15	③	100.0	0.0	100.0	33.3	40.0	20.0	6.7	0.0	0.0
	音楽療法	演習	15	①・②・③	93.3	0.0	93.3	6.7	33.3	40.0	13.3	0.0	6.7
ゼミナール(福祉)	演習	14	④	0.0	0.0	0.0	21.4	42.9	21.4	0.0	0.0	14.3	
課程外選択科目	キャリアナビⅠ 職業人意識	講義	1	①・③・④	85.7	0.0	85.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	人体の構造と機能Ⅱ	講義	1	①・②	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	基礎栄養学	講義	1	①	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	調理学	講義	1	①・②・③	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	キャリアナビⅡ 数学・科学のおもしろさ	講義	1	①・③・④	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	キャリアナビⅤ キャリアナビゲーション	講義	1	②・③	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	児童福祉	講義	1	①・②・③	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

### 生活科学科 食物栄養専攻

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法 注1	単位修得状況(%)			最終の評価(%) 注2					
					本試験	追再試験	計	A°	A	B	C	認定	不可
基礎教養科目	哲学と人生	講義	16	②	100.0	0.0	100.0	62.5	25.0	12.5	0.0	0.0	0.0
	心理学	講義	37	②・③	73.0	5.4	78.4	43.2	16.2	13.5	5.4	0.0	21.6
	文学	講義	17	①・②	94.1	0.0	94.1	17.6	52.9	23.5	0.0	0.0	5.9
	くらしの文化史	講義	9	②・③・④	88.9	0.0	88.9	33.3	33.3	11.1	11.1	0.0	11.1
	日本の憲法	講義	9	①・③	77.8	11.1	88.9	22.2	33.3	11.1	22.2	0.0	11.1
	人権と差別	講義	40	②・③	95.0	0.0	95.0	0.0	35.0	37.5	22.5	0.0	5.0
	ジェンダー論	講義	10	②・③	40.0	0.0	40.0	20.0	0.0	10.0	10.0	0.0	60.0
	人と自然の共生	講義	18	①・②	94.4	5.6	100.0	0.0	11.1	33.3	55.6	0.0	0.0
	生命のつながり	講義	8	①・②・③	75.0	12.5	87.5	12.5	25.0	37.5	12.5	0.0	12.5
	奈良の自然と文化	講義	18	①・③・④	77.8	0.0	77.8	11.1	22.2	27.8	16.7	0.0	22.2
	国際理解	講義	3	②・③	66.7	0.0	66.7	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3
	国語表現法	講義	40	②	90.0	5.0	95.0	45.0	20.0	7.5	22.5	0.0	5.0
	健康・スポーツ論	講義	24	①・②・③	87.5	0.0	87.5	8.3	25.0	20.8	33.3	0.0	12.5
	健康・スポーツ実習	実習	13	③	76.9	0.0	76.9	0.0	30.8	15.4	30.8	0.0	23.1
	情報処理演習Ⅰ	演習	3	②・③・④	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0
	情報処理演習Ⅱ	演習	41	②・③・④	73.2	4.9	78.0	53.7	9.8	9.8	4.9	0.0	22.0
	情報処理演習Ⅲ	演習	7	②・③・④	85.7	0.0	85.7	14.3	28.6	42.9	0.0	0.0	14.3
	情報処理演習Ⅳ	演習	6	②・③	50.0	0.0	50.0	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	50.0
	英語表現Ⅰ	演習	39	①	84.6	7.7	92.3	38.5	17.9	23.1	12.8	0.0	7.7
	英語表現Ⅱ	演習	11	①・③	90.9	9.1	100.0	45.5	27.3	0.0	27.3	0.0	0.0
アドバンスト・イングリッシュⅠ	演習	6	①・③	66.7	0.0	66.7	50.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法 注1	単位修得状況(%)			最終の評価(%) 注2					
					本試験	追再試験	計	A <sup>o</sup>	A	B	C	認定	不可
基礎 教養 科目	英会話	演習	7	①・②	71.4	0.0	71.4	0.0	14.3	14.3	42.9	0.0	28.6
	フランス語Ⅰ	演習	23	①・③	87.0	0.0	87.0	26.1	26.1	30.4	4.3	0.0	13.0
	フランス語Ⅱ	演習	4	①・③	75.0	25.0	100.0	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	キャリアデザイン	講義	37	①・②・③	81.1	0.0	81.1	0.0	5.4	24.3	51.4	0.0	18.9
	介護食演習	講義	5	①・③・④	80.0	0.0	80.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
専門 教育 科目	公衆衛生学	講義	36	①・③	75.0	19.4	94.4	5.6	22.2	13.9	52.8	0.0	5.6
	社会福祉概論	講義	39	①・②・③	53.8	38.5	92.3	0.0	12.8	17.9	61.5	0.0	7.7
	人体の構造と機能Ⅰ	講義	38	①・②	86.8	7.9	94.7	26.3	18.4	26.3	23.7	0.0	5.3
	人体の構造と機能Ⅱ	講義	39	①・②	64.1	33.3	97.4	10.3	7.7	12.8	66.7	0.0	2.6
	生理学実習	実習	35	①・②・③	88.6	11.4	100.0	37.1	20.0	28.6	14.3	0.0	0.0
	運動生理学	講義	38	①・②	76.3	23.7	100.0	5.3	28.9	34.2	31.6	0.0	0.0
	生化学	講義	46	②	67.4	0.0	67.4	4.3	4.3	21.7	37.0	0.0	32.6
	生化学実験	実習	41	①・②・③	80.5	0.0	80.5	12.2	12.2	24.4	31.7	0.0	19.5
	食品科学	講義	38	①・②・③	73.7	23.7	97.4	26.3	13.2	34.2	23.7	0.0	2.6
	食品材料学(加工学を含む)	講義	38	①・③・④	86.8	13.2	100.0	28.9	31.6	26.3	13.2	0.0	0.0
	食品学実験	実習	38	①・③・④	97.4	0.0	97.4	23.7	26.3	23.7	23.7	0.0	2.6
	食品衛生学	講義	38	①・③	81.6	18.4	100.0	7.9	39.5	28.9	23.7	0.0	0.0
	食品衛生学実習	実習	35	②・③	94.3	2.9	97.1	25.7	25.7	28.6	17.1	0.0	2.9
	基礎栄養学	講義	39	①	94.9	0.0	94.9	28.2	17.9	20.5	28.2	0.0	5.1
	応用栄養学	講義	38	①	73.7	26.3	100.0	34.2	26.3	18.4	21.1	0.0	0.0
	応用栄養学実習	実習	35	②・③	100.0	0.0	100.0	34.3	40.0	25.7	0.0	0.0	0.0
	栄養指導論Ⅰ	講義	38	②・③	81.6	13.2	94.7	18.4	34.2	15.8	26.3	0.0	5.3
	栄養指導論Ⅱ	講義	35	①・③	80.0	20.0	100.0	17.1	31.4	25.7	25.7	0.0	0.0
	栄養指導論実習Ⅰ	実習	38	②・③	92.1	7.9	100.0	42.1	15.8	23.7	18.4	0.0	0.0
	栄養指導論実習Ⅱ	実習	35	②	100.0	0.0	100.0	22.9	54.3	17.1	5.7	0.0	0.0
	臨床栄養学	講義	35	①	65.7	34.3	100.0	11.4	14.3	25.7	48.6	0.0	0.0
	食事療法論	講義	35	①・②・③	77.1	22.9	100.0	20.0	40.0	14.3	25.7	0.0	0.0
	食事療法実習	実習	35	②・③	100.0	0.0	100.0	28.6	20.0	37.1	14.3	0.0	0.0
	公衆栄養学	講義	35	②	100.0	0.0	100.0	2.9	5.7	20.0	71.4	0.0	0.0
	給食実務論	講義	38	①・②・③	73.7	26.3	100.0	21.1	34.2	23.7	21.1	0.0	0.0
	給食計画論	講義	34	②・③	97.1	2.9	100.0	26.5	32.4	32.4	8.8	0.0	0.0
	給食管理実習	実習	34	②・③	88.2	8.8	97.1	23.5	47.1	20.6	5.9	0.0	2.9
	学外実習Ⅰ	実習	33	②・③・④	100.0	0.0	100.0	24.2	48.5	27.3	0.0	0.0	0.0
	学外実習Ⅱ	実習	24	②・③・④	75.0	0.0	75.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	調理学	講義	39	①・②・③	74.4	23.1	97.4	12.8	28.2	33.3	23.1	0.0	2.6
	調理実習Ⅰ	実習	38	②・③・④	94.7	5.3	100.0	21.1	44.7	13.2	21.1	0.0	0.0
	調理実習Ⅱ	実習	38	②・③・④	89.5	5.3	94.7	18.4	42.1	23.7	10.5	0.0	5.3
	調理実習Ⅲ	実習	35	②・③・④	88.6	8.6	97.1	37.1	25.7	17.1	17.1	0.0	2.9
	食料経済	講義	25	①	100.0	0.0	100.0	20.0	24.0	48.0	8.0	0.0	0.0
	食品微生物学	講義	15	②・③	73.3	0.0	73.3	26.7	26.7	6.7	13.3	0.0	26.7
	フードスペシャリスト論	講義	24	①・②	87.5	0.0	87.5	29.2	25.0	16.7	16.7	0.0	12.5
	食品の官能評価・鑑別演習	講義	25	①・③	72.0	28.0	100.0	28.0	32.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	フードコーディネータ論	講義	27	②・③	92.6	0.0	92.6	3.7	44.4	37.0	7.4	0.0	7.4
	食品加工実習	実習	23	②・③	91.3	0.0	91.3	17.4	56.5	17.4	0.0	0.0	8.7
	カラーコーディネータ論	講義	34	②・③	85.3	2.9	88.2	17.6	29.4	29.4	11.8	0.0	11.8
	情報処理演習	演習	38	②・④	84.2	2.6	86.8	57.9	13.2	7.9	7.9	0.0	13.2
	専門調理	演習	23	②・③	100.0	0.0	100.0	30.4	43.5	8.7	17.4	0.0	0.0
	ゼミナール	演習	16	②・③	6.3	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	87.5
	ゼミナール	演習	21	②・④	76.2	0.0	76.2	14.3	38.1	23.8	0.0	0.0	23.8
	課程 外 選択 科目	テキスタイルアートⅠ	演習	3	③・④	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
奈良の自然と文化Ⅱ		演習	1	②・③・④	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
生活概論		講義	3	①・②	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家族社会学		講義	3	②・④	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
生活衛生		講義	3	②・③	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
老人福祉論Ⅱ		講義	3	①・②・③	33.3	66.7	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
家政学概論Ⅱ		講義	3	①・②・③	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
グリーンプランニングⅡ		講義	2	②・③	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
キャリアナビV キャリアナビゲーション		講義	3	②・③	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
カラーコーディネータ演習		演習	3	②・③	0.0	66.7	66.7	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3
クラフトデザイン		演習	3	②・③・④	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
環境教育フィールド演習		演習	2	③	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
教育心理学		講義	7	①・③	57.1	28.6	85.7	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0	14.3

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法 注1	単位修得状況 (%)			最終の評価 (%) 注2					
					本試験	追再試験	計	A°	A	B	C	認定	不可
選択科目	精神保健	講義	3	①・③	100.0	0.0	100.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
	こどもの発達相談	講義	7	①・②・③	85.7	0.0	85.7	14.3	14.3	28.6	28.6	0.0	14.3

## 幼児教育科

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法 注1	単位修得状況 (%)			最終の評価 (%) 注2					
					本試験	追再試験	計	A°	A	B	C	認定	不可
基礎 教養 科目	心理学	講義	21	②・③	71.4	0.0	71.4	9.5	33.3	9.5	9.5	9.5	28.6
	文学	講義	21	①・②	66.7	0.0	66.7	28.6	19.0	9.5	9.5	0.0	33.3
	くらしの文化史	講義	2	②・③・④	100.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	日本の憲法	講義	82	①・③	68.3	30.5	98.8	3.7	23.2	25.6	46.3	0.0	1.2
	人権と差別	講義	84	②・③	98.8	1.2	100.0	0.0	13.1	78.6	6.0	2.4	0.0
	ジェンダー論	講義	12	②・③	100.0	1.2	101.2	0.0	8.3	75.0	8.3	8.3	0.0
	人間関係論	講義	1		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	人と自然の共生	講義	1	①・②	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	生命のつながり	講義	3	①・②・③	100.0	0.0	100.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0
	奈良の自然と文化	講義	2	①・③・④	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	国際理解	講義	1	②・③	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	国語表現法	講義	84	②	100.0	0.0	100.0	66.7	17.9	8.3	7.1	0.0	0.0
	健康・スポーツ論	講義	82	①・②・③	89.0	6.1	95.1	4.9	25.6	40.2	22.0	2.4	4.9
	健康・スポーツ実習	実習	82	③	100.0	0.0	100.0	31.7	34.1	25.6	7.3	1.2	0.0
	情報処理演習Ⅰ	演習	85	②・③・④	96.5	1.2	97.6	30.6	36.5	20.0	8.2	2.4	2.4
	情報処理演習Ⅱ	演習	85	②・③・④	87.1	9.4	96.5	12.9	31.8	27.1	23.5	1.2	3.5
	情報処理演習Ⅲ	演習	4	②・③・④	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	情報処理演習Ⅳ	演習	4	②・③	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	英語表現Ⅰ	演習	74	①	95.9	4.1	100.0	23.0	32.4	21.6	18.9	4.1	0.0
	英語表現Ⅱ	演習	18	①・③	100.0	0.0	100.0	22.2	22.2	22.2	16.7	16.7	0.0
	ベーシック・イングリッシュⅠ	演習	5	①	100.0	0.0	100.0	0.0	40.0	0.0	60.0	0.0	0.0
	ベーシック・イングリッシュⅡ	演習	1	①	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	アドバンスト・イングリッシュⅠ	演習	2	①・③	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	アドバンスト・イングリッシュⅡ	演習	2		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	英会話	演習	4	①・②	75.0	0.0	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0
	フランス語Ⅰ	演習	69	①・③	98.6	1.4	100.0	17.4	42.0	27.5	11.6	1.4	0.0
	フランス語Ⅱ	演習	6	①・③	100.0	0.0	100.0	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0
キャリアデザイン	講義	69	①・②・③	79.7	1.4	81.2	0.0	11.6	23.2	43.5	2.9	18.8	
中国語入門Ⅰ	講義	1		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
専門 教育 科目	音楽Ⅰ(理論・ソルフェージュ)	演習	123	①・③・④	48.0	3.3	51.2	0.8	8.9	31.7	10.6	2.4	45.5
	音楽Ⅰ(ピアノ)	演習	128	③・④	50.0	0.0	50.0	0.8	8.6	30.5	10.2	2.3	47.7
	音楽Ⅱ	演習	6	③・④	83.3	0.0	83.3	16.7	50.0	0.0	16.7	0.0	16.7
	音楽Ⅲ	演習	14	③・④	92.9	0.0	92.9	14.3	35.7	35.7	7.1	0.0	7.1
	造形美術	演習	83	②・③・④	100.0	0.0	100.0	20.5	71.1	8.4	0.0	0.0	0.0
	体育	演習	83	②・③・④	98.8	1.2	100.0	28.9	34.9	22.9	13.3	0.0	0.0
	国語(書写を含む)	講義	23	①・②	69.6	0.0	69.6	17.4	39.1	8.7	4.3	0.0	30.4
	こどもと自然	講義	68	①・②・③	89.7	7.4	97.1	14.7	25.0	38.2	19.1	0.0	2.9
	生活	講義	14	②・③	85.7	7.1	92.9	35.7	28.6	14.3	14.3	0.0	7.1
	文章作法	講義	39	③	89.7	0.0	89.7	35.9	38.5	15.4	0.0	0.0	10.3
	社会福祉	講義	84	①・②・③	72.6	27.4	100.0	11.9	17.9	17.9	51.2	1.2	0.0
	社会福祉援助技術	演習	82	①・②・③	89.0	9.8	98.8	0.0	29.3	36.6	32.9	0.0	1.2
	児童福祉	講義	82	①・②・③	79.3	18.3	97.6	11.0	17.1	31.7	36.6	1.2	2.4
	保育原理A	講義	84	①・②・③	88.1	11.9	100.0	38.1	23.8	15.5	22.6	0.0	0.0
	保育原理B	講義	87	①・②・③	72.4	17.2	89.7	13.8	18.4	14.9	42.5	0.0	10.3
	養護原理	講義	83	①・②	69.9	27.7	97.6	7.2	9.6	25.3	55.4	0.0	2.4
	障害者福祉	講義	24	①・②・③	75.0	8.3	83.3	12.5	8.3	20.8	37.5	4.2	16.7
	教職論	講義	84	①・②・③	91.7	8.3	100.0	8.3	20.2	31.0	40.5	0.0	0.0
	教育原理	講義	83	①・②・③	81.9	13.3	95.2	1.2	9.6	25.3	59.0	0.0	4.8
	教育学	講義	36	②・③・④	83.3	0.0	83.3	27.8	30.6	22.2	2.8	0.0	16.7
	教育人間学	講義	1	①・②	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	発達心理学	講義	87	①・③	72.4	24.1	96.6	3.4	24.1	34.5	33.3	1.1	3.4
	教育心理学	講義	86	①・③	72.1	24.4	96.5	7.0	10.5	22.1	55.8	1.2	3.5
	小児保健A	講義	84	①・②・③	95.2	3.6	98.8	69.0	17.9	6.0	6.0	0.0	1.2
	小児保健B	講義	84	①・②・③	79.8	16.7	96.4	13.1	19.0	29.8	34.5	0.0	3.6

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法 注1	単位修得状況 (%)			最終の評価 (%) 注2					
					本試験	追再試験	計	A°	A	B	C	認定	不可
専門教育科目	小児保健実習	実習	83	①・②・③	85.5	12.0	97.6	26.5	25.3	15.7	30.1	0.0	2.4
	小児栄養	演習	84	①・②・③	94.0	3.6	97.6	47.6	33.3	15.5	1.2	0.0	2.4
	精神保健	講義	84	①・③	95.2	3.6	98.8	1.2	47.6	34.5	14.3	1.2	1.2
	家族援助論	講義	82	②・③・④	95.1	1.2	96.3	20.7	22.0	29.3	23.2	1.2	3.7
	保育課程総論	演習	86	①・②	94.2	1.2	95.3	10.5	19.8	36.0	29.1	0.0	4.7
	保育 (健康)	演習	81	①・②・③	90.1	9.9	100.0	13.6	27.2	28.4	30.9	0.0	0.0
	保育 (人間関係)	演習	83	①・②・③	100.0	0.0	100.0	18.1	22.9	39.8	19.3	0.0	0.0
	保育 (環境)	演習	83	①・②・③	69.9	30.1	100.0	7.2	20.5	19.3	53.0	0.0	0.0
	保育 (言葉)	演習	88	②・③・④	73.9	14.8	88.6	11.4	19.3	21.6	36.4	0.0	11.4
	保育 (表現・音楽 I)	演習	78	③・④	74.4	1.3	75.6	29.5	34.6	9.0	2.6	0.0	24.4
	保育 (表現・幼児造形 I)	演習	83	②・③・④	95.2	3.6	98.8	26.5	51.8	16.9	3.6	0.0	1.2
	保育 (表現・身体表現 I)	演習	82	③	90.2	8.5	98.8	13.4	29.3	26.8	29.3	0.0	1.2
	保育 (表現・音楽 II)	演習	12	③・④	100.0	0.0	100.0	58.3	33.3	8.3	0.0	0.0	0.0
	保育 (表現・幼児造形 II)	演習	80	②・③・④	100.0	0.0	100.0	26.3	62.5	6.3	5.0	0.0	0.0
	保育 (表現・身体表現 II)	演習	80	①・③・④	98.8	1.3	100.0	22.5	30.0	28.8	18.8	0.0	0.0
	乳児保育	演習	86	①・②・③	81.4	11.6	93.0	20.9	16.3	22.1	33.7	0.0	7.0
	障害児保育	演習	82	①・②・③・④	84.1	13.4	97.6	9.8	23.2	29.3	35.4	0.0	2.4
	養護内容	演習	81	①・②・③	85.2	9.9	95.1	2.5	12.3	38.3	42.0	0.0	4.9
	教育方法メディア論	講義	80	①・②・③	95.0	3.8	98.8	12.5	27.5	21.3	37.5	0.0	1.3
	こどもの発達相談	講義	72	①・②・③	90.3	1.4	91.7	12.5	25.0	40.3	13.9	0.0	8.3
	幼児理解	演習	84	①・②・③	91.7	7.1	98.8	19.0	41.7	19.0	19.0	0.0	1.2
	保育相談	講義	78	①・②・③	93.6	2.6	96.2	14.1	39.7	29.5	12.8	0.0	3.8
	障害児理解	講義	79	①・②・③	92.4	6.3	98.7	10.1	25.3	27.8	35.4	0.0	1.3
	乳児と環境	講義	6	①・②・③	83.3	0.0	83.3	33.3	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7
	合唱	演習	34	②・③・④	91.2	0.0	91.2	29.4	14.7	44.1	2.9	0.0	8.8
	器楽合奏	演習	37	②・③・④	89.2	0.0	89.2	21.6	51.4	8.1	8.1	0.0	10.8
	レクリエーション指導法	演習	48	①・②・③	91.7	0.0	91.7	12.5	60.4	12.5	4.2	2.1	8.3
	児童文化	演習	34	②・③	91.2	0.0	91.2	26.5	41.2	14.7	8.8	0.0	8.8
	環境教育フィールド演習	演習	12	③	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3
	ゼミナール	演習	51	②・③	56.9	2.0	58.8	13.7	27.5	15.7	2.0	0.0	41.2
	総合演習 (A)	演習	77	②・③・④	98.7	0.0	98.7	23.4	36.4	31.2	7.8	0.0	1.3
	総合演習 (B)	演習	7	②・③・④	71.4	14.3	85.7	0.0	28.6	28.6	28.6	0.0	14.3
	教育実習	実習	60	②・③・④	78.3	18.3	96.7	6.7	10.0	40.0	40.0	0.0	3.3
保育実習 I	実習	63	②・③・④	90.5	1.6	92.1	12.7	46.0	20.6	12.7	0.0	7.9	
保育実習 II	実習	39	②・③・④	84.6	0.0	84.6	41.0	23.1	5.1	15.4	0.0	15.4	
保育実習 III	実習	19	②・③・④	89.5	5.3	94.7	15.8	52.6	10.5	15.8	0.0	5.3	
課程外選択科目	キャリアナビⅡ 数学・科学のおもしろさ	講義	1	①・③・④	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	キャリアナビⅤ キャリアナビゲーション	講義	1	②・③・④	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	イラスト・画像処理	演習	1	②・③・④	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	2次元CAD I	演習	1	②・③・④	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	カラーコーディネート演習	演習	1	②・③	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	

## 専攻科 福祉専攻

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法 注1	単位修得状況 (%)			最終の評価 (%) 注2					
					本試験	追再試験	計	A°	A	B	C	認定	不可
専門教育科目	介護に必要な制度の理解	講義	20	①・②・③	80.0	20.0	100.0	5.0	10.0	30.0	55.0	0.0	0.0
	介護概論 I	講義	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	75.0	5.0	15.0	5.0	0.0	0.0
	介護概論 II	講義	20	①・②・③	95.0	5.0	100.0	5.0	20.0	60.0	15.0	0.0	0.0
	高齢者福祉サービスの制度と実践	講義	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	0.0	50.0	45.0	5.0	0.0	0.0
	障害者福祉サービスの制度と実践	講義	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	5.0	40.0	10.0	45.0	0.0	0.0
	介護予防	講義	20	①・③	90.0	10.0	100.0	25.0	20.0	30.0	25.0	0.0	0.0
	生活レクリエーション	演習	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	35.0	40.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	コミュニケーションの基本	演習	20	②・③	100.0	0.0	100.0	25.0	40.0	20.0	15.0	0.0	0.0
	手話・点字	演習	20	①・②・③・④	100.0	0.0	100.0	5.0	50.0	35.0	10.0	0.0	0.0
	生活支援技術 I	演習	20	①・②・③	85.0	15.0	100.0	20.0	55.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	生活支援技術 II	演習	20	①・②・③	80.0	20.0	100.0	30.0	30.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	生活支援技術 III	演習	20	②・③	100.0	0.0	100.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	生活経営・管理の技法	講義	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	30.0	20.0	35.0	15.0	0.0	0.0
	居住環境整備の技法	演習	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	35.0	20.0	30.0	15.0	0.0	0.0

種別	授業科目名	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法 注1	単位修得状況(%)			最終の評価(%) 注2					
					本試験	追再試験	計	A <sup>o</sup>	A	B	C	認定	不可
専門 教育 科目	家事支援の技法Ⅰ：被服	演習	20	①・③・④	70.0	30.0	100.0	20.0	15.0	20.0	45.0	0.0	0.0
	家事支援の技法Ⅱ：栄養	講義	20	①・③	100.0	0.0	100.0	15.0	45.0	15.0	25.0	0.0	0.0
	家事支援の技法Ⅲ：調理	演習	20	②・③	100.0	0.0	100.0	35.0	40.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	介護過程Ⅰ	講義	20	①・②・③	85.0	15.0	100.0	30.0	35.0	5.0	30.0	0.0	0.0
	介護過程Ⅱ	演習	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	5.0	55.0	35.0	5.0	0.0	0.0
	介護過程Ⅲ	演習	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	5.0	40.0	55.0	0.0	0.0	0.0
	介護過程Ⅳ	演習	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	40.0	25.0	30.0	5.0	0.0	0.0
	介護総合演習Ⅰ	演習	20	③	100.0	0.0	100.0	30.0	50.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	介護総合演習Ⅱ	演習	20	③	100.0	0.0	100.0	30.0	30.0	35.0	5.0	0.0	0.0
	介護実習Ⅰ	実習	20	②・③	100.0	0.0	100.0	25.0	55.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	介護実習Ⅱ	実習	20	②・③	100.0	0.0	100.0	35.0	25.0	25.0	15.0	0.0	0.0
	介護実習Ⅲ	実習	20	②・③	100.0	0.0	100.0	30.0	40.0	30.0	0.0	0.0	0.0
	発達と老化の理解	講義	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	20.0	70.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	認知症の理解Ⅰ	講義	20	①・②・③	90.0	10.0	100.0	5.0	15.0	45.0	35.0	0.0	0.0
	認知症の理解Ⅱ	講義	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	25.0	20.0	45.0	10.0	0.0	0.0
	障害の理解	講義	20	①・②・③	100.0	0.0	100.0	15.0	45.0	30.0	10.0	0.0	0.0
	人体の構造と機能	講義	20	①・②・③	85.0	15.0	100.0	30.0	10.0	30.0	30.0	0.0	0.0
	現代社会と疾病	講義	20	①・②	100.0	0.0	100.0	10.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ゼミナール	演習	20	④	100.0	0.0	100.0	85.0	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0

〔注意〕

1. 授業形態欄には、「講義」、「演習」、「実習」（実験、実技を含む）の別を記入し、2以上の方法の併用により授業を行う場合については、該当するものをすべて記入して下さい。
2. 上表の単位取得状況欄の本試、再試等とは単位認定試験を行った場合のことで、短期大学の実態に合わせて適宜記載して下さい。
3. 上表の最終の評価欄の優・良・可とは評価ランクを示したもので、A・B・C等を使用している場合は、短期大学の実態に合わせて適宜記載して下さい。
4. 通信教育学科の場合にあつては、上表に備考欄を設け、主たる授業の方法（「印刷教材等による授業」、「放送授業」、「面接授業」、「メディアを利用して行う授業」）の別を「印刷」、「放送」などと略記して下さい。
5. 授業科目等が昨年度と大幅に変更がある場合には、訪問調査の際に確認させていただくことがあります。

注1 上記の表中《主な単位認定の方法》欄の①～④は、①期末の筆記試験 ②レポート・小論文など課題 ③受講態度（意欲・積極性・理解度）・出席状況など ④その他（発表・作品など）を表している。

注2 《最終の評価》における「認定」は、他大学での既修得単位を認定したものである。

**（2） 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。**

1) 単位認定の方法

学科での単位認定は、それぞれの科目のシラバスに記載した「評価の観点及び方法」に基づいて評価している。平成22年度から評価基準を数値化して記載したので、学生が理解しやすいものとなった。

2) 単位の修得状況

〔生活未来科長〕生活福祉コースでは多くの学生が介護福祉士資格を取得するが、学外施設で介護実習を体験し、介護に向いていないと諦めてしまう学生も存在する。しかし訪問介護員2級資格によって福祉関連事業への就職につながる学生が毎年数名いる。ビジネスキャリアコースは資格取得を主たる目的としていないが、パソコン検定、カラーコーディネーター、医療管理秘書士など実社会で応用できる資格を取得すること、広い視野を身につけるために基礎教養科目を含めて幅広く履修することを指導している。

食物栄養コースでは、専門科目の単位が取れず卒業のみを目指す学生が数名いる。こうした学生には、一般企業への就職を目指してパソコン等の授業を履修するよう指導している。

〔地域こども学科長〕幼稚園教諭免許状・保育士資格の両方を取得するには、卒業に必要な62単位を大きく超えて80単位以上を修得しなければならないため、取得が困難な学生もいる。そのため、日頃から実習担当者や担任による面談を繰り返し、ピアノ学習については進度を自分で把握できる表を作成させ、2年間で免許・資格が取得できるよう促している。学外実習は綿密な指導が必要となるので、原則として科目等履修生としての履修を認めず、卒業延期制度による取得を支援している。

### 3) 評価の現状

両学科とも科目により状況に差が見られるものの、評価は概ね厳正に行われていると理解している。同じ学生が数教科において単位不認定となるケースが多く、明らかに学生の努力不足が見られることが多い。こうした努力不足の学生や勉学意欲の低い学生を、どのように引き上げていくかが今後の課題である。

〔専攻科長〕学生は、介護福祉士資格取得を目的として入学してくる。国家試験が導入される平成24年度入学生までは、必要単位の修得が直接資格の取得となることから、介護福祉士として介護の根拠を明確にできる知識を得たかの視点で単位認定を行っている。

### (3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

〔学長〕単位認定は、平常の授業態度や定期試験、レポートなどにより適正になされていると考えている。年々学生の基礎学力が低下し単位修得できない学生が増加している。評価基準について協議を必要とする状況ではあるが、免許・資格を授与する養成機関としては厳正な単位認定が必要なため、免許・資格を取得できずに卒業する学生もいる。努力不足や勉学意欲の低い学生への対応は今後の課題であるが、基礎学力の底上げのための基礎教養科目などを新に開講するなどしている。

### 【授業に対する学生の満足度について】

#### (1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

学生による授業評価アンケート実施期間（平成21年度）

前期 7月6日（月）～7月23日（木）

後期 12月7日（月）～12月18日（金）

授業担当教員が、授業時間内にアンケートについて説明し用紙を配付する。学生が記入後回収・封緘して、学生支援センター教務係に提出する。集計後の結果は、授業ごとの個人集計は授業担当教員にのみ配付し、全体集計については本学ウェブサイトへ掲載し、併せて教授会において構成員に配付して概要を報告している。

授業の実態を表す授業評価アンケートとなるように、平成21年度にアンケート項目を見直した。授業改善に向けての情報や方法を共有していくことで、大学全体のFDが活性化していくものと考えている。

[参考資料 5・7 学生による授業評価アンケート等]

**(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。**

〔生活未来科長〕教員は、授業の終わりに質問や感想を書かせるなどさまざまな創意工夫を重ねており、学生の理解や満足度に配慮している。しかし学力格差もあるため、限られた時間の中で全ての学生が十分に理解し、満足度の高い授業が実現できているとは言い切れない。理解が困難な学生に対しては質問に答えることや、講義内において噛み含めるよう指導することを心がけている。学生との遣り取りの中で授業についての意見や要望を聞くことがあれば、授業担当者に伝えるようにしている。

〔地域子ども学科長〕学生による授業評価アンケート結果は全体として良好であり、授業満足度は2回生より1回生のほうが高い傾向にあった。ただし予習・復習が十分にされていないという結果も得られたので、今後は授業外でも意欲的に勉学に励むよう指導していくように努めたい。

〔専攻科長〕授業に対する満足度は、例年高い。保育士養成施設での経験や社会人としての経験を持つ学生なので、勉学に対する意識が高く、授業目的が明らかであることがその理由であると考えられる。しかし年々学生の基礎的な学力は低下しており、学生の満足度と習熟度は同じではないため、常に評価と分析を行うことが今後の課題である。

**(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。**

〔学長〕授業に対する学生の満足度については、アンケート結果からほぼ良好な状況と考えている。ただし、学生の学力が低下してきている現状で、いかに学力をつけさせるかは今後の検討課題である。学科全体、大学全体の問題として課題を共有し、工夫と努力及びその成果を共有することで、教育目標のさらなる達成に向けて努力しなければならないと考えている。

**【退学、休学、留年等の状況について】**

**(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の退学、休学、留年等の数を学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。**

表2 退学・休学・留年の状況（平成22年3月31日現在）

生活未来科 生活福祉コース

	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
入学者数	28	18	54	
うち退学者数	5	1	3	
うち除籍者数	1	1	0	
うち休学者数	4	1	1	休学継続中・復学・退学者含む
休学者のうちの復学者数	1	0	0	
うち留年者数	1	0	0	2年以上在籍した者
卒業生数	23	16	-	

生活未来科 食物栄養コース

	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
入学者数	40	40	43	
うち退学者数	3	1	1	
うち除籍者数	2	0	0	
うち休学者数	4	3	0	休学継続中・復学・退学者含む
休学者のうちの復学者数	0	1	0	
うち留年者数	0	1	0	2年以上在籍した者
卒業生数	35	38	-	

生活未来科 ビジネスキャリアコース

			21年度入学	備考
入学者数	-	-	5	21年度開設
卒業生数	-	-	-	

幼児教育科

	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
入学者数	120	87	90	
うち退学者数	7	7	7	
うち除籍者数	1	2	1	
うち休学者数	6	5	5	休学継続中・復学・退学者含む
休学者のうちの復学者数	0	2	0	
うち留年者数	5	6	0	2年以上在籍した者
卒業生数	111	73	-	

専攻科 福祉専攻

	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
入学者数	31	20	21	
うち退学者数	3	2	1	
うち除籍者数	0	0	0	
うち休学者数	2	0	0	休学後退学
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数	0	0	0	1年以上在籍した者
卒業生数	28	18	-	

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について学科等ごとに記述して下さい。

1) 退学理由

**生活未来科** 主なものは進路変更と経済的事情である。授業や学外実習を通して自分は「介護」に向いていないと感じて進路変更を申し出る学生がいる。

**地域こども学科** 退学理由は、主として進路変更と経済的理由である。保育者を目指して入学したが学習すべき内容が多く、実習に向けての指導も厳しいことから学業についていけなくなり欠席が多くなる場合が多い。経済情勢が再び悪化しているので、家庭の経済状況から、勉学を続けられないケースも見受けられる。

**専攻科福祉専攻** 退学の主な理由は進路変更が多く、一部は実習及び実習での学びをまと

める修了論文の単位が修得できず退学となるケースがある。

## 2) 指導の状況

両学科とも、退学や休学を申し出た学生に対してはクラス担任が面談し、状況の把握に努める。その後必要に応じて、保証人、学生支援センター長、学科長等が同席して面談を行い、学生にとって望ましい進路について検討する。その結果やむを得ず退学や休学になることもあるが、進路について考える時間を置くことで、退学から休学に変わることもある。経済的理由を挙げる学生に対しては、奨学金制度の最大限の活用などを個別に指導している。

休学者については、休学期間終了前に大学から文書を送り、終了後の希望を問い合わせている。退学を希望する場合は、上記の手続きをとり、休学延長、復学の場合は必要な書類の提出を待って教授会に諮られる。

留年者に対しては、担任が中心となり最短期間で卒業できるように指導を行っている。

### **(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。**

〔生活未来科長〕近年退学、休学、留年等の学生は減少してきている。平成21年度に生活未来科への学科名称変更に伴い専攻課程を廃止してコースを導入した。専攻課程では、他専攻での受講が困難なため退学や休学に至るケースが多かったが、コース制で科目選択の幅が広がったため、資格を断念した場合も就職に必要なスキルを身につける科目を選択することで、学業を続ける目標を見出し卒業を目指すことができるようになった。

〔地域こども学科長〕止むを得ず退学や休学、留年する者が存在するが、ここ3年間大きな変化はない。最大の問題は勉学意欲がなくなることである。入学時点で免許・資格の取得に強い思いを持たない学生は、入学しても何を学んでいるのか分からず、大学への興味が失せてしまうことに原因があると考えられる。意欲をどのように上げていくかが今後の課題である。

〔専攻科長〕退学者、休学者は減少している。進路変更による退学は止むを得ないと考えるが、できるだけ少なくするため、在学生については出願手続き前に必ず個人面談を行って入学理由を確認し、学習内容を説明している。また入学前の課題として、高齢者のボランティア体験や修了論文発表会への参加を促し、専攻科での学びを事前にイメージしてもらっている。

### **(4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。**

〔学長〕退学、休学については、できるだけ少なくするように各学科・コースで努力しており、ある程度の成果が上がってきている。入学後早期に自分の適性と進路のミスマッチを知るようキャリアガイダンスを徹底する必要があると考えている。

**【資格取得の取組みについて】**

(1) 《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3)(8ページ)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況(取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等)を学科等ごとに示して下さい。

表3 【教育課程について】で報告した免許・資格の取得状況

生活科学科生活福祉専攻

免許・資格	20年度			21年度		
	取得希望者	取得者	取得割合	取得希望者	取得者	取得割合
介護福祉士資格	26	25	96%	17	12	71%
訪問介護員2級	2	2	100%	3	3	100%
社会福祉主事任用資格	25	25	100%	17	17	100%

生活科学科食物栄養専攻

免許・資格	20年度			21年度		
	取得希望者	取得者	取得割合	取得希望者	取得者	取得割合
栄養士免許	36	31	86%	38	30	79%
社会福祉主事任用資格	20	20	100%	26	26	100%

幼児教育科

免許・資格	20年度			21年度		
	取得希望者	取得者	取得割合	取得希望者	取得者	取得割合
幼稚園教諭二種免許	103	84	82%	84	52	63%
保育士資格	103	79	77%	84	48	55%
社会福祉主事任用資格	103	100	97%	84	82	98%

専攻科福祉専攻

免許・資格	20年度			21年度		
	取得希望者	取得者	取得割合	取得希望者	取得者	取得割合
介護福祉士資格	18	18	100%	20	20	100%

表4 教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況

免許・資格	19年度			20年度		
	取得希望者	取得者	取得割合	取得希望者	取得者	取得割合
福祉住環境コーディネーター	0	0	0%	0	0	0%
健康管理士一般指導員	3	3	100%	0	0	0%
フードスペシャリスト資格	11	9	82%	20	13	65%
おもちゃインストラクター	17	17	100%	-	-	-
ピアヘルパー	20	18	90%	18	14	78%
日商PC検定(文書作成)	13	4	31%	4	1	25%
日商PC検定(データ活用)	0	0	0%	0	0	0%
カラーコーディネーター検定	0	0	0%	0	0	0%
ネイチャーゲーム初級指導員	3	3	100%	8	8	100%
CONEリーダー	3	3	100%	8	8	100%
介護食士3級	-	-	-	6	4	67%
訪問介護員2級	-	-	-	29	29	100%

**(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。**

生活福祉コースでは、平成22年度に社会福祉士受験資格を導入し、そのために必要な科目を新設した。

幼児教育科は、平成22年度に地域こども学科へ学科名称変更し、幼児教育コースと保育ソーシャルワークコースを設けた。保育ソーシャルワークコースでは、卒業後に2年間の相談業務を経て社会福祉士受験資格が得られるよう科目を新設した。

**【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】**

**(1) 学科等ごとに専門就職（当該学科等で学習した分野に関連する就職）の状況（専門就職数、割合等）について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。**

専門職への就職率は、生活科学科生活福祉専攻が平均 73%、同食物栄養専攻が平均 47%、幼児教育科が平均 50%、専攻科福祉専攻が平均 95%である。食物栄養専攻、幼児教育科の平成 21 年度の数字が低いのは一般職を含め、雇用情勢悪化の影響があると考えられる。

表5 専門就職の状況

生活科学科生活福祉専攻

卒業年度	卒業生数 人数	専門職 介護福祉士	
		人数	%
19年度	37	26	70.3
20年度	26	20	76.9
21年度	17	12	70.6

生活科学科食物栄養専攻

卒業年度	卒業生数	専門職		専門職の内訳					
				栄養士		調理員		食品関係	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
19年度	41	20	48.8	15	36.6	1	2.4	4	9.8
20年度	36	17	47.2	11	30.6	3	8.3	3	8.3
21年度	36	16	44.4	15	41.7	-	-	1	2.8

幼児教育科

卒業年度	卒業生数	専門職		専門職の内訳					
				幼稚園		児童福祉施設		幼児関連施設	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
19年度	124	63	50.8	11	8.9	52	41.9	-	-
20年度	103	56	54.4	8	7.8	45	43.7	3	2.9
21年度	84	38	45.2	4	4.8	32	38.1	2	2.4

専攻科福祉専攻

卒業年度	修了生数	専門職		専門職の内訳					
				介護福祉士		幼稚園		児童福祉施設	
	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
19年度	28	27	96.4	15	53.6	2	7.1	10	35.7
20年度	18	16	88.9	9	50	-	-	7	38.9
21年度	20	20	100	14	70	1	5	5	25.0

[参考資料 14 専門就職先からの卒業生の評価に関する文書]

(2) 卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

卒業生に対する就職先からの評価に関する資料は特に収集していない。学外実習の巡回指導で訪問した職場にいる卒業生については概ね良い評価を聞いている。生活福祉コースでは、実習先の介護現場から就職を勧められる事も多く、このことは卒業生に対する評価が高いことの現れと考えている。

[学長] 就職率は、各学科・専攻とも高い水準を維持している。専門就職先からも概ね良い評価を得ていることは重要である。この評価を維持するために、一層の努力が必要と思われる。学生は学外での実習を経験することにより大幅に成長すること（社会人基礎力の育成）が認められること、また実習が就職に結びつくケースも多いので、実習を重視したさらなる教育の推進を期待する。

[生活未来科長] 生活福祉コースは、介護の仕事を長く続けている卒業生が多い。卒業生が働いている施設で在学生在が学外実習をすることもあり、職場での評価は概ね良好である。食物栄養コースは、管理職として第一線で活躍している卒業生もいる。卒業生がいる職場に後輩が就職することも多いが、一方で労働条件の厳しさや人間関係が難しく離職する場合もある。

〔地域こども学科長〕平成20年度は54.4%の卒業生が専門を活かして就職や進学をしたが、平成21年度は45.2%しか専門性を活かすことができなかった。その原因として、勉学意欲が低いため免許・資格を取得できない、あるいは学外実習で現場の厳しさを感じ取得を辞退する学生の増加があげられる。保育者に求められる要件を入学前から説明し、強い意識を持って入学するよう導くと共に、意欲の低い学生に対する初期教育の実施やキャリアデザインによる動機付けが必要と考える。

**(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。**

どの学科も卒業後評価等に関するアンケート調査は継続して実施していない。また同窓会との組織的な連携は、現在のところ行っていない。

**生活未来科生活福祉コース** 平成21年度厚生労働省福祉人材確保緊急対策事業「潜在的有資格者等養成支援事業介護福祉士のためのソーシャルアロマセラピスト資格取得講座」を卒業生全員に案内したところ5名の参加があり、ソーシャルアロマセラピスト講座の修了書を取得した。ふだんから大学への卒業生の来訪は多く、職場での悩み及び進路相談などを行っている。同窓会総会には時間の許す限り参加している。今後は、卒業生が意見交換ができる交流会などの開催を検討したい。

**生活未来科食物栄養コース** 毎年行っている「卒業生のつどい」を、平成21年度は大学祭の日に開催し、次年度に改訂される日本人の食事摂取基準(2010年版)についての解説を行った。最新情報の発信などの卒後教育を継続して行い、職場での情報交換も行っている。平成18年度に卒業生対象のアンケートを実施したところ「日程の調整や短大まで出向くことが難しい」という回答があったので、今後は受講しやすい体制を整え、管理栄養士国家試験に向けての支援を行う必要がある。

**地域こども学科** 講演会の開催案内を卒業生に送り、卒後教育に繋げている。実習指導の授業に現役で働く卒業生を招き、在学生と交流している。在学生にとっては卒業後のイメージが持て、かつ進路について前向きに考える効果がある。卒業生は、技術の向上や卒業生同士の情報交換などを望んでおり、交流の機会を増やして欲しいとの声も聞いている。今後は卒後教育に力を入れて行きたいと考えている。

**専攻科福祉専攻** 修了論文発表会は修了生全員に案内し、毎年2～3割の修了生が参加して意見交換を行なっている。発表会には修了生の就職先での実践報告も募集し、平成20年度2件、21年度6件の発表があった。教育効果は数値化できるものではないが、修了生から在校生へ情報や仕事に取り組む姿勢が受け継がれていく機会になっていると考えている。

**(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。**

〔生活未来科長〕介護福祉士、栄養士の資格取得者は職場への定着率も高く、それぞれの職務をこなしていると見ている。平成21年度に学生支援プログラムGPが採択されたのを機に卒業生の就職先との情報交換等を行い、データベースを構築していく予定である。

〔地域こども学科長〕卒業生について、頑張っているという声を聞く半面、就職後1年以内に辞めてしまう場合もある。また小規模の園が多いので、対人関係から離職する場合があるが園が変わる事によって長く働ける者もいる。私立に就職した男子学生では待遇を理由に離職するケースが多く、幼稚園や保育所の待遇改善を期待したい。

〔専攻科長〕実習先へ就職した卒業生の評価は高く、例年強く就職を求められている。重要な役割（リーダー、主任、副施設長）に就く者も多く、また社会福祉士、看護師、理学療法士等更なる資格を求めて勉強を続ける修了生も多い。

#### 【特記事項について】

(1) この《IV教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

生活未来科生活福祉コースでは、「介護概論」や「介護総合演習」において介護福祉士に必要な理念、態度、職業倫理などを徹底的に指導している。また「介護過程」の展開に必要な情報収集用紙を始めアセスメントシート、個別援助計画用紙を使いやすいものへ変更している。

地域こども学科の実習指導では、教育理念を基とし、保育者養成理念に沿って教育している。保育者養成理念は実習の手引きに掲載しており、最初の授業で説明するとともに、折に触れ理解を深めさせ、保育者になるための資質向上を目指している。平成21年度から学生が興味ある分野を選択し、自分の得意分野を伸ばし自信に繋げていく試みとしてフィールド制を設け、複数教員が少人数の学生を指導する体制をとっている。また入学前学習指導としてピアノ初歩者を対象に特別講習を実施したり、入学後も実習に向けてハードルを設定し学習意欲を継続するようにしている。これにより、ピアノ技術が年々上昇していることを実感している。

〔参考資料 54 生活科学科生活福祉専攻事例研究集 55 専攻科福祉専攻修了論文集〕

## 《V 学生支援》

## 《V 学生支援》

### 【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

教育理念は、大学案内と学生募集要項に掲載している。また高等学校の進路担当教員を対象とする入試説明会において、建学の精神・教育理念及び学科等の教育目的について説明し、それぞれの学科・コースが求める学生像について話している。

しかし、大学が発信すべき重要な情報の一つが建学の精神・教育理念であるということがまだ十分理解されていないので、この認識を学内に浸透させる必要がある。

[添付資料 3-A CAMPUS GUIDE2010 3-B 専攻科福祉専攻 3-C 日本語教育別科  
4-A 学生募集要項]

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）は、今年度は学生募集要項に別紙として入れたほかウェブサイトに掲載している。入学者選抜方法は学生募集要項及びウェブサイトに掲載し、オープンキャンパスで繰り返し説明して周知を図っている。

[参考資料 4-A 学生募集要項 4-B 指定校制推薦入試要項  
4-C AO入試要項 4-D 専攻科福祉専攻学生募集要項]

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

広報及び入試に関する委員会として、広報委員会と入試委員会を設置している。広報活動については広報委員会が、入試全般については入試委員会が審議し、教授会に提案して決定している。それぞれの委員会は学科・コース代表数名及び事務職員から構成される。（評価領域Ⅷ 委員会の表参照）

入試・広報センターは、センター長（事務職）と職員1名からなり、両委員会の決定に基づき実務を行っている。入試事務は、入試委員長が主管となり、入試係員を中心とする事務職員と教員で担当している。

受験生、高等学校等からの問い合わせに対しては、入試・広報センターが窓口となり対応している。内容によっては、入試委員会又は広報委員会に諮ったうえで入試・広報センターから回答している。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

1) 公募制推薦入試

入学願書は入試・広報センターが受け付け、提出された書類の確認をする。出願データは入試・広報センターで入力したものを複数の教職員が確認する。

入試当日は、学長と入試委員長を中心に入試本部を設置し業務を統括する。作文、面接については、担当者が採点した結果を入試・広報センター員が入試・広報センターのパソコンに入力した後、他部署の複数教職員が点検して合否判定資料を作成する。

入学試験合否判定のための臨時教授会を開催し、合格者を決定する。その結果に基づき、入試・広報センターが合否通知を作成する。作成された通知書は、学長・入試委員長・事務局長の立会のもとで入学手続き書類とともに封緘し、受験生に郵送する。

入学試験問題（作文）は、入試委員会で問題作成者を選定し、学長が委嘱する。作成者以外の教員が内容を点検したうえ、厳重に金庫に保管する。答えは当該年度の入試終了後も、一定期間保存している。

2) AO入試

AO入試のエントリーがあれば、入試・広報センターがAO面談を設定する。面談は志望する学科・コースの教員2名が担当し、面談結果を入試委員会に報告する。出願に問題なければ出願を許可する。入学願書提出以後は公募制推薦入試と同じ流れであるが、試験は書類選考及び面接となる。

3) 指定校制推薦入試

指定校に対する高等学校長の推薦を受けて実施する。入学願書提出以後は公募制推薦入試と同じであるが、試験は面接である。合否結果は受験者のほか高等学校長にも通知する。

4) 一般入試

入学試験の流れは公募制推薦入試に同じ。

入学試験問題（国語）は、入試委員会で問題作成者を選定し、学長が委嘱する。作成者以外の教員が内容を点検したうえ、厳重に金庫に保管する。答えは当該年度の入試終了後も、一定期間保存している。

5) 同窓生推薦入試・社会人入試・留学生入試

入学試験の流れはAO入試に同じ。

〔入試委員長〕入学試験の実施が公正かつ正確なものとなるように、複数人が複数回、確認作業を行っているので、実施の状況について現状に問題は無いと考えている。ただし、受験者が多様化していることから、総合学科や実業高校卒業者で職業教育を受けてきた者への対応を考慮する必要があると考える。

〔参考資料 4-A 学生募集要項 4-B 指定校制推薦入試要項  
4-C AO入試要項 4-D 専攻科福祉専攻学生募集要項〕

**(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。**

入学手続きを完了した者に対して、学科・コースごとの課題を入試・広報センターから郵送している。生活未来科生活福祉コースでは、指定した文献を熟読して感想をレポートに仕上げること、漢字検定準2級程度の漢字を習得してくることを課題としている。食物栄養コースでは、調理実習に備えて自宅で調理を行い、レポートを書く課題を出している。また栄養価計算などに必要な計算力を高めるため、計算問題をしておくよう助言している。ビジネスキャリアコースでは、社会の動きに目を向けるため新聞記事を読み、それについて考えたことをレポートにまとめること、参考図書を紹介し、入学後に行うディスカッションの準備をすることを課題としている。

地域こども学科では、ピアノの事前練習と漢字習得の課題を出している。入学までにバイエルピアノ教則本の43番まで終了しておくこと、常用漢字を読み書きできるようにしておくことを求めている。

専攻科では、3月の修了論文発表会を案内し参加を促している。また在学生との懇親会を設け、学生生活への不安の解消に努めている。

入試・広報センターでは、今後は入学後の学習をスムーズに始めるため体験入学の実施を検討している。〔参考資料 15～19 入学前課題(学科・コース別)等〕

**(6) 入学後(入学直前を含む)、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。**

平成22年度は、授業期間を確保するため入学後のオリエンテーションを短縮すると共に、入学式前の3月30日に免許・資格等の取得要件を含めた履修説明をし、担任がクラス単位で指導して履修登録を行った。

オリエンテーションでは、大学における規則の説明や学生生活のガイダンスのほか、学外講師による薬物や性に関する健康講座を実施している。これとは別に、地域こども学科では、平成22年度から幼児教育コースに加え社会福祉士受験資格をめざす保育ソーシャルワークコースの開設を機に、3月13日に入学予定者と保証人を対象としたコース選択のための説明会を開催した。〔参考資料 41 オリエンテーション日程表〕

### 【学習支援について】

**(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。**

前期は授業開始前のオリエンテーションにおいて、後期は授業開始後に各クラスでホームルームを設定して、担任が履修登録指導を行っている。学生は、それまでの成績を基に卒業及び免許・資格を取得するのに必要な科目と単位数を確認し、その学期の履修計画を立てて履修登録する。授業開始後は、履修科目の追加・取消のために約1週間の登録変更期間を設けており、履修登録最終確認票の提出を以て登録が完了する。

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

[参考資料 1～4 時間割等 20・21履修登録票等]

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

基礎学力が不足している学生に対しては、学科・コースで必要に応じて補習授業や個別に復習の機会を設けて、理解を深めるよう支援している。文章表現力の乏しい学生に対しては実習や実験のレポートの添削を行い、個別指導を行っている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

オフィスアワーを設定しているが、授業と重なる場合も多く活用されていない。そのため休み時間や放課後に、学生が研究室を訪ねてくることがしばしばある。教員は個別に質問に応じたり、勉強方法について助言したりしている。主に担任が相談・助言にあたっているが、実習に関する不安や悩みは実習担当者が対応することが多い。また学外実習では巡回担当者が事前・事後指導する態勢を取っているため、その折に学習上の助言をすることもある。今後オフィスアワーを定着させるための方策が必要と思われる。

[参考資料 42 オフィスアワー一覧]

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

優秀な学生に対して自主的に研究できる材料を与えたり、参考文献を紹介したりしている。授業内でも応用的な内容に触れるなどの配慮をしている。また授業で積極的な発言を求めたり、グループでの実習においてリーダーとして活躍するよう促すことで、能力を伸ばせるよう支援している。

地域こども学科では、平成20年度に「音楽Ⅲ」を開講してピアノの授業を2年次に継続できるようにした。バイエルを終えた学生がより高い技術を習得すると共に、演奏表現を深めるレッスンを実施している。

#### 【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

学生支援センターと担任が協力して学生生活を支援している。学生支援センターは、センター長と学生生活、教務、進路担当各2名の計7名で構成しており、他に非常勤のカウンセラーを配属している。以前は各部署が独立していたが、平成20年度に統合したことで、さまざまな困難を抱える学生に対する的確な状況把握と多面的な支援が可能になり、効果的に業務を行うことができるようになった。担任は、学業や進路、生活面の相談や指導にあ

たっている。教員と事務職員で構成される学生生活委員会では学生に関する主要な課題について検討し、委員長(教員)が学生支援センター顧問として連携・調整に努めている。

**(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事(学園祭、短大祭等)の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。**

①クラブ・同好会活動

文化系5団体、体育系10団体が結成されており、学生の約50%が加入している。短期大学では、後輩の入部者がなく継続できないケースや、学外実習などで活動が中断されるなど本格的な競技活動等は困難であるが、学生生活を満喫し、学科・学年を超えての交流の場として活発な活動が行なわれている。クラブには専任教員の顧問を置き、日常の指導は学生支援センターがあたっている。放課後の活動に対しては教職員が輪番制で居残り、事故等に備えている。

②学友会

全員が入会し、クラス代表の委員から役員を選出して運営している。学生支援センター長が顧問となり、学生支援センターが側面から支援している。毎年5月に総会を開催して、活動方針や会計報告等を審議している。活動資金として入会金600円と2年間の会費2,400円を徴収している。これによりクラブ予算をまかなうとともに、「大学祭」を始め「七夕祭」「餅つき大会」等学生生活を豊かにするための行事を企画・運営している。各種行事には、教職員も積極的に参加して支援している。

③大学祭

毎年10月下旬に開催している。学生の実行委員会を中心に、学生支援センターと教職員の実行委員が協力して、全学的な行事として取り組んでいる。内容は学生の実行委員会が企画したタレントによる催しや模擬店など、学生の主体的な企画のほか、教員が指導して学科内容を紹介する研究発表、同窓会や卒業生の企画協力によるイベントなど多彩なものとなっている。

④大学展

本学の教育を地域に発信する機会として、作品展示や研究発表、体験コーナーなどを展開する大学展を毎年開催している。学生の実行委員会と共に教職員が指導して、毎年趣向を凝らして運営している。平成19・20年度は市内の会場で発表と展示を行った。平成21年度は「こどもフェスタ」として体育館で開催し、子供・親子向けのイベントと高校生向けのオープンキャンパスを同時開催したところ、多数の参加者があり好評であった。

**(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。**

①休息のための施設・空間

学生食堂(現在休業中)を兼ねた学生ホールに200席程度の椅子とテーブルを置き、ピアノやテレビ、パソコン、コピー機、飲料の自動販売機と給茶機・電子レンジを設置して自由に利用できるようにしている。売店もホール内にあり、軽食や弁当を販売している。

6号館1階及び2階のロビーには計30席の椅子とテーブル、ソファがあり、パソコンや飲料の自動販売機を設置している。

自然環境を活かして屋外の随所にベンチを置き、憩いの場としている。校地東側の自然広場や校舎南側のロッカー室横の広場にもベンチがあり、天気の良い日には昼食をとる学生の姿がみられる。

②保健室

男女別の静養室にベッドを設置し、症状の軽い学生の対応に当たっている。

③食堂・売店

学生食堂と売店の運営は業者に委託している。メニューや価格の改善などを業者と交渉してきたが、販売品目や営業時間などについて学生の要望に十分に答えることができなかった。食堂運営のため補助金を出した時期もあるが、小規模大学のため営業が困難なので、新たに学外にも開放するレストランを平成22年度中に建設することになった。

**(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。**

学生寮は設置していない。遠方からの入学生に対して、入試・広報センターと学生支援センターが連携して下宿の斡旋をしている。

通学は、路線バスを使用することとしている。運行ダイヤを授業時間帯に合わせるようバス会社と折衝している。行事等がある場合は、総務部が増便について調整している。運賃の高いことが学生の負担になっているため、大学が一部援助する等の改善案を検討しているが実施に至っていない。

自転車による通学者のため、校舎南側に屋根付駐輪場を設けている。

バイク通学は、保証人の同意と任意保険加入を確認したうえで許可している。バイク通学者が増えたため、屋根付のバイク置場の増設が必要であるが、レストラン建築に伴い設置場所を検討中である。

自動車通学は、周辺の道路事情に不安があるため、家庭や身体の事情、地理的状況を勘案し、特別な場合のみ許可している。平成21年度から特別社会人が入学し、自動車通学の希望者が増えたため、校舎敷地外の駐車場を整備して許可している。

**(5) 平成21年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。**

表1 外部奨学金の取得状況

奨学金の種類			採用人数		
			19年度	20年度	21年度
日本学生支援機構	予約奨学生	第一種	2	8	4
		第二種	41	33	39
	在学生募集	第一種	9	10	9
		第二種	25	20	21
		専攻科特別枠	12	9	10
	緊急・応急対応		0	1	1
臨時採用		0	3	0	
ニヤクコーポレーション			1	募集なし	1
あしなが育英会奨学金			1	0	0
介護福祉士等修学資金			—	—	10

## 本学独自の奨学金等の概要

- 1 入学時奨学生制度  
対象：経済的理由により就学が困難な者  
内容：入学時納付金から200,000円を免除
- 2 自宅外奨学生制度  
対象：自宅からの通学が困難で、かつ経済的理由により就学が困難な者  
内容：入学時納付金から200,000円を免除
- 3 社会人奨学生制度  
対象：社会人入試により入学する者のうち、経済的理由により就学又は学業の継続が困難な者  
内容：授業料から年額500,000円を免除
- 4 児童養護施設・里親家庭奨学助成制度  
対象：養護施設入所者又は退所者(里親養育を含む)で、経済的理由により就学又は学業の継続が困難な者  
内容：授業料から年額500,000円を免除
- 5 留学生奨学金制度  
対象：外国人留学生入試により入学する者  
内容：授業料から年額500,000円を免除
- 6 再入学奨学金制度  
対象：本学を卒業し、その後に本学に再入学(専攻科を含む)する者  
内容：入学金200,000円を免除
- 7 幼児教育奨学金制度  
対象：幼稚園教諭免許状又は保育士資格のいずれかを取得済の者で、経済的理由により就学又は学業の継続が困難な者  
内容：授業料から年額500,000円を免除
- 8 協定奨学金制度  
対象：協定・覚書等により納付金の免除を定めている他大学出身者  
内容：協定書・覚書等で定めた額を免除
- 9 専攻科奨学金制度  
対象：専攻科に指定校推薦で入学する者  
内容：入学金から100,000円を免除

### (6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

学生の健康管理は学生支援センターが担当している。4月のオリエンテーション期間に胸部X線撮影を含む健康診断を実施し、また健康調査により健康管理上留意を必要とする学生を把握している。学内で発生する病気や怪我は、看護師資格を有する教員の協力を得て判断し、重症の場合は近隣病院に搬送する等の措置を講じている。

メンタル面については、学生支援センター職員と担任が非常勤のカウンセラーと連携しながら支援する体制をとっている。〔参考資料 43 保健室利用状況〕

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

入学時に「学生票」を提出させ、生活指導や支援の際の資料として活用している。在学中は学生支援センターと担任が管理し、卒業後は学生支援センターが保管している。

事故や学籍異動等の問題が生じた場合は、担任又は関係者がカウンセリングカードに経過と処置を記載し、教職員が情報を共有して連携できる体制をとっている。カウンセリングカードは学生支援センターが学生情報として管理・保存している。平成 22 年度は学内 LAN による学生支援システムを構築し、より詳細に学生の状況を把握し支援できることを目指している。〔参考資料 22 学生票 23 カウンセリングカード〕

**【進路支援について】**

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

表2 平成19年度～21年度の進路状況表

(平成22年3月31日現在)

生活科学科(生活福祉専攻)

		19年度	20年度	21年度
a 卒業者数		37 人	26 人	17 人
b 就職希望者数	b/a	30 人 81.1%	24 人 92.3%	15 人 88.2%
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b	29 人 96.7%	23 人 95.8%	13 人 86.7%
d うち自己開拓分の就職者数	d/b	1 人 3.3%	1 人 4.2%	1 人 6.7%
e 就職未定者	e/b	0 人 0.0%	0 人 0.0%	1 人 6.7%
f 進学・留学希望者数	f/a	2 人 5.4%	1 人 3.8%	1 人 5.9%
g 進学・留学生	g/f	2 人 100.0%	1 人 100.0%	1 人 100.0%
h 進学・留学準備中	h/f	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
i その他進路決定者	i/a	5 人 13.5%	1 人 3.8%	1 人 5.9%
j 不明・無業者数	j/a	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%

生活科学科(食物栄養専攻)

		19年度	20年度	21年度
a 卒業者数		41 人	36 人	38 人
b 就職希望者数	b/a	28 人 68.3%	29 人 80.6%	25 人 65.8%
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b	23 人 82.1%	21 人 72.4%	19 人 76.0%
d うち自己開拓分の就職者数	d/b	5 人 17.9%	6 人 20.7%	5 人 20.0%
e 就職未定者	e/b	0 人 0.0%	2 人 6.9%	1 人 4.0%
f 進学・留学希望者数	f/a	2 人 4.9%	2 人 5.6%	2 人 5.3%
g 進学・留学生	g/f	2 人 100.0%	2 人 100.0%	2 人 100.0%
h 進学・留学準備中	h/f	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%
i その他進路決定者	i/a	11 人 26.8%	5 人 13.9%	11 人 28.9%
j 不明・無業者数	j/a	0 人 0.0%	0 人 0.0%	0 人 0.0%

幼児教育科

		19年度		20年度		21年度	
a 卒業者数		124 人		103 人		84 人	
b 就職希望者数	b/a	81 人	65.3%	65 人	63.1%	53 人	63.1%
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b	73 人	90.1%	65 人	100.0%	43 人	81.1%
d うち自己開拓分の就職者数	d/b	5 人	6.2%	0 人	0.0%	9 人	17.0%
e 就職未定者	e/b	3 人	3.7%	0 人	0.0%	1 人	1.9%
f 進学・留学希望者数	f/a	21 人	16.9%	21 人	20.4%	9 人	10.7%
g 進学・留学生	g/f	21 人	100.0%	21 人	100.0%	9 人	100.0%
h 進学・留学準備中	h/f	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
i その他進路決定者	i/a	22 人	17.7%	17 人	16.5%	22 人	26.2%
j 不明・無業者数	j/a	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%

専攻科福祉専攻

		19年度		20年度		21年度	
a 卒業者数		28 人		18 人		20 人	
b 就職希望者数	b/a	28 人	100.0%	17 人	94.4%	20 人	100.0%
c うち学校で斡旋した就職者数	c/b	0 人	0.0%	16 人	94.1%	19 人	95.0%
d うち自己開拓分の就職者数	d/b	0 人	0.0%	1 人	5.9%	1 人	5.0%
e 就職未定者	e/b	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
f 進学・留学希望者数	f/a	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
g 進学・留学生	g/f	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
h 進学・留学準備中	h/f	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
i その他進路決定者	i/a	0 人	0.0%	1 人	5.6%	0 人	0.0%
j 不明・無業者数	j/a	0 人	0.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%

[参考資料 24 進路一覧表]

**(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。**

学生支援センターの進路担当職員2名が、求人情報の収集と学生の希望や活動状況を把握し、担任や関係教職員にも情報を提供して就職支援にあたっている。学生生活委員会でも進路指導の方針や活動状況について報告し、審議している。

専門職の就職には学外実習の経験が大きく影響するため、実習指導教員との連携を深め、学外実習での状況把握に努めている。今後は担任との関わりをより強化し、個別指導や相談を充実させる必要があると考えている。基礎教養科目「キャリアデザイン」では、企業出身の講師による講義で職業人意識を高め、自己の将来について考えていく基盤を与えることを目指している。

**(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。**

学生支援センターの隣に進路指導室と資料室があり、求人情報ファイルや試験問題集を収納しパソコンを設置して、情報収集や企業検索が自由に行なえるように開放している。年間6回以上、学科・コース別に進路ガイダンスを行い、求人現状や就職活動の留意点を説明して学生の就職意識を高めている。

表3 進路ガイダンス (平成21年度)

実施日	対象	内 容
21.4.17	2回生 食栄	進路ガイダンス (昨年1年間の求人状況・ガイダンス資料配付)
21.4.27	2回生 幼教	進路ガイダンス (昨年1年間の求人状況・ガイダンス資料配付)
21.5.11	2回生 福祉	進路ガイダンス (昨年1年間の求人状況・ガイダンス資料配付)
21.5.13	幼教欠席者	進路ガイダンス (昨年4年間の求人状況・ガイダンス資料配付)
21.5.18	2回生 幼教	保育士・幼稚園対策模擬テスト
21.5.21	1回生 幼教希望者	保育士・幼稚園対策模擬テスト
21.5.25	2回生 希望者	公務員ガイダンス
21.7.7	2回生 食栄	食栄企業説明会、試験、面接
21.7.7	2回生	進学説明会 (推薦・指定校)
21.7.22	2回生 幼教	求人状況ガイダンス
21.8.5 6 7	2回生 幼教	弾き歌い模擬面接会 (3日間)
21.10.12	1回生 福祉・幼教BC	進路ガイダンス (求職登録・進路調査・進路日程)
21.10.13	1回生 食栄・幼教AB	進路ガイダンス (求職登録・進路調査・進路日程)
21.10.27	1回生 福祉	施設説明会 (社会人向けガイダンス)
21.11.9	1回生 ビジネスキャリア	進路ガイダンス (求職登録・進路調査・進路日程)
21.12.10	1回生 欠席者	進路ガイダンス (求職登録・進路調査・進路日程)
21.12.17	1回生	インターネット登録 (マイビズ)
22.1.28	1.2回生	進路ガイダンス (就職フェア・企業説明会)
22.3.7 14 21 28	1.2回生	一般教養対策講座 (10講座、4日間)

意欲的な学生は自発的に進路指導室に来て相談をしているが、全体に消極的な学生が多いため、教員にも求人情報を配付して学生への情報提供に努めている。学生には電話やメールにより個別に連絡するなど、教職員が協力して積極的に就職活動を奨励している。

**(4) 過去3ヶ年 (平成19年度～21年度) の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。**

〔学長〕毎年就職希望者のほぼ全員が就職しているが、資格を取れない学生も増加している。就職に向けた学生情報のデータベース化、卒業生の現状把握などをテーマとする研究が平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業：テーマB学生支援推進プログラム」に採択されたので、学生支援情報システムを導入しデータベース化を行なっている。平成22年度は、文部科学省の「大学生の就業力育成支援事業」に「地域・企業等と共創する就業力の段階的育成」のタイトルで応募している。

〔生活未来科長〕生活福祉コースは、資格取得者の約90%の学生が資格を活かして就職する状況を維持している。これは、コースの教育目的に合ったものと承知している。

食物栄養コースは、全国的に就職率が低迷する中で資格取得者の約56%が専門を活かして就職しており概ね良好といえる。しかし、進路未定者も数名いるので、短期大学において取得した学位や免許・資格を活かす就職ができるようさらに支援していく必要がある。

〔地域こども学科長〕地域こども学科では、夏季休暇中に就職試験対策としての面接指導を行っている。就職率は毎年就職希望者のほぼ100%であるが、資格を活かした就職は資格取得者の約65%である。その原因としては、学生が資格は取るが保育現場に魅力を感じないこと、一方で資格を取れない学生の増加が挙げられる。

〔専攻科長〕専攻科福祉専攻は就職率100%を維持しており、専門就職率も平均95%と高いが、近年内定を決める時期が遅くなっており、第1希望の就職先に就職できない学生が増えている。そのため、前期終了時から就職活動を促していく必要性を感じている。

表4 資格取得者の専門就職の割合

学科等	年度	卒業(修了)者数	資格取得者数(a)	専門就職数(b)	比率(b÷a)
生活科学科 生活福祉専攻	19年度	37	28	26	92.9
	20年度	26	25	20	80
	21年度	17	12	12	100
生活科学科 食物栄養専攻	19年度	41	34	20	58.8
	20年度	36	31	17	54.8
	21年度	38	30	16	53.3
幼児教育科	19年度	124	106	63	59.4
	20年度	103	85	56	65.9
	21年度	84	54	38	70.4
専攻科福祉専攻	19年度	28	28	27	96.4
	20年度	18	18	16	88.9
	21年度	20	20	20	100

(5) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の進学(四年制大学、専門学校等)及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

学生支援センターでは1回生後期に進学希望調査を行い、進学を希望する大学のオープンキャンパスへの参加を促している。また編入学を受け入れる大学の情報を収集し、編入試験の内容や指定校制推薦の可能性などを考慮して受験校選定の相談に応じている。受験に必要な科目については、教員と連携して個人指導により支援している。また編入した卒業生から入学試験や編入後の学習状況などの情報を集め、学習準備のアドバイスをしている。

生活未来科生活福祉コースでは社会福祉士資格を、食物栄養コースでは管理栄養士資格を取得するために四年制大学への編入を希望する学生がいる。そうした学生に対しては、筆記試験、論文指導から面接に至るまできめ細かな指導を行っている。地域こども学科の進学先は、本学の専攻科福祉専攻が多い。専攻科は保育士資格があれば1年で介護福祉士資格を取得でき、また地域こども学科からの進学であれば入学金が免除される。介護福祉士資格を取得することで就職の選択肢が広がるので、意欲のある学生には専攻科進学を勧めている。2回生に対して専攻科進学説明会を開き、希望者に個別相談を行っている。

表5 進学の実績（平成19年度～21年度）

生活科学科（生活福祉専攻、食物栄養専攻）

	19年度	20年度	21年度	計
進学希望者 (人)	4	3	3	10
四年制大学 編入学 (人)	3	2	2	7
専門学校 (人)	1	0	1	2
本学幼児教育科再入学 (人)	0	1	0	1

幼児教育科

	19年度	20年度	21年度	計
進学希望者 (人)	21	21	9	51
四年制大学 編入学 (人)	7	1	0	8
専門学校 (人)	0	0	1	1
本学専攻科 (人)	14	20	8	42

海外留学に関しては、過去3年間実績がない。

〔参考資料 44 進学（四年制大学、専門学校）の実績〕

【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。  
 なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

表6 多様な学生の受け入れ状況（平成19年度～21年度）

5月1日現在

種別	19年度	20年度	21年度	計
留学生 (人)	0	3	0	3
社会人 (人)	5	6	38	49
帰国子女 (人)	0	0	0	0
障害者 (人)	1	0	0	1
長期履修学生 (人)	0	0	0	0
科目等履修生 (人)	34	24	11	69

- 〔注意〕 1. 留学生とは日本の国籍を有しない者で、勉学を目的として来日した者とします。  
 2. 大学で定める社会人の定義（受験資格）を欄外に記述して下さい。  
 3. 大学で定める帰国子女の定義（受験資格）を欄外に記述して下さい。

種別	受験資格
社会人	大学入学資格を有する者で、入学時に満二十歳以上の者
帰国子女	次の各号のいずれかに該当し帰国した者または帰国予定の者 (1) 12年の学校教育の課程を外国において全期もしくは一部を履修した者 または終了見込みの者 (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設当該課程を修了した者または終了見込みの者

平成20年度から留学生を受け入れており、学生支援センターが担任と連携をとりながら

保証人との連絡、入国管理局との交渉などきめ細かい対応を行っている。

毎年数名の社会人が入学する。生活未来科生活福祉コースでは、平成21年度から国の政策による介護福祉士養成のため多数の特別社会人を受け入れた。クラスの半数以上が特別社会人という従来経験したことがない状況であったため、昨年度は対応が難しい面もあった。しかし、情報の共有と対応について意志統一を図ったため、今年度は比較的スムーズに対応できるようになった。

帰国子女・長期履修学生は、過去3年間入学の実績がない。

卒業時に免許・資格を取得できず、科目等履修生として勉学を続ける者が少なくない。特に地域こども学科ではかなりの人数になるが、免許・資格の取得に向けて意欲を持続させるよう教職員が声をかけるなどの支援をしている。

#### 【特記事項について】

(1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

##### 1) 表彰制度

奈良佐保短期大学優秀学生表彰規程に基づき「学業成績が優れ、他の学生の模範となる学生」に対し「井田康子賞」を授与している。また本学同窓会あせび会の寄託により、成績優秀者を選考し「あせび賞」を贈呈している。

##### 2) ピアノ学習の支援

地域こども学科では、ピアノ初心者を対象とした入学前ピアノ講習を平成19年度入学生から実施している。19年度24名、20年度22名、21年度39名、22年度43名が受講した。今年度は、最初の授業までにバイエル43番が習得できていない学生に対し1～3回の特別補習を実施した。1回生の夏休み前にバイエル60番までを終了していない学生に対しては、音楽I(ピアノ)特別講習を夏季休業中に実施している。

[参考資料 45 入学前ピアノ特別講習]

## 《VI 研究》

## 《VI 研究》

### 【教員の研究活動全般について】

(1) 「専任教員の研究実績表」に過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

表1 専任教員の研究実績表（平成19年度～21年度）

学科名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
生活科学科・生活未来科	飯田明美	特任教授	0	0	0	0	無	有	平成21年度後期 就任
	池内ますみ	教授	0	7	5	0	無	有	
	池原健二	特任教授	1	3	7	10	有	有	平成20年度 就任 平成21年度 退任
	伊藤幸子	准教授	2	5	0	0	無	有	
	上地 加容子	講師	1	0	0	0	無	無	平成19年度 退任
	大石 正	教授	3	15	15	3	有	有	
	川端泰啓	教授	0	0	0	0	無	無	平成21年度 就任・退任
	北口照美	教授	1	0	0	3	無	有	
	笹谷真由美	講師	0	2	1	0	無	有	
	島村知歩	講師	0	5	1	1	無	有	
	三浦さつき	講師	0	5	4	1	無	無	
	森田婦美子	准教授	2	5	6	0	無	有	平成21年度 退任
	安永龍子	講師	0	2	1	0	無	有	
	矢和多多姫子	教授	0	0	0	0	無	有	
植田信一	助教	0	0	0	0	無	無	平成21年度就任・退任	
幼児教育科	浅野友子	教授	0	0	0	0	無	無	平成20年度後期 退任
	石田裕子	講師	0	0	0	2	無	有	平成20年度 就任
	浦田雅夫	講師	0	1	0	0	無	無	平成20年度 退任
	奥田真紀子	講師	0	4	2	2	無	有	
	岸 優子	教授	0	0	0	0	無	無	平成19年度 退任
	澤田 博	教授	0	0	5	0	無	有	
	潮谷光人	講師	2	0	0	0	無	有	
	関 智美	教授	0	2	1	0	無	有	
	中田奈月	准教授	1	1	0	5	無	無	
	中村妙子	教授	0	1	0	1	無	有	
	中村 恵	講師	0	5	4	1	無	無	平成20年度 就任
	古海 忍	准教授	0	5	0	1	無	有	
	宮川久美	教授	3	3	0	1	無	有	
	松本 しのぶ	講師	2	0	0	0	無	無	平成19年度 退任
	森重 功	講師	0	1	0	1	無	有	
	山口直範	講師	2	0	10	1	無	有	平成21年度 就任
和田公子	教授	0	1	0	2	無	有		
武田千幸	助教	0	3	0	1	無	有		

〔注意〕

1. 上表の根拠となる教員個人の研究業績書（設置認可等の際に文部科学省に提出する様式等を準用。過去3ヶ年分）を訪問調査の際に拝見しますのでご準備下さい。
2. 上表には助教以上の教員について記載して下さい。

ほとんどの教員が複数の研究実績を有しており、活発に研究活動をしているといえる。社会的活動に携わっている者も非常に多い。国際的な活動については、ほとんど実績が無い。〔参考資料 10 研究業績調書〕

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

研究紀要は近隣の大学・関係機関に配布しているほか、大学ウェブサイトに公表している。研究業績はウェブサイトの教員欄に掲載しており、毎年データを更新している。

[参考資料 25 研究紀要]

(3) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況(件数)を一覧表にして下さい。

表2 外部研究資金の申請・採択状況(平成19年度～21年度)

(件数)

外部資金調達先等		19年度		20年度		21年度	
		申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金		3	0	6	1	4	2
その他の外部研究資金	文部科学省 大学改革推進事業	1	1	1	1	1	1
	文部科学省 大学教育・学生支援推進事業	0	0	0	0	2	1
	宇宙航空研究開発機構	0	0	0	0	1	1
	国際高等研究所	0	0	0	0	1	1
	株式会社セブテム総研	0	0	1	1	0	0

[参考資料 46・47 外部資金調達の状況]

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

生活未来科食物栄養コースでは、農園を活用した野菜栽培や食材としての調理活用について、近畿農政局奈良農政事務所と共同研究を行っている。また平成21年度に次の地域共同研究を行った。

表3 地域・共同研究の状況(生活未来科)

研究名	研究者
大和伝統野菜の利用に関する研究	日高千春 三浦さつき 島村知歩 古海忍(幼児教育科)
大和伝統野菜「大和マナ」の利用に関する研究	山田裕子 原美沙子 池内ますみ 中平真由巳(滋賀短期大学)

幼児教育科(現地域こども学科)では、平成19～20年度に文部科学省の専門職大学院等教育推進プログラム“幼保統合の「保育実践知」教育プログラム”を奈良教育大学と共同研究した。その他平成21年度は、次の6つの地域共同研究を他学科あるいは他大学の教員と行った。

表3 地域・共同研究の状況(幼児教育科)

研究名	研究者
性別職域分離と離職の関連についての研究	中田奈月 笹谷真由美(生活未来科)
就学前教育における科学教育	古海忍 中村恵 松村佳子(奈良教育大学)
介護福祉士の養成における社会人基礎力の育成とその評価に関する研究	奥田真紀子 栗林千幸 松本しのぶ(種智院大学)

日本と中国における日本語教育の比較研究	宮川久美 大石正 今川久美子(中華人民共和国東渡日本語学校) 鄭智勇(中華人民共和国西安外國語大学)
特別支援が必要な子どもと保育者の保育観・子ども観に関する研究	石田裕子 和田公子 藤村朱美(大和郡山市立矢田幼稚園)
短期大学における子育て支援事業への参加	中村妙子 潮谷光人 山口直範 浦田雅夫(京都造形大学)

専攻科福祉専攻では、準大賞と会場特別賞を獲得した「社会人基礎力グランプリ2009」(経済産業省主催)における発表に関連して、介護実習のどの部分が社会人基礎力の向上につながるのかを分析した研究が私学助成『平成21年度地域共同研究支援』に採択された。  
[参考資料 8 規程集奈良佐保短期大学共同研究規程]

### 【研究のための条件について】

(1) 研究費(研究旅費を含む)についての支給規程等(年間の支出限度額等が記載されているもの)を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の決算書から研究に係る経費を項目(研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等)ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

研究費支給に関する規程は無い。

表4 研究に係る経費(平成19年度～21年度)

年度	研究費	研究旅費	施設	機器・備品	図書費 <sup>1)</sup>	計
19	29,300,319	3,226,589	0	8,837,371	376,232	41,740,511
20	35,743,961	3,125,148	0	3,714,235	797,486	43,380,830
21	33,322,598	3,553,646	0	4,962,161	506,149	42,344,554

1) 図書館予算で購入した図書は研究用として計上しない。

表5 個人研究費使用状況(平成19年度～21年度)

年度	申請数	使用額(円)	備考
19	24	2,175,284	
20	26	2,156,000	
21	26	3,830,947	私学事業団特別補助額を含む

※教員の個人研究費は、申請により1件10万円を上限として認めている。

[参考資料 26 研究に係る費用]

(2) 教員の研究成果を発表する機会(学内発表、研究紀要・論文集の発行等)の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

研究紀要を年1回発行している。研究紀要は近隣の大学・関係機関に配布しているほか、大学ウェブサイトにも掲載しており、学外からの閲覧が可能である。

公開講座や学外の委託事業講座、出張講義などにおいても教員の研究成果が公開されている。講座等における受講者のアンケートは評価を受ける機会となり、多様な参加者の意見は、研究の新たな発想や視点を見つける契機になっている。[参考資料 25 研究紀要]

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成21年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

上述したように個人研究費は10万円を上限としているため、研究に係る機器・備品を購入するには十分といえない。このため機器の購入は、私学事業団特別補助あるいは一般経常費によるものが多い。財政状況が厳しい折から、必要最低限の範囲で整備している。

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

研究室は1～3人ごとに1室を用意し、パソコン・電話が使用できる環境を整えている。実験研究を行っている教員は少ないので研究用の実験実習室は設けていない。必要な場合は授業用の実習室を使用している。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

教員は、週1日を研究日として授業のない日を設けている。その他土・日曜日や夏季休業期間等を研究に当てることとしているが、実際にはオープンキャンパス、入学試験、大学祭等の大学行事のほか公開講座の開催、学外実習の事前・事後指導や巡回訪問指導、学生募集のための高校訪問、出前授業等で時間をとられることが多く、研究時間の確保は非常に難しい状況である。そうした状況であっても他大学の教員との共同研究、所属学会での論文発表や分科会での研究発表などを続けている。

#### 【特記事項について】

(1) この《VI研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

学外からの研究助成があれば関係する教員に紹介したり、掲示板に掲示して応募や申請を奨励している。

## 《VII 社会的活動》

## 《Ⅶ 社会的活動》

### 【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

地域に開かれた短期大学として、公開講座、開放授業、出張講座、シニアワークプログラム（子育て支援）（厚生労働省委託事業）等に積極的に取り組んでいる。今後も地域のさまざまな施設や公的機関と連携を図りながら、社会的活動の取組を積極的に推奨していく予定である。各種講座のポスターやリーフレットは、県下の教育委員会、学校及び公共施設に郵送すると共に、奈良市を始め近隣市町村の公共施設を訪問し、説明して配布している。

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

生活未来科生活福祉コースと食物栄養コースには毎年社会人が入学している。社会人学生は学習意欲が高く、熱心に勉学と取り組む姿勢や社会人としての知識・マナーは、高校から入学した学生に良い影響を与えている。こうした点からも、さらに積極的に受け入れることが望ましいと考えている。

平成20年度から開始した開放授業は、シニア世代を始め30～50歳代の多くの聴講生が学んでおり、学ぶ喜びを実感している様子が伺える。このことは若い学生により刺激を与えている。今後はできるだけ多くの科目を開放すると共に、日本カウンセラー協会認定のピアヘルパー受験資格の取得、文部科学省が推進する履修証明制度（平成22年度から実施）による履修証明書の発行など、体系的な学びの機会を提供することを計画している。  
〔添付資料 4-A 学生募集要項〕

(3) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

#### 1) 公開講座

本学教員を中心に、専門性を生かしつつ一般にも興味を持ってもらえる講座を開催している。参加者（延べ人数）は平成19年度7講座に259名、平成20年度13講座に500名、平成21年度10講座に374名であった。

#### 2) 開放授業

平成20年度に聴講生規程を制定し、開放授業を実施した。対象科目は①教養に関する科目、②介護と福祉に関する科目、③食と栄養に関する科目、④保育と子育てに関する科目とし、なるべく多くの科目を開放するよう毎年検討している。身近な問題としての介護、食や栄養への関心が高く、またテキスタイルデザインを始め多様な科目に受講があった。

平成20年度：前期 23科目10名／後期 25科目17名、

平成21年度：前期 40科目27名／後期 32科目19名

#### 3) 履修証明制度

平成22年度から履修証明制度を設けて、社会人に対し再就職やキャリアアップに繋がる教育プログラムを組んでいる。

4) 「きらっと図書館講座」

平成19年度：前期 2回(5/16 7/25)約100名／後期 2回(大学祭10/20 10/21)約60名

平成20年度：後期 5回(大学祭10/18 10/19)約120名

[添付資料 6-A 公開講座・開放授業・きらっと図書館講座実施状況]

**(4) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の短期大学と地域社会(自治体、商工業、教育機関、その他団体等)との交流、連携等の活動について記述して下さい。**

1) 自治体との交流・連携

教員の中には、自治体から各専門分野に関連した審議会委員の委嘱を受けている者も多く、積極的に協力している。奈良市他と下記の協定を締結したほか、さまざまな分野で連携・協力している。

平成19年度：

- ・奈良佐保短期大学と奈良市との連携協力に関する協定書締結
- ・奈良市と奈良佐保短期大学との地域貢献に関する協定書締結
- ・奈良市学校教育活動支援事業(スクールサポート)に関する協定書締結
- ・「元気城下町 菜の花プロジェクト」の連携協力に関する協定書締結

平成21年度：

- ・奈良佐保短期大学と奈良市との避難所の設置に関する協定書締結
- ・奈良市地域子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」開設  
奈良市の委託を受けて、市内4番目のセンターとして11月に設置した。食生活・栄養相談に応じるほか、父親支援のためのお菓子講習会なども開催する。
- ・農林水産省、奈良農政事務所、奈良市保健所との連携  
平成21年度から奈良農政事務所、奈良市保健所と協賛して食育啓発活動を行っている。大学祭では、食物栄養専攻の学生がクイズやパネル展示、栄養相談などを実施した。1月には食物栄養コース2回生を対象に食育座談会を行い、将来栄養士として食育を担う立場となる学生自身が食育について考える機会を設けた。
- ・(財)奈良市生涯学習財団 柳生公民館(平成22年2月)  
柳生市在住の親子を対象とした子育て応援ミニ講座のうち、子どもの食事や健康管理に関する講義を食物栄養コースの教員が担当した。

2) 教育機関との交流・連携

平成19年度：

- ・奈良佐保短期大学と若羽調理専門学校との連携協力に関する協定書締結

平成20年度：

- ・奈良佐保短期大学と奈良県立大学との単位互換に関する協定書締結
- ・奈良佐保短期大学と種智院大学との連携協力に関する包括協定書締結

平成21年度：

- ・日本国奈良佐保短期大学と中華人民共和国西安外国語大学高職部との連携・協力に関する包括協定書締結

・日本国奈良佐保短期大学と中華人民共和国西安外国語大学高職部との学生交流に関する協定書締結

### 3) その他の団体との交流・連携

平成 19 年度：

- ・介護技術講習会（厚生労働省委託事業） 受講者 32 名
- ・シニアワークプログラム（厚生労働省委託事業）

60歳代前半の人を対象に就職機会の確保を目的とした子育て支援講習会、生活援助サービス講習会を実施〔添付資料 6-B シニアワークプログラム(厚生労働省委託事業)状況〕

- ・ビューティフルライフ出展 奈良新聞社主催 橿原文化会館 9月30日（日）  
さをり織の体験、栄養相談

- ・いきいき生活フェア

大阪府下の百貨店において、産学連携で地域住民の健康増進を目指した食生活の改善方法や介護技術の実演指導などを5日間開催

平成 20 年度：

- ・介護技術講習会（厚生労働省委託事業） 受講者 59 名（2 回）
- ・奈良県“暮らし”と“環境”フェスティバル 奈良新聞社主催 奈良県など後援  
奈良県文化会館 4月4日(土)5日(日) 約9000名/教職員+学生5名

- ・「元気城下町～P I C Aピカメッセ大和郡山～」参加

大和郡山市の企業・農業・商業が共同で開催するイベントで、本学は産学連携の一環として、ビジネスキャリアコースを中心に地域との連携を深めた。

- ・ビューティフルライフ出展 奈良新聞社主催 やまと郡山城ホール 9月28日（日）  
さをり織の体験、栄養相談

平成 21 年度：

- ・介護技術講習会（厚生労働省委託事業） 受講者 37 名
- ・奈良県“暮らし”と“環境”フェスティバル 奈良新聞社主催 奈良県など後援  
奈良県文化会館 4月3日(土)4日(日) 約1万人/教職員+学生5名

- ・「第2回 元気城下町 菜の花フェスタ in 治道」大和郡山市発志院町治道小学校  
4月18日(土)

- ・人と係わることによる成長ー介護現場の実践を通してー社会人基礎力グランプリ受賞記念シンポジウム 大阪中央公会堂 3階中集会室 平成21年8月11日（火） 社会人基礎力育成シンポジウム実行委員会（経済産業省近畿経済産業局協力） 約250名

- ・ビューティフルライフ出展 奈良新聞社主催 奈良文化会館 9月21日（祝）  
「生き生きと生命力に満ちた生活を」をテーマに押し花作り、アロマセラピー体験、健康ヨガ教室、栄養相談

- ・介護福祉士のためのソーシャルアロマセラピスト資格取得講座  
2月18日・3月4日・3月18日 30名

平成 22 年度：

- ・「おいでよ！菜の花フェスタ in 治道へ」 生活未来科食物栄養コース 4月11日(日)  
〔参考資料 48 馬酔木通信〕

**【学生の社会的活動について】**

**(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。**

ボランティアの派遣要請は、学生支援センターで受け付け、掲示やウェブサイトによって学生に周知している。高齢者福祉施設を始めとして障害児(者)施設、地域の団体などのイベント（夏祭り、外出など）や、障害児(者)施設の遠足や外出支援のボランティア募集が多く寄せられる。また介護施設等に就職した卒業生からの派遣要請も多く、在学学生も卒業生の勤務している施設ということで安心して参加し、先輩・後輩の交流を深めている。

生活福祉コースでは、授業の一環として1年次に3回のボランティア活動を奨励している。障害児(者)への介助ボランティアサークルで活動する学生も多い。学生支援センターで把握している平成21年度のボランティア活動参加者は、障害者施設で延べ72名、高齢者施設で延べ67名であった。

地域こども学科学生を中心とするクラブ「きらきら音楽隊」が、多くの活動に参加している。

平成20年度奈良県長寿社会課主催の介護の日の行事では、専攻科福祉専攻の学生が「介護を学ぶ喜びについて」と題するシンポジウムにパネリストとして参加した。

表1 きらきら音楽隊の活動記録

平成19年度	3月	高齢者ふれあい交流会(古市人権文化センター)
平成20年度	8月	春日保育園ボランティア
	11月	ハロウィン(イトーヨーカドー)
	12月	奈良県里親の会クリスマスパーティ
	12月	聚楽園クリスマス会
	2月	奈良佐保短期大学学生展(イトーヨーカドー)
	3月	東市こころあったかコンサート
平成21年度	3月	若草保育園訪問
	8月	奈良西養護学校OB同窓会
	12月	奈良県立登美学園クリスマス会
	12月	奈良県里親の会クリスマスパーティ
	12月	東大寺整肢園訪問

[参考資料 49 ボランティア一覧]

**(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。**

施設等でのボランティア活動は、学生にとって社会を知るうえで貴重な経験となっている。教育課程に定められた学外実習以外にボランティア活動を体験することは、経験を広げる機会となり、地域や施設との繋がりを深める効果もある。また資格に関連した社会経験をすることの大切さを学ぶ機会であり、ボランティア先の職員と関わることによって就職後の施設間連携の契機になると考えているので、積極的な参加を奨励している。ボランティア活動以外の自治体の催しや企業のイベントへの関わりは、学生が企業を知ると同時に、地域に生きる大学の学生として地域との連携を深める機会となっている。

**【国際交流・協力への取組みについて】**

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況を記述して下さい。

過去3年間に派遣の実績は無い。

(2) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

平成21年度に、「日本国奈良佐保短期大学と中華人民共和国西安外国語大学高職部との連携・協力に関する包括協定書」並びに「日本国奈良佐保短期大学と中華人民共和国西安外国語大学高職部との学生交流に関する協定書」を締結し、中華人民共和国西安外国語大学高職部において、本学への留学希望者に対し入学試験を実施した。

(3) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

表2 教職員の国際会議出席

平成19年度	大石正学長・教授	第6回アジア・オセアニア比較内分泌学会出席 (インド共和国北ベンガル大学)
平成20年度	大石正学長・教授	「核酸に関するZing Conference」出席 (メキシコカンクン市)
平成21年度	池原健二特任教授	ゴードン国際会議に出席し「[GADV]-Protein World Hypothesis on the Origin of Life」のテーマで研究発表（アメリカ合衆国テキサス州ガルバトン市）

過去3年間に教職員の留学、海外派遣の実績は無い。

**【特記事項について】**

(1) この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

①高等学校との連携

高大連携授業や出前授業、進路指導のための授業・進路相談会などの依頼が年々増加している。依頼があった際はそれぞれの専門分野の教員が積極的に協力している。授業内容の工夫や進路指導の相談にもあたるなど適切な対応を行っている。

②日本語教育

留学生に対し日本の大学での履修を支援するため、平成22年度に日本語教育別科を開設した。1年間で日本語及び日本事情について学び、日本での勉学と安全な生活を支援することを目的としている。

③平成21年度公開講座の「食の安全と地域の食育 ～地元食材を使った健康お手軽クッキング～」では、食の安全性の講義と併せて大和野菜やこだわり野菜など地元奈良の食に関する取組を紹介し、奈良県産の野菜を使った調理実習を行った。

#### ④施設の開放

グラウンドと体育館は学外者にも開放している。開放に当たっては、施設使用願の提出を求め、使用場所や目的に応じて注意事項を記載した許可書を発行している。

#### ⑤学科・コースの取組

生活未来科生活福祉コース及び専攻科福祉専攻では、平成21年度から厚生労働省の福祉人材緊急支援対策事業に積極的に取り組み、シンポジウムや事例研究発表会等を開催した。今後も行政や介護現場と連携を図り、介護福祉士の質と人員の確保のための社会活動を実践すると共に、地域における介護福祉研究の発信源の役割を担う取組を予定している。

生活未来科ビジネスキャリアコースの「職業人意識」や「ビジネスマナー」は企業の新人研修にも有効なため、地域の企業向けに開設することを計画している。

地域こども学科では、平成19～21年度に奈良教育大学と共同で行った平成19年度大学改革推進等補助金「幼保統合の『保育実践知』教育プログラムの開発」において、数回のフォーラムを地域の幼稚園、保育園に勤務する職員に公開した。

## 《VIII 管理運営》

## 《Ⅷ 管理運営》

### 【法人組織の管理運営体制について】

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

理事長は、短期大学の運営に関してリーダーシップを発揮している。短期大学を始めとする法人全体の課題を検討するため、理事会に「将来構想」「財務」「広報活動」「附属幼稚園」に関する4つの分科会を設置し、理事を各分科会に配属した。緊急を要する事項については、理事・評議員・関係教職員で構成する個別の委員会を設置し協議する体制を整えている。また理事会と大学とが互いに連携を密にし意思疎通を目的とする連絡協議会が設置されている。

(2) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）を下表を例に開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成22年5月1日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

表1 理事会開催状況（平成19年度～21年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
19	5	24	平成18年度決算について 平成18年度事業の実績報告について 学校法人佐保会学園の将来構想について	15	15
19	6	30	奈良佐保短期大学教員選考規程及び同選考基準の制定について 理事並びに評議員の辞任について 学校法人佐保会学園の将来構想について	15	15
19	7	21	理事並びに評議員の選出について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 奈良佐保短期大学セクシャル・ハラスメントの防止等に関する規程について	13	15
19	7	31	理事の交替の報告並びに評議員の選任条項の変更について	14	15
19	10	6	学校法人佐保会学園連絡協議会規程の制定について 附属河内長野幼稚園駐車場及び多目的室の新築について 学校法人佐保会学園の将来構想について 理事長の職務の代理者の選任について	15	15
19	11	24	学校法人佐保会学園理事会の運営について 学校法人佐保会学園の将来構想について 1)生活科学科の名称変更並びに専攻課程の廃止について 2)定員確保の方策について	14	15
20	1	19	奈良佐保短期大学の学科名称の変更について 奈良佐保短期大学生涯学習センター規程の制定について 奈良佐保短期大学授業料等納付金について	14	15
20	3	8	平成19年度補正予算について 奈良佐保短期大学の学生納付金について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について	15	15

20	3	29	平成 20 年度事業計画について 平成 20 年度予算について 基本金(第 3 号)の組入れについて 学校法人佐保会学園経理規程の一部改正について	15	15
20	5	24	平成 19 年度に係る事業の実績報告について 平成 19 年度決算について 学校法人佐保会学園就業規則の一部改正について 学校法人佐保会学園給与規程の一部改正について	15	15
20	6	28	理事並びに評議員の欠員補充について 平成 20 年度「定員割れ改善促進特別支援経費」の申請について 附属倉敷幼稚園の総合遊具の更新について	14	15
20	9	6	奈良佐保短期大学学長の選考について 理事並びに評議員の交替について 学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について	15	15
20	10	18	奈良佐保短期大学学長候補適任者の選考について	15	15
20	11	17	奈良佐保短期大学学長候補者の選考について 附属生駒幼稚園増築計画の推進について	15	15
20	12	20	奈良佐保短期大学学長候補者について 幼児教育科の学科名称の変更について 生活未来科生活福祉コース(介護福祉士学校)の入学定員削減について 寄附金品の募集について	15	15
21	1	24	幼児教育科の学科名称の変更について 生活未来科生活福祉コース(介護福祉士学校)の入学定員削減の見直しについて	14	15
21	3	7	平成 20 年度補正予算について	15	15
21	3	28	平成 21 年度事業計画について 平成 21 年度予算について 奈良佐保短期大学特任教員規程の制定について 学校法人佐保会学園就業規則の一部改正について 学校法人佐保会学園給与規程の一部改正について 奈良佐保短期大学附属倉敷幼稚園園則の一部改正について	15	15
21	5	23	平成 20 年度に係る事業の実績報告について 平成 20 年度決算について 学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について 奈良佐保短期大学幼児教育科の入学定員変更について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について	15	15
21	7	18	理事、監事及び評議員の選任について 理事長の選任について 学校法人佐保会学園寄附金管理委員会規程の制定について 学校法人佐保会学園募金規程の制定について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について	15	15
21	9	5	奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の増築計画について	12	12
21	10	4	学校法人佐保会学園理事会の運営について	12	12
21	10	24	学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 学校法人佐保会学園理事会の運営について	12	12
21	12	19	学校法人佐保会学園理事会の運営について 学校法人佐保会学園給与規程の一部改正について	12	12
22	1	23	中華人民共和国西安外国語大学高職部との連携・協力に関する包括協定書の締結について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 学校法人佐保会学園の将来構想について	12	12

22	3	13	平成 21 年度補正予算について 奈良佐保短期大学学則の一部改正について 中華人民共和国西安外国語大学高職部との連携・協力に関する包括協 定書並びに学生交流協定書について 奈良佐保短期大学の学舎改修計画について	12	12
22	3	27	平成 22 年度事業計画について 平成 22 年度予算について 学校法人佐保会学園への現物寄付(土地・建物)について 奈良佐保短期大学の耐震補強工事並びに学舎改修計画について 基本金(第 2 号)の組み入れについて	12	12

理事及び理事会については、学校法人佐保会学園寄附行為第6条及び第15～17条に規定して  
いる。

(理事)	
第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。	
一 この法人の奈良佐保短期大学長	一人
二 社団法人佐保会理事長の職にある者	一人
三 この法人の評議員のうちから理事会において選任した者	三人
四 この法人の奈良佐保短期大学の教職員のうちから理事会において選任した者	四人
五 学識経験者、又はこの法人に功労のあった者のうちから理事会において選任した者	三人
2 前項の理事のうち、その選任の条件たる役職を退いたときは、理事の職を失うものとする。	
(理事会)	
第15条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。	
2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。	
3 理事会は、理事長が招集する。	
4 理事長は、理事総数の三分の二以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請 求された場合には、その請求のあった日から二週間以内にこれを招集しなければならない。	
5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項 を書面により通知しなければならない。	
6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この 限りでない。	
7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。	
8 理事長が第四項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を 招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。	
9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の三分の二以上の理事が 出席しなければ、会議を開き、議決することができない。ただし、第十二項の規定による除斥のた め、三分の二に達しないときはこの限りでない。	
10 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意志を表示した 者は、出席とみなす。	
11 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席した理事の過 半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。	
12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができな い。	
(業務の決定の委任)	
第16条 法令及びこの寄附行為の規定により評議員会に付議しなければならない事項その他この法人 の業務に関する重要事項以外の決定であって、あらかじめ理事会において定めたものについては、 理事会において指名した理事に委任することができる。	
(議事録)	
第17条 議長は、理事会の開催の場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を 作成しなければならない。	
2 議事録には、出席した理事全員が署名押印し、常にこれを事務所に備えて置かなければならな い。	

[添付資料 7 学校法人佐保会学園寄附行為]

[参考資料 27 理事・監事・評議員名簿 28 平成 21 年度の理事会議事録]

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規程、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

小規模な学園であるため、常任理事会、幹部会は置いてない。理事長は、日常的に短期大学学長と大学運営全般について意見交換を行っている。

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成21年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

監事の業務は、学校法人佐保会学園寄附行為第14条に規定している。

第14条 監事は次の各号に掲げる職務を行う。

- 一 この法人の業務を監査すること。
- 二 この法人の財産の状況を監査すること。
- 三 この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後二月以内に理事会及び評議員会に提出すること。
- 四 第一号又は第二号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること。
- 五 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること。
- 六 この法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること。

監事は法人の業務を監査し理事会及び評議員会に出席して意見を述べるほか、法人の財産の状況を監査するため公認会計士との意見交換会を持ち、業務を適正に執行している。

(5) 平成21年度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

表2 評議員会開催状況（平成21年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
21	5	23	平成20年度に係る事業の実績報告について 平成20年度決算について 学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について 奈良佐保短期大学幼児教育科の入学定員変更について	31	31
21	7	18	理事、監事及び評議員の選任について 学校法人佐保会学園寄附金管理委員会規程の制定について 学校法人佐保会学園募金規程の制定について	31	31
21	10	24	学校法人佐保会学園寄附行為の一部改正について	25	25
22	3	13	平成21年度補正予算について	25	25
22	3	27	平成22年度事業計画について 平成22年度予算について 学校法人佐保会学園への現物寄付(土地・建物)について 基本金(第2号)の組み入れについて	25	25

[参考資料 29 評議員会議事録]

評議員会については学校法人佐保会学園寄附行為第18～20条に規定している。

(評議員会)

第18条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、三十一人の評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 理事長は、評議員総数の三分の一以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から二十日以内に、これを招集しなければならない

- い。
- 5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
  - 6 前項の通知は、会議の七日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。
  - 7 評議員会に議長を置き、議長は、理事長をもって充てる。
  - 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決をすることができない。
  - 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意志を表示した者は、出席者とみなす。
  - 10 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
  - 11 議長は、評議員として議決に加わることができない。
- (議事録)
- 第19条 第十七条の規定は、評議員会の議事録について準用する。この場合において、同条第二項中「出席した理事全員」とあるのは、「議長及び出席した評議員のうちから互選された評議員二人以上」と読み替えるものとする。
- (諮問事項)
- 第20条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。
- 一 予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
  - 二 事業計画
  - 三 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄
  - 四 寄附行為の変更
  - 五 合併
  - 六 目的たる事業の成功の不能による解散
  - 七 寄附金品の募集に関する事項
  - 八 その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

**(6) 法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。**

(1) に述べた連絡協議会は現在まで開催されていないが、理事、評議員及び短期大学教職員で構成する「奈良佐保短期大学の学舎改修委員会」（規程なし）を設置し、協力関係を推進している。

本法人は、元々設置を異にする4つの部門（短期大学、3幼稚園）を同一法人の内部部門とした経緯があるため、必ずしも業務の一元化がなされていない。将来的に、人事、経理等全ての業務の一元化を図りたい。

法人と短期大学は、互いの立場を理解し、尊重し、それぞれが管轄する事項について協議を進める必要がある。両者本来のあり方を見据え、将来に向けてあるべき姿を構築していくことが望まれる。

### 【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

学長は、短期大学の教育活動にリーダーシップを発揮している。様々な課題について、学長から提案されることも多く、それが短期大学の活性化に繋がっている。

短期大学に関する重要事項は、組織・運営会議（学長、学科長、事務局長で構成）で原案が検討され、教授会に提案される。教育・研究上の事項は、学科・コースで原案が作成され、関係委員会で審議された後、教授会で決定される。

〔学長〕教育については、大学教育・学生支援事業、大学生の就業力育成事業などのG Pへ積極的に申請するように奨励している。平成21年度には、大学教育・学生支援事業テーマBに採択された。研究については、科研費や地域共同研究への応募、その他の外部資金による研究費確保などを推奨している。

〔参考資料 8 規程集 奈良佐保短期大学学長選考規程〕

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成21年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。  
なお、学則を添付して下さい。

教授会については学則第37～41条に規定している。

第37条 本学に教授会および正教授会を置く。  
2 教授会は、学長および専任の教授、准教授、講師をもって組織する。  
3 正教授会は、学長および専任の教授をもって組織する。  
第38条 教授会は、定期に開催するほか、次の場合に学長がこれを招集、開催する。  
一 学長が必要と認めたとき。  
二 構成員の3分の2以上の要請があったとき。  
第39条 教授会は、次の事項を審議する。  
一 学長候補適任者の推薦および学長候補者の諮問に関する事項  
二 学則の制定および改定に関する事項  
三 学科課程に関する事項  
四 学生の試験ならびに授業に関する事項  
五 入学、卒業等学生の身分に関する事項  
六 学生生活に関する事項  
七 その他大学に関する重要な事項  
第39条の2 正教授会は、次の場合に学長がこれを招集、開催する。  
一 学長が必要と認めたとき。  
二 構成員の3分の2以上の要請があったとき。  
第39条の3 正教授会は、次の事項を審議する。  
一 教員の人事に関する事項  
二 本学名誉教授の選考に関する事項  
三 教授会規則の改廃に関する事項  
四 その他大学に関する極めて重要な事項  
第40条 教授会および正教授会の議長は、学長がこれに当り、学長に事故があるときは、予め学長が指名した教授が代行する。  
第40条の2 教授会が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を得て見解を求めることが

できる。  
第41条 正教授会は、教授会および正教授会に関する規則として教授会規則を定める。

表3 教授会開催状況（平成21年度）

年	月	日		主な議案	出席者数	定数
21	4	1	審議 報告	学籍異動の件〔学生支援センター〕 2009年度聴講生の件〔生涯学習教育センター〕 2009年度シニアワークプログラムの件〔生涯学習教育センター〕 新任教職員紹介の件〔学長〕	23	23
				オリエンテーションの件〔学生支援センター〕 2008年度公開講座の件〔生涯学習教育センター〕		
21	4	13	審議 報告	学籍異動の件〔学生支援センター〕 将来計画委員会設置の件〔学長〕 学生募集要項の件〔入試委員会〕 入試日程の件〔入試委員会〕 地域こども学科カリキュラムの件〔幼児教育科〕 幼児教育科の入学定員変更の件〔学長〕 自己点検・評価活動報告の件〔自己点検評価室〕 平成21年度私立大学等経常費補助金の配分方法の件〔学長〕 私立大学等の平成20年度入学者に係る学生納付金等調査結果の件〔学長〕 特任教員規程一部変更の件〔学長〕	22	23
21	5	11	審議 報告	学籍異動の件〔学生支援センター〕 2009年度特別聴講学生の件〔学生支援センター〕 2009年度前期聴講生の件〔生涯学習教育センター〕 健康管理士一般指導員の件〔生活未来科〕 教員免許状更新講習会の件〔幼児教育科〕 入試説明会実施計画の件〔入試委員会〕 訪問介護員養成研修2級課程の件〔ヘルパー2級実行委員会〕 大学祭テーマの件〔大学祭実行委員会〕 奈良県大学人権教育研究協議会等の研修会・講演会等への参加協力の件〔人権教育推進委員会〕 学生の検診結果の件〔学生支援センター〕 2009年度シニアワークプログラムの件〔生涯学習教育センター〕	23	23
21	5	18	審議 報告	奈良佐保短期大学学則の一部改正の件〔教務委員会〕 新型インフルエンザ対策会議の件〔学長〕	20	23
21	6	8	審議 報告	学籍異動の件〔学生支援センター〕 オープンキャンパス実施要領の件〔広報委員会〕 高校訪問計画の件〔広報委員会〕 二階堂高校保護者見学の件〔入試・広報センター〕 自己点検・評価研修会報告の件〔自己点検評価室〕 2009年度前期聴講生追加の件〔生涯学習教育センター〕 校友会総会の件〔学生支援センター〕 募集要項の件〔広報委員会〕 大学祭役割分担の件〔大学祭実行委員会〕	20	23
21	7	13	審議	学籍異動の件〔学生支援センター〕 奈良佐保短期大学学則一部改正の件〔教務委員会〕 奈良佐保短期大学履修規程一部改正の件〔教務委員会〕 履修細則一部改正の件〔教務委員会〕 所属課程以外の専門教育科目履修に関する内規一部改正の件〔教務委員会〕 奈良佐保短期大学専攻科福祉専攻規則一部改正の件〔教務委員会〕 不正行為防止に関する内規一部改正の件〔教務委員会〕	22	23

			報告	2010 年度年間予定の件 [教務委員会] 2010 年度カリキュラム編成の件 [教務委員会] 公開授業実施の件 [自己点検評価室] 教員免許状更新講習予備判定委員会の件 [幼児教育科] 2009 年度後期授業回数 の件 [教務委員会] 2009 年度後期時間割変更の件 [教務委員会] 教育理念揭示の件 [自己点検評価室] 授業評価アンケート項目の件 [自己点検評価室] 介護福祉士等修学資金の件 [学生生活委員会] 日本学生支援機構奨学生の件 [学生生活委員会] 夏季休業中の注意事項の件 [学生支援センター] 校友会主催七夕の件 [学生支援センター] 大学祭役割分担の件 [大学祭実行委員会] 夏季休暇中の図書貸出の件 [図書館] 2009 年度後期開放授業の件 [生涯学習教育センター]		
21	9	14	審議	学籍異動の件 [学生支援センター] 卒業判定の件 [学生支援センター] 科目等履修生の件 [学生支援センター] 奈良佐保短期大学履修規程一部改正の件 [教務委員会] 社会福祉士履修細則制定の件 [教務委員会] 新型インフルエンザ対応の件 [学生生活委員会] 学内禁煙の件 [学生生活委員会] 2009 年度後期聴講生の件 [生涯学習教育センター] 履修証明プログラムの件 [教務委員会]	22	23
			報告	奈良佐保短期大学創立 80 周年記念事業実行委員会規程制定の件 [80 周年記念事業実行委員会] 自己点検評価室報告の件 [自己点検評価室] 日本学生支援機構奨学生追加採用の件 [学生生活委員会] キャンパスアンケートの件 [学生生活委員会] 七夕・夏祭りの件 [学生生活委員会]		
21	10	12	審議 報告	学籍異動の件 [学生支援センター] 留学生日本語別科設置の件 [学長] 奈良佐保短期大学学則一部改正の件 [教務委員会] 2010 年度カリキュラム編成の件 [教務委員会] 専攻科学籍異動の件 [専攻科運営委員会] 授業評価アンケートの件 [自己点検評価室] 学生生活委員会報告の件 [学生生活委員会] 2009 年度後期聴講生の件 [生涯学習教育センター] 大学祭の件 [大学祭実行委員会] 奈良女子高等学校見学の件 [入試・広報センター] 10 月 17 日入試実施計画の件 [入試委員会]	21	23
21	10	19	審議	2010 年度入学試験合否判定の件 [入試委員会] 奨学生の件 [奨学等選考委員会] 奈良佐保短期大学学則一部改正の件 [教務委員会]	20	23
21	11	9	審議 報告	2010 年度入学試験合否判定の件 [入試委員会] 奨学生の件 [奨学等選考委員会] 学籍異動の件 [学生支援センター] 子育て支援センターバックアップ委員会規程の件 [子育て支援センターバックアップ委員会] 第三者評価の評価基準の件 [自己点検評価室] 2009 年度シニアワークプログラム(子育て支援)アンケートの件 [生涯学習教育センター] 南京都高等学校学校見学会の件 [入試・広報センター] 2010 年度専攻科入学試験合否結果の件 [専攻科運営委員会] 専任教員退職の件 [学長]	19	23

				大和郡山PICAメッセ参加の件 [生活未来科] 子育て支援センターの件 [幼児教育科] 大学祭の件 [大学祭実行委員会]		
21	11	30	審議	2010年度入学試験合否判定の件 [入試委員会] 奨学生の件 [奨学等選考委員会]	20	23
21	12	14	審議	学籍異動の件 [学生支援センター] 奈良佐保短期大学学則一部改正の件 [教務委員会] 奈良佐保短期大学日本語教育別科規則制定の件 [教務委員会] 奈良佐保短期大学日本語教育別科運営委員会規則制定の件 [別科プロジェクト] 2010年度カリキュラム編成の件 [教務委員会] 自己点検評価室報告の件 [自己点検評価室]	21	23
			報告	学生生活委員会報告の件 [学生生活委員会] 冬季休業中の注意事項の件 [学生支援センター] 卒業証書・修了証書授与式代表学生及び手伝い学生の件 [学生支援センター] 大学祭の件 [大学祭実行委員会] 耐震調査結果及び電気代デマンド値の件 [事務局長]		
21	12	21	審議 報告	2010年度入学試験合否判定の件 [入試委員会] 奨学生の件 [奨学等選考委員会] 2010年度専攻科入学試験合否結果の件 [専攻科運営委員会]	22	23
22	1	18	審議 報告	学籍異動の件 [学生支援センター] 西安外国語大学との交流協定の件 [学長] 奈良佐保短期大学学則一部改正の件 [教務委員会] 奈良佐保短期大学日本語教育別科規則制定の件 [教務委員会] 2010年度カリキュラム編成の件 [教務委員会] 2010年度年間予定の件 [教務委員会] 2011年度入試日程の件 [入試委員会] 耐震化工事とキャンパス整備の件 [学長] 公開授業報告の件 [自己点検評価室] キャンパスライフアンケートの件 [学生生活委員会] 学年度末休業中の注意事項の件 [学生生活委員会]	22	23
22	2	1	審議 報告	2010年度入学試験合否判定の件 [入試委員会] 2011年度入試日程の件 [入試委員会] 2010年度専攻科入学試験合否結果の件 [専攻科運営委員会]	21	23
22	2	8	審議 報告	後期入学の件 [学長] 奈良佐保短期大学学則一部改正の件 [教務委員会] オリエンテーションの件 [学生生活委員会] 2010年度公開講座の件 [生涯学習教育センター] 2010年度開放授業の件 [生涯学習教育センター] 平成21年度卒業証書・修了証書授与式実施要領の件 [総務部] 卒業式・入学式手伝い学生の件 [学生生活委員会] 学生の進路状況の件 [学生支援センター]	18	23
22	3	1	審議	卒業判定の件 [学生支援センター] 卒業延期希望学生の件 [学生支援センター] 日本語教育別科案内・日本語教育別科入試要項の件 [日本語教育別科プロジェクト]	22	23
22	3	3	審議 報告	2010年度入学試験合否判定の件 [入試委員会] 2010年度専攻科入学試験合否結果の件 [専攻科運営委員会]	22	23
22	3	8	審議	学籍異動の件 [学生支援センター] 科目等履修生の件 [学生支援センター] 2010年度シニアワーク・子育て支援プログラムの件 [生涯学習教育センター]	23	23

			報告	2009年度あせび賞の件〔奨学等選考委員会〕 西安外国語大学高職部との学生交流協定書締結の件〔学長〕 公開授業の件〔自己点検評価室〕 修了判定の件〔専攻科運営委員会〕 卒業証書・修了証書授与式代表学生及び卒業記念品の件〔学生生活委員会〕 自己点検・評価研修会の件〔自己点検評価室〕 2009年度公開講座の件〔生涯学習教育センター〕 卒業証書・修了証書授与式実施要領について〔総務部〕 来年度組織分掌について〔学長〕		
22	3	15	審議 報告	2010年度入学試験合否判定の件〔入試委員会〕 奨学生の件〔奨学等選考委員会〕 地域こども学科幼稚園教諭履修細則及び同保育士履修細則一部改正の件〔教務委員会〕 科目等履修生の件〔学生支援センター〕 2009年度井田康子賞の件〔奨学等選考委員会〕 2011年度学生募集要項の件〔入試委員会〕 学則の表現に関する件〔事務局長〕 2010年度専攻科入学試験合否結果の件〔専攻科運営委員会〕 正教授会報告の件〔学長〕 西安外国語大学との交流協定締結の件〔学長〕 理事会報告の件〔学長〕 オープンキャンパス実施要綱の件〔広報委員会〕 大学展の件〔大学展実行委員会〕 2010年度時間割の件〔学生支援センター〕	20	23
22	3	29	審議 報告	学籍異動の件〔学生支援センター〕 自己点検・評価関係規程一部改正の件〔自己点検評価室〕 公開授業実施要領一部改正の件〔自己点検評価室〕 2010年度オリエンテーションの件〔学生支援センター〕 授業評価アンケートの件〔学生支援センター〕 2009年度自己点検・評価活動総括の件〔自己点検評価室〕 平成22年度訪問介護員養成研修2級課程の件〔ヘルパー2級実行委員会〕 平成22年度入学式実施要領及び役割分担の件〔事務局長〕 平成22年度組織・分掌・委員会の件〔学長〕	22	23

表4 正教授会開催状況（平成21年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
21	10	5	生活未来科特任教員の採用について	9	9
22	1	18	生活未来科教員の採用について	9	9
22	2	1	生活未来科教員の採用について	8	9
22	2	8	幼児教育科教員の昇任について（現地域こども学科）	9	9
22	3	15	生活未来科教員の採用について	9	9
22	3	29	生活未来科特任教員の採用について	8	9

〔添付資料 8 学則〕 〔参考資料 30 教授会議事録 31 正教授会議事録〕

(3) 学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成21年度の開催状況等を記述して下さい。

表5 委員会開催状況（平成21年度）

I. 組織に関するもの

委員会等名称 ① 根拠規程 ② 主な業務	③ 構成メンバー	④ 開催状況
組織・運営会議 ① 無 ② ・大学の運営に関する事項	学長・事務局長・学科長	4/2, 4/9, 4/16, 4/23 5/7, 5/21, 5/28, 6/4 6/11, 6/25, 7/2, 7/9 7/16, 7/23, 7/30 8/20, 8/27, 9/3, 9/17 9/24, 10/1, 10/8 10/15, 10/22, 11/5 11/12, 11/19, 12/3 12/10, 12/17, 12/24 1/7, 1/14, 1/20, 1/24 2/16, 2/25, 3/5, 3/12 3/18, 3/25, 3/31
連絡協議会議 ① ②	学長・事務局長・学科長 コース長・総務部長 各センター長	
教員選考委員会 ① 教員選考規程 ② ・教員採用の選考 ・教員昇任の選考	学長 所属学科の教授 若干名 他の学科の教授 1名	9/28, 1/13, 1/25, 2/4 3/12, 3/23
事務職員選考委員会 ① 事務職員選考規程 ② ・事務職員採用の選考 ・事務職員昇任の選考 ・事務職員昇格の選考	学長 学科長 事務局長	3/23

II. 分掌に関するもの

生活未来科会議 ① 無 ② ・学科の教育に関わる事項 ・各種行事の実施に関わる事項	生活未来科教員	4/13, 4/27, 6/5, 7/13 7/27, 8/24, 9/14, 11/9 12/14, 1/25, 2/8, 3/8 3/29
生活未来科生活福祉コース会議 ① 無 ② ・コースの教育に関わる事項 ・各種行事の実施に関わる事項	生活福祉コース教員	4/1, 4/13, 6/8, 6/22 7/6, 7/12, 7/27 10/5, 10/7, 11/30
生活未来科食物栄養コース会議 ① 無 ② ・コースの教育に関わる事項 ・各種行事の実施に関わる事項	食物栄養コース教員	4/13, 4/27, 5/11, 6/1 6/8, 6/22, 7/27, 8/18 9/7, 10/12, 11/30 12/28, 1/25, 2/22
生活未来科ビジネスキャリアコース会議 ① 無 ② ・コースの教育に関わる事項 ・各種行事の実施に関わる事項 ③ 別途BCコース運営会議を開催(規程有)	ビジネスキャリアコース教員 外部メンバーを含む 運営会議を開催している	4/2, 5/2, 6/6, 7/4 7/28, 8/29, 10/3, 11/7 12/5, 1/9, 2/6, 3/6
幼児教育科会議 ① 無 ② ・学科の教育に関わる事項 ・各種行事の実施に関わる事項	幼児教育科教員	4/13, 4/27, 5/11, 6/8 6/22, 7/13, 7/17, 8/19 9/14, 9/28, 10/12 11/9, 11/30, 12/14 12/28, 1/25, 2/8, 2/22 3/8, 3/26, 3/29

<p>専攻科運営委員会</p> <p>① 専攻科運営委員会規則</p> <p>② ・専攻科福祉専攻規則の改定に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科課程に関する事項</li> <li>・学生の試験並びに授業に関する事項</li> <li>・入学、卒業等学生の身分に関する事項</li> <li>・学生生活に関する事項</li> <li>・その他専攻科に関する重要な事項</li> </ul>	<p>専攻科長</p> <p>専攻科専任教員</p> <p>各学科教員 1名以上</p>	<p>10/12, 11/9, 12/19</p> <p>2/1, 3/8</p>
<p>入試委員会</p> <p>① 入試委員会規程</p> <p>② ・入試要項の企画に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入試の実施に関する事項</li> <li>・入試の可否判定に関する事項</li> <li>・その他入学者選抜に関する事項</li> </ul>	<p>副学長</p> <p>学科長</p> <p>専攻長</p> <p>入試・広報部長</p>	<p>4/1, 4/13, 4/27, 5/1</p> <p>5/14, 5/18, 7/27, 8/3</p> <p>8/24, 8/31, 9/7, 9/14</p> <p>9/17, 9/24, 9/28, 10/1</p> <p>10/2, 10/5, 10/19,</p> <p>10/25, 10/27, 10/29</p> <p>11/2, 11/9, 11/11</p> <p>11/20, 11/30, 12/2(2回開催)</p> <p>12/14, 12/21, 12/24</p> <p>1/13, 1/18, 1/21, 2/1</p> <p>2/8, 2/10, 2/17, 2/22</p> <p>3/1, 3/3, 3/8, 3/15, 3/29</p>
<p>教務委員会</p> <p>① 教務委員会規程</p> <p>② ・教育課程に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間割に関する事項</li> <li>・履修登録に関する事項</li> <li>・学科試験及び成績に関する事項</li> <li>・学生の学修に関する事項</li> <li>・その他教学に関する事項</li> </ul>	<p>教務部長</p> <p>学科長</p> <p>専攻長</p> <p>各学科専攻教員1～2名</p>	<p>4/1, 4/20, 5/18, 6/1</p> <p>6/15, 7/6, 7/27, 9/7</p> <p>10/5, 11/2, 12/7, 2/1</p> <p>3/1, 3/15</p>
<p>学生生活委員会(学生生活・進路)</p> <p>① 学生生活委員会規程</p> <p>② ・学生生活指導に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の健康管理に関する事項</li> <li>・学生の進路指導に関する事項</li> </ul>	<p>学生部長</p> <p>学生・進路・厚生課長</p> <p>各学科教員 2名以上</p> <p>事務局各部</p>	<p>4/20, 5/18, 6/15,</p> <p>7/6, 9/7, 10/5,</p> <p>12/7, 1/18, 2/1, 3/1</p>
<p>図書委員会</p> <p>① 図書委員会規程</p> <p>② ・図書館の運営に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館関係の規程の制定及び改廃に関する事項</li> <li>・図書館の予算に関する事項</li> <li>・その他図書館に関する事項</li> </ul>	<p>図書館長</p> <p>学科(専攻科は幼児教育科を含む。)</p> <p>から選出された教員各2名以上</p> <p>図書館職員</p>	<p>4/20, 6/8, 7/13</p> <p>8/17, 9/14, 10/12</p> <p>11/16, 12/14, 1/8</p>
<p>学術研究委員会</p> <p>① 学術研究委員会規程</p> <p>② ・本学研究紀要の発行に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他本学の学術研究に関する事項</li> </ul>	<p>各学科教員 1名以上</p> <p>図書館職員 1名以上</p>	<p>4/27, 3/29</p>
<p>広報委員会(広報)</p> <p>① 広報委員会規程</p> <p>② ・広報活動に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報予算に関する事項</li> <li>・あせび通信の発行に関する事項</li> <li>・その他、広報に関する必要な事項</li> </ul>	<p>入試・広報部長</p> <p>入試・広報次長</p> <p>広報課長</p> <p>各学科教員1名以上</p> <p>事務局各部1名以上</p> <p>その他学長が必要と認めた者</p>	<p>4/6, 4/20, 5/18, 6/1</p> <p>6/15, 7/6, 8/3, 10/4</p> <p>11/2, 12/7, 12/21</p> <p>1/18, 2/1, 2/14</p>
<p>人権教育推進委員会(セクハラ等対策を含む)</p> <p>① 人権教育推進委員会規程</p> <p>② ・学生・教職員に対する人権教育の推進に関する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セクシュアル・ハラスメント防止に関する事項</li> <li>・奈良県大学人権教育研究協議会に関する事項</li> <li>・その他人権教育推進に関する事項</li> </ul>	<p>各学科教員 1名以上</p> <p>事務局各部 1名</p>	<p>4/13, 12/21</p>

奨学等選考委員会 ① 優秀学生表彰規程 特待生選考委員会規定 井田康子賞選考委員会規程 奨学生選考委員会規程 ② 奨学生の選考を行う	学生部長 学科長 専攻長 厚生課長	4/6, 5/11 9/25, 10/12, 10/19 11/9, 11/12, 11/30 12/21, 3/1, 3/15
教職課程専門委員会 ① 無 ② ・教職課程認定に関する事項 ・教職課程大学実地視察に関する事項 ・全国私立大学教職課程連絡協議会に関する事項 ・阪神地区私立大学教職課程連絡協議会に関する事項	幼児教育科教員 4名	5/7
防災・環境委員会 ① 防災・環境委員会規程 ② 消防計画、防火教育、防災・環境に関する事項	防火管理者 各学科の教員から1名 その他学長が必要と認めた者	7/15
将来計画委員会 ① 無 ② 将来計画を構想する	学長、学科長 その他教職員	6/18, 6/25, 8/26, 9/14, 1/14, 1/18, 2/8, 3/11
施設管理委員会 ① 無 ② ビオトープ・農園運用プロジェクトを引き継ぎ、 自然広場と農園の運用に関して検討を行う		5/25, 10/5

### Ⅲ. 各センターに関するもの

情報管理委員会 ① 情報メディアセンター管理委員会規程 ② ・情報メディアセンター長の選考に関する事項 ・情報メディアセンターの管理運営の基本方針に関する事項 ・学内情報セキュリティーの基本方針に関する事項 ・その他センターに関する重要事項	学長 副学長 学科長 図書館長 センター長 事務局長,事務局長の部長	開催せず
情報メディアセンター運営委員会 ① 情報メディアセンター運営委員会規程 ② ・運営方針及び利用計画に関する事項 ・予算及び決算に関する事項 ・施設・設備の整備計画に関する事項 ・その他センターの運営に関する必要な事項	情報メディアセンター長 学科（専攻科は幼児教育科を含む。）から選出された教員 各1名 図書館及び事務局各部から選出された事務職員 各1名 その他学長が必要と認めた者	4/27,6/22,7/13,8/3 9/7,10/5,11/2,2/1 3/1
ウェブサイト運営委員会 ① ウェブサイト運営委員会規程 ② ・ウェブサイト企画に関する事項 ・ウェブサイト運営に関する事項 ・ウェブサイトのセキュリティに関する事項 ・そのほかウェブサイトに関する事項	情報メディアセンター長 各学科・専攻から選出された教員 各1名以上 図書館及び事務局各部から選出された事務職員 各1名 情報メディアセンター員	4/27,6/22,7/13,8/3 9/7,10/5,11/2,2/1 3/1
生涯学習教育センター運営委員会 ① 生涯学習教育センター規程 ② ・大学開放事業の企画及び推進 ・生涯学習プログラムの研究及び開発 ・公開講座の企画及び運営 ・諸団体からの委託講座の開催及び諸団体が開催する講演会等への講師派遣 ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び大学との連携事業 ・地域の関係機関及び団体等との連携 ・その他学習センターの目的を達成するに必要な事業	学習センター長 学習センター員 専任教員 若干名 図書館および事務局から選出された事務職員 若干名 その他学長が必要と認めた者	4/6, 4/20, 5/18 6/15, 8/17, 9/28 10/18, 11/16, 12/21

#### IV. 自己点検評価に関するもの

自己点検評価室会議 ① 自己点検評価室に関する規程 ② ・評価の企画に関すること ・自己点検・評価の分析に関すること ・評価の公表に関すること ・評価結果に関すること ・評価結果の提言に関すること ・評価に関する情報の収集に関すること ・その他評価に関すること	室長・副室長 ALO 各学科教員 事務局 1名以上	4/20, 5/11, 6/15 7/13, 8/17, 10/5 10/12, 11/2, 11/9 11/16, 11/30, 12/21 1/25, 2/22, 3/1, 3/15
FD推進委員会 ① FD規程 ② ・FD研修会におけるテーマの設定、講師の選任 ・授業評価アンケートの原案 ・研修プログラムの原案 ・相互研修に関する日程の調整 ・その他自己点検評価室長から諮問された事項	各学科2～3名	4/27, 6/3, 6/15 10/5, 1/18, 3/1 3/11
SD委員会 ① SD規程 ② ・SD研修会におけるテーマの設定、講師の選任 ・業務改善プログラム ・相互研修プログラム ・その他本学のSD活動推進に有効な施策	事務局各部1名 室員 1名	4/23, 5/28, 7/2 7/23, 3/5
点検評価担当員会議 ① 点検評価担当員に関する内規 ② ・所属する機関における自己点検・評価 ・所属機関の点検結果の取りまとめ ・結果について改善策の検討 ・業務改善状況等の自己点検評価室への報告	各学科教員 1名以上 事務局各部 1名 各委員長	6/29, 1/25

#### V. 実務に関するもの

大学祭実行委員会 ① 無 ② ・特定の行事・業務を企画し、全学的な調整・協力体制を推進して、実行する	生活未来科 2名 幼児教育科 3名 事務局から選出された事務職員 各2名	4/20, 4/28, 6/1 6/29, 8/31, 9/28 10/19, 11/9
大学展実行委員会 ① 無 ② 特定の行事・業務を企画し、全学的な調整・協力体制を推進して、実行する	幼児教育科 4名 生活未来科 3名 職員 3名	2/4, 3/1, 3/4
留学生プロジェクト委員会 ① 無 ② 別科設立に関すること	各学科から選出された教員 各1名以上 事務局から選出された事務職員 各2名	7/27, 10/25, 9/4, 3/29
募金準備委員会 ① 無 ② ・寄附金募集事業案の策定 ・募金委員会案の策定	教員3名(内2名は学内理事) 法人本部事務室長	6/15
80周年記念事業実行委員会 ① 創立80周年記念事業実行委員会規程 ② 本学80周年記念に関する企画・実施などの事業を行う	学長 専任教員・専任職員 各若干名 その他学長が必要と認めたもの	6/22, 8/25, 1/8
介護技術講習会実行委員会 ① 無 ② 介護技術講習会の開催	委員長 生活福祉コース 4名 福祉専攻 2名	8/20, 8/21, 8/27, 8/28
厚労省事業対策等実行委員会 ① 無 ② 潜在的有資格者等養成支援事業 (キャリアアップ支援事業・福祉介護チャレンジ教室)	生活福祉コース 4名 福祉専攻 3名	8/10, 2/18, 3/4, 3/18

[参考資料 8 規程集 委員会規程 32 委員会議事録、50 委員会組織]

**(4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えがない範囲で記述して下さい。**

運営に関する決定が周知されない場合、あるいは決定に至る経過が学内に十分伝わらない状況のまま物事が進む場合がある。社会の急激な変化に対応するためある程度手続きの簡略化は止むを得ないが、その分情報の共有を図る仕組みが必要となる。また担当部署が明確でない業務は責任の所在があいまいとなり、そのため業務が進まないことや情報の共有が十分でなく不都合を生ずることがある。今後は業務の明確化、情報共有のためのシステム作りなどを進めたい。

委員会については、所属委員数の多いこと、一人が多数の委員会に属すること、また委員会全体を規定する規程が無いので、委員会の新設・改廃が頻繁に行われることが課題である。委員は学科代表であることを明確にして、人数を削減すると共に、委員会全体を包括する規程の制定が必要である。

〔学長〕現在短期大学が抱えている問題は、ひとえに学生確保である。わが国の高等教育の中で、短期大学は女子高等教育に大きな役割を果たしてきたが、女子学生が四年制大学へ進学するようになり、短大進学者は10年ほど前の三分の一以下になった。また短期大学の役割は専門教育へシフトしてきた。しかしながら、専門学校との競合及び四年制大学による保育や介護分野への参入による競争激化により、学生確保が非常に厳しい状況にある。この状況の中で、社会情勢に対応し学科・コースの編成を変え、他大学や高校、地域との連携を進めていかねばならず、学内の意見を十分に聴取し汲み上げる余裕がないのも事実である。学内の重要事項について検討する組織・運営会議は、学長、学科長、事務局長から構成されているので、それぞれの学科、事務部局への情報は伝わっているものと思っている。新しい動向等については、学長から全学へのメールあるいは学長ブログを通して情報の共有に努めている。教職員には情報が来るのを待っていないで、積極的に情報を取りに来ることを期待したい。

**【事務組織について】**

(1) 現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名（課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む）、各部門の人員（専任・兼任の別を含む）、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際にご案内いただきます。

図1 事務組織図

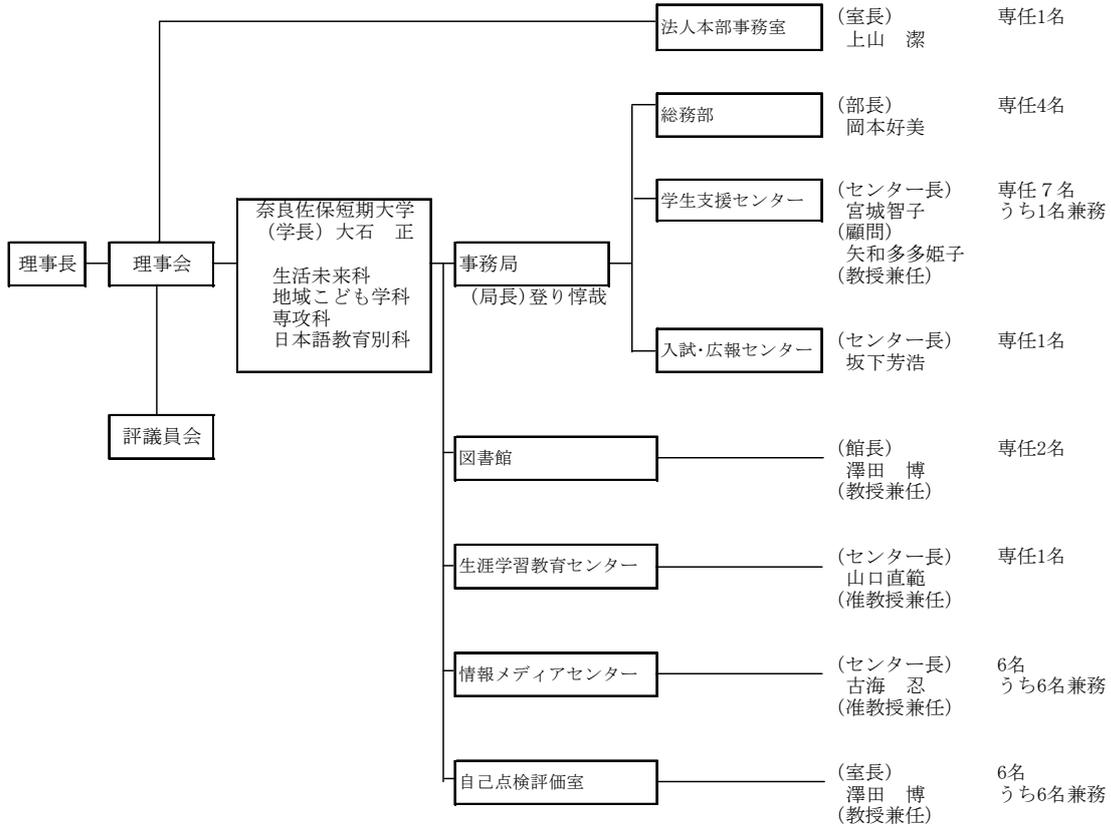


表6 主な業務内容

法人本部事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事会及び評議員会等について</li> <li>・経理事務（予算・決算）の総括について</li> <li>・人事事務について</li> <li>・補助金事務について</li> <li>・その他、学園の管理・運営に関する業務について</li> </ul>
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公印、文書管理</li> <li>・職員の任免、人事・サービス、給与</li> <li>・予算、決算、会計</li> <li>・契約関係、統計調査、科学研究費補助金等</li> <li>・後援会</li> <li>・施設管理</li> <li>・学科事務</li> </ul>
学生支援センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の成績、学籍簿</li> <li>・授業時間割</li> <li>・学生の身分</li> <li>・教授会、学則等</li> <li>・課外活動、学生団体</li> <li>・学生主催行事の助言、指導</li> <li>・奨学金、学生の健康管理</li> <li>・就職相談、就職指導</li> <li>・就職斡旋、求人開拓</li> </ul>
入試・広報センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験</li> <li>・学生募集、大学広報</li> <li>・オープンキャンパス</li> <li>・高校訪問</li> <li>・学外出張講義事務</li> </ul>
図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の予算、決算</li> <li>・図書の購入、分類</li> <li>・図書目録の編集</li> <li>・参考業務</li> </ul>

生涯学習教育センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座</li> <li>・開放授業</li> <li>・受託事業</li> </ul>
情報メディアセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワークの管理運営</li> <li>・学術研究の情報処理</li> <li>・情報処理教育</li> <li>・各種事務の情報化</li> <li>・図書館の情報化</li> <li>・その他情報処理</li> </ul>
自己点検評価室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価活動の推進</li> <li>・評価結果の活用を図るための企画、立案</li> <li>・評価結果に基づく改善措置の提言</li> <li>・その他自己点検・評価に関すること</li> </ul>

**(2) 事務職員の任用（役職者の任免を含む）について現状を訪問調査時にご説明下さい。**

**(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。**

- ・学校法人佐保会学園組織規程（第3章 短期大学の組織）
  - ・学校法人佐保会学園事務分掌規程
  - ・奈良佐保短期大学文書取扱規程
  - ・文書保存規程
  - ・奈良佐保短期大学公印規程
  - ・奈良佐保短期大学事務職員選考規程
  - ・奈良佐保短期大学事務職員昇格選考基準
  - ・奈良佐保短期大学事務職員昇任基準
  - ・奈良佐保短期大学事務職員格付け基準
- [参考資料 8 規程集]

**(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。**

決裁書類は、起案者が上司の承認を得て総務部に回付し、総務部長、事務局長、学長の順に決裁を得ている。理事長の決裁が必要な場合は、稟議書により前途の手続き後、法人本部へ回付し、法人本部事務室長、理事長の承認を得て決裁される。

公印管理は、奈良佐保短期大学公印規程により管理責任者を決め、総務部にある防犯ブザー付金庫にて厳重に保管している。学籍簿は金庫に、学生関係の文書は鍵のかかる文書保管庫に、経理書類等は総務部内の金庫に保管している。

学内にサーバを設置し、ファイアウォールを設定している。階層を事務・教員・学生に区別し、また学内LANに接続するためのIDを教職員、学生全員に配付しシステムの安全対策を行っている。

**(5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者（事務局長等）が現状を率直に記述して下さい。**

事務職員は誠意をもって学生に対応している。このことから、卒業時の学生生活に関するアンケートでも良い結果を得ている。また教員とも信頼し合って業務を遂行しており、委員会活動なども協力する体制で行われている。

**(6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント（SD）活動（業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等）の現状を記述して下さい。**

自己点検評価室にSD委員会を置き、SD活動を推進する体制を整えている。年1回以上SD研修会を開催し、職員から提案されたテーマを取り上げて研修している。また学外の研修会にも、業務と時間の許す範囲で積極的に参加している。ただし、こうした研修会の報告が周知される体制とはなっておらず、情報が浸透していないのが現状である。

[参考資料 51 SD研修会報告書 52 SD外部研修会報告書]

**(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。**

長年教員が部長職を占めてきたことにより管理職の養成ができていない。管理職の概念についても、共通認識ができていない。日常の業務遂行については問題ないが、自ら判断して業務を進める、業務の優先順位を決定する、業務に関し他の部署と折衝するといった管理能力を有する職員の養成が非常に遅れている。早急に管理職研修を繰り返し実施し、管理職のあり方について職員の意識向上を図る必要がある。このことは、本学のSD活動及びSD研修会の大きなテーマであると考えている。

#### **【人事管理について】**

**(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規程等）を訪問調査の際にご準備下さい。**

教員は20歳代を除き各年代が平均して在籍しているが、事務職員は50歳代及び20歳代が不足している。50歳代の職員の不足が管理職あるいは幹部職員の不足を招いており、早急の養成が必要となっている。また20歳代の職員の不足は将来に問題を残すことになるが、財政上新規の増員ができないので、解決は困難である。

[参考資料 8 規程集 学校法人佐保会学園就業規則 給与規程]

**(2) 法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。**

〔理事長〕平成21年度に学校法人佐保会学園寄附行為を変更し、理事・評議員の定員削減、理事・評議員における短期大学教職員比率の増加、企業出身者の理事就任、社団法人佐保会の短大への協力増加などにより理事会が活性化されてきている。連絡協議会の形は採っていないが、財務や建築等個別の問題について短期大学教職員と協議する場を設け検討を進めている。こうしたことにより、徐々に法人と短期大学との協力体制が構築され、関係が良好なものとなってきている。

〔学長〕理事会と短期大学教職員との関係は、以前に比べ良好なものとなってきている。また学校法人佐保会学園寄附行為が変更され、理事長のリーダーシップのもと理事・評議

員の定員を削減するとともに構成の偏りを是正した。特に今年度は、耐震化工事、学生レストランの新築など大きな工事を開始するために、理事会に設置された財務委員会並びに建築委員会と短期大学教職員が互いに協力して計画を立てている。

**(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。**

教員と事務職員との関係は良好である。事務職員の約半数が卒業生であるため、双方の距離が近い関係であるといえる。そのため職場における雰囲気は家庭的である一方で、公私の境界がはっきりしない場合も見受けられ、学生にもそれが伝わっている場合がある。学生にとって居心地よい環境であることは好ましいが、反面学外実習や就職活動等で社会へ出た際に対応できない学生もいるので、職場での規律や組織のあり方について全教職員が共通認識を持つておく必要がある。

〔事務局長〕教員と事務職員は、互いの立場を理解し、協力しつつ業務を進めている。事務職員の約60%が本学卒業生で、双方の距離は近い関係にあるといえ、良い関係を築くひとつの要因となっている。一方師弟関係が継続していることもあり、教員と対等の立場であるという認識が不足している。このことが、個人の能力を磨き高め、自ら判断するという面に欠ける結果に繋がっていることは否めない。

**(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。**

教職員全員を対象に、毎年市内の検診センターで定期健康診断を実施している。就業環境に改善については、毎年教職員組合と団体交渉を行い、改善できるものから実施している。具体的には、就業時間の変更に伴うバス便が改善された。就業時間は、就業規則に8時50分から17時15分と定めている。業務上必要がある場合は、所属長の許可を得て残業することがある。大学行事で休日出勤した場合は、振替を基本としている。年休は申請により認められるが、業務や人員配置の関係から取りにくいのが現状である。

〔事務局長〕年次有給休暇については、年間20日で残日数も20日限度とし翌年度へ繰り越すこととしている。職員からの申出日を変更したこともなく、問題なく取得している。事務職員の年休消化率は平成19年度18%、20年度20%、21年度32%と増加してきている。

**【特記事項について】**

**(1) この《Ⅷ管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。**

〔学長〕短期大学の経営が非常に厳しい状況の中で、学生確保のための広報活動、私学補助金確保、教職員数の適正化による人件費の削減、国や地方自治体が行う事業への参加、地域と連携した事業やイベントへの参加、委員会の活性化等々により教職員は従来に比べ非常に多忙となっている。一方勤務状況に差があることから、一部から勤務評定の希望が出ている。評価項目を設定し、自己評価、上司による評価を入れることを検討しているが、なかなか難しい問題を含んでいる。

## 《IX 財務》

## 《IX 財務》

### 【財務運営について】

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

中・長期の財務計画の策定について、管理運営の項で述べた財務分科会で、短期大学の将来計画委員会と理事会メンバーで協議を進める体制が整えられた。なお短期の計画については、平成 20 年度の定員割れ改善促進特別支援経費申請に際し、経営改善計画書（平成 20 年度～24 年度）が策定された。

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

事業計画及び予算は、短期大学、各附属幼稚園を含め本法人が設置する全部門についての事業計画及び予算が盛り込まれており、理事長が原案を編成し、評議員会での意見聴聞の後、理事会の議を経て策定される。事業計画と予算は関連する事柄なので並行した作成作業となっている。

短期大学にあつては、理事長からの事業計画及び予算案作成依頼の通知文書により、各学科、事務局、図書館、各委員会等が事業計画案と予算必要額を立案し、組織・運営会議（学長、学科長、事務局長で構成）において検討して短期大学案を作成し、学長から理事長に説明を加えて提出される。

(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

予算は理事会で承認された後、理事長から短期大学へ通知される。短期大学では、通知を受けて、学科、事務局、図書館、各委員会の長宛に予算配分がなされる。短期大学の予算執行に係る業務の流れは、物品購入、役務提供等は、物品購入等の伺を理事長に提出して承認を得た後契約等を行い、短期大学経理担当者による起票により支出手続きを処理している。寄附行為では 50 万円以上は理事長が、5 万円以上は担当理事が決裁すると規定しているが、事務量が膨大でないで全て理事長決裁としている。なお、高額の支出を伴うものや重要な計画にあつては、事前に短期大学内限りの「企画提案書」で学長の承認を得る体制としている。

(2) で述べた短期大学予算案は、配分に当たって再度組織・運営会議で検討される。そのため、実際に部署の長に通知されるのは年度をかなり過ぎた時期となることがある。この状況を改善するため、予算作成に関する専門委員会を設置して学内の事前調整を行い、年度開始と同時に予算執行できる体制をとる必要がある。

学校法人佐保会学園 経理規程〔参考資料 8 規程集〕

(4) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

表1 公認会計士による監査実施状況(平成19年度～21年度)

年	月	日	概要	備考
19	4	3・4	期中監査及び現金・定期預金証書等実施	
	4	16・17	決算監査	
	5	15・16	決算監査	
	6	21・22	期中監査	
	8	6・7	期中監査	
	8	30・31	期中監査	
	10	15・16	期中監査	
	11	21・22	期中監査	
20	2	12・13	期中監査	
	3	4・5・6	期中監査	
	4	3・4	期中監査及び現金・定期預金証書等実査	
	4	16・17	決算監査	
	5	1	決算監査	
	5	14・15・16	決算監査	
	5	21・22	決算監査	
	6	26・27	期中監査	
	9	3・4	期中監査	
	10	16・17	期中監査(生駒幼稚園実査を含む)	
	11	27・28	期中監査	
21	1	15・16	期中監査	
	3	25・26	期中監査	
	4	3	期中監査及び現金・定期預金証書等実査	
	4	7・8	決算監査	
	5	20・21・22	決算監査	
	6	17・18	期中監査	
	9	24・25	期中監査	
	10	20・21	期中監査	
22	2	3・4・5	期中監査	
	3	25・26	期中監査	

決算監査に先立ち、理事長、財務担当理事(短期大学事務局長)、公認会計士による連絡会を持ち財産の状況について意見交換をしている。

会計上の主要な検討事項は次のとおり。

1) 平成19年度

- ・固定資産の減価償却に関する経理規程上の耐用年数が、現状の実態に対応していない部分がある。(改訂済)

2) 平成20年度

- ・金融商品の取得、処分及び管理についての内部規程の制定を要する。(制定準備中)
- ・各学科の実習費預り金会計について
  - ①期末に現金残高が比較的多く残る場合、一旦預金に預け入れる。又は学科外の職員等による現金実査を行う。(対処済)
  - ②日常の出納管理も預金取引を中心にし、手元現金の残高を必要最低限にする。(対処済)

済)

3) 平成 21 年度

- ・会計方針の変更について：「リース取引に関する会計処理について（通知）」（20 高私参 2 号）及び「ソフトウェアに関する会計処理について」（20 高私参 3 号）の発出により、当会計年度から当該通知によって会計処理を行っている。  
適切に対応しているが、この変更による計算書類に与える影響はない。
- ・各学科の実習費預り金会計について、収支の記帳、残高の管理について前記の指摘事項は改善されている。
- ・2号基本金の設定について：2号基本金は将来学園が取得を予定している固定資産について、その取得資金を先行的に組入れたものである。来期に予定している食堂、耐震補強工事に関連する建築予算が1億7千万円となり、それによる基本金組み入れが消費収支に及ぼす影響を平準化する為、8千5百万円を2号基本金に理事会の承認を得て組入れている。

**(5) 財務情報の公開は今までどのように行ってきたか、また私立学校法第47条第2項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。**

奈良佐保短期大学のウェブサイトにて、収支計算書、貸借対照表及び財産目録の概要並びに事業実績報告書の全文を掲載している。従来からの公開情報に加え、財産目録全ての公開に向けて調整中で、利用者にわかりやすい内容を提供するため工夫改善を加えていきたいと考えている。

**(6) 寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。**

資金等の保有と運用については、定期預金並びに満期保有目的（元本保証）の有価証券での運用にとどめている。現在資金運用規程の制定に向けて検討中である。

**(7) 寄附金・学校債の募集を行っていればその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。**

学校債の募集は行っていないが、日本私立学校振興・共済事業団の「受配者指定寄附金」の利用開始と併せ、所得税法施行令第217条第四号及び法人法税施行令第77条第四号に掲げる「特定公益増進法人」の証明書の交付を受け、奈良佐保短期大学創立80周年記念事業を行うための資金並びに奈良佐保短期大学教育研究基金を創設するための募金を開始した。

〔参考資料 8 規程集 学校法人佐保会学園寄附金管理委員会規程 募金委員会規程  
33 佐保会総会案内文書〕

**【財務体質の健全性と教育研究経費について】**

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

[巻末 資料1 別紙様式1 資金収支計算書・消費収支計算書の概要]

(2) 学校法人の貸借対照表の概要（平成22年3月31日現在）を、別紙様式2にしたがって作成し、添付して下さい。

[巻末 資料2 別紙様式2 貸借対照表の概要]

(3) 財産目録及び計算書類（資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費0収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細表・借入金明細表・基本金明細表）について、過去3ヶ年（平成19年度～21年度）分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

[参考資料 34 財産目録及び計算書類]

(4) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の短期大学における教育研究経費比率（消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率）を、小数点以下第2位を四捨五入し第1位まで求め記述して下さい。

帰属収入が減少する状況ではあるが、教育研究経費の確保に努めている。しかし、まだ教育研究経費比率が相当に低い状況にあるので、財務状況を調整しながら高める努力をしたい。

表2 教育研究経費比率（平成19年度～21年度）

区分	19年度	20年度	21年度
教育研究経費支出(a)	110,612千円	121,274千円	122,063千円
帰属収入(b)	643,976千円	522,596千円	553,061千円
教育研究経費比率(a)/(b)	17.2%	23.2%	22.1%

**【施設設備の管理について】**

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

表3 施設設備等の管理に関する諸規程一覧

区 分	規 程 等 名 称
財務規程関係	学校法人佐保会学園経理規程
固定資産管理規程関係	学校法人佐保会学園経理規程 第5章関係
図書管理規程関係	学校法人佐保会学園経理規程 第5章関係
消耗品及び貯蔵品管理規程等	学校法人佐保会学園経理規程 第5章関係
施設設備等の管理に関する諸規定	なし

[参考資料 8 規程集 学校法人佐保会学園経理規程]

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

- ① 火災等の災害対策
- ② 防犯対策
- ③ 学生、教職員の避難訓練等の対策
- ④ コンピュータのセキュリティ対策
- ⑤ 省エネ及び地球環境保全対策
- ⑥ その他

- 1) 消防計画に基づき火気使用場所の確認を行うと共に、年1回消防設備点検を行っている。
- 2) 休日及び夜間には警備会社の警備員を1名常駐させ、巡回・警備を行っている。総務部設置の金庫には防犯ブザーが取り付けられており、作動時には警備員が現場に急行する。
- 3) 学生、教職員の避難訓練についてはその必要性を認識しているが、授業時間中の実施が困難なため実現するに至っていない。
- 4) 学外と学内LANの入り口にファイアウォールを設け、通信をウェブブラウザ、電子メール等の利用のみに制限しセキュリティを確保している。また学内に配備しているすべてのパソコンにウィルス対策ソフトをインストールしている。
- 5) 省エネ対策として、平成19年度に予算措置を行い省エネタイプのエアコンを導入すると共に、電力使用料のデマンド値監視装置を設置して目標値を設け、デマンド値の引き下げに努めた。
- 6) 平成19年4月1日に危機管理規程を制定し、危機管理体制について全学に周知を図った。
- 7) 平成21年度に校舎の耐震診断を実施した。その結果、1号館について補強の必要が判明したので、補強の方法について検討している。

#### 【特記事項について】

(1) この《Ⅸ財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

〔事務局長〕学生数の減少は、収入のほとんどが学生納付金である本学園にとって重大な問題である。そのため単年度毎に帰属収入が消費支出を下廻らないよう常に気を付けている。特に支出の大部分を占める人件費が増加しないよう、人員の削減（主として事務系職員）や特任教員制、任期付き採用（以上教員）等により対処している。

《X 改革·改善》

## 《X 改革・改善》

### 【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

自己点検・評価について、学則第1条の2に「本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的および教育研究機関としての社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価（以下「自己点検・評価」という。）を行うものとする。」と定めている。

本学の自己点検・評価活動を統括する機関として自己点検評価室を設置している。奈良佐保短期大学自己点検・評価規程を改正し、自己点検評価室に関する規程、FD規程、SD規程、点検評価担当員に関する内規等を制定し規程を整備した。また自己点検評価室の下にFD推進委員会とSD委員会を置き、それぞれの分野について自己点検評価室からの諮問に答え、提言するようにしている。

これまでの自己点検・評価活動は連続的なものでなかったが、平成22年度の長崎女子短期大学との相互評価を契機に、毎年自己点検・評価報告書を作成する体制を執り、平成26年度までに2回目の第三者評価を受ける予定である。

各学科・コースに自己点検評価室員と点検評価担当員がおり、室員を中心に自己点検・評価についての意見交換や、学科・コースの方針を決める機会を設けている。また会議で活動の内容を紹介し、今後取り組むべき課題などについて情報交換をしている。

[参考資料 8 規程集 奈良佐保短期大学自己点検・評価規程

自己点検評価室に関する規程 FD規程 SD規程  
点検評価担当員に関する内規]

(2) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去3ヶ年（平成19年度～21年度）にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

1) 自己点検・評価報告書2007 平成20年3月

平成19年度第三者評価のために作成した報告書に、機関別評価等を追加したもの

2) 2007～2008年度SD外部研修会等報告書 第1集 平成21年2月

2007～2008年度に学外で開催されたSD研修会参加報告集

3) 2005～2007年度SD研修会報告書 第1集 平成21年3月

2005～2007年度に学内で開催されたSD研修会報告集

4) 自己点検・評価報告書2009 平成22年3月

平成19年度の自己点検・評価により判明した課題及び第三者評価において指摘された事項、その後学内で改善が必要と判断した課題についての改善策をまとめ刊行したもの。本学ウェブサイトに掲載し、公開している。

配付先 奈良佐保短期大学専任教職員及び非常勤教員  
学校法人佐保会学園理事及び評議員  
関連する大学及び短期大学

[参考資料 35 自己点検・評価報告書 2007 36 自己点検・評価報告書 2009]

### 【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成21年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

平成19年度の第三者評価においては、資料作成に全教職員が関わったが、記述については幹部教員によるところが多かった。

平成21年度の報告書をまとめるにあたり、学科・専攻、事務局各部署、委員会等にそれぞれの課題を振り分けて改善策の提案を求め、自己点検評価室で集約する体制を執った。本学では、自己点検・評価を支える役割として点検評価担当員を置いているが、あまり活用できなかった。

今後は、点検評価担当員がそれぞれの機関・部署において、日常的に自己点検・評価を進める中で全員が関わり、その結果を集約する段階で課題の共有を図る必要があると考えている。そのためには、会議又はメール会議によって点検評価担当員が自らの所属部署における活動について報告する場を創出し、自己点検・評価に関する情報を学内に発信することが重要であると考えている。

(2) 平成21年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

1. 平成20年度に教務部・学生部を統合し学生支援センターとした。これにより学生対応を一ヶ所で行なうことができるようになった。
2. 同年、事務部を総務部に改め、それ以外の部をセンターとした。事務職員がセンター長に就任することで教員の事務職兼務をなくした。
3. 同年、地域との交流を図り、地域社会の文化、教育及び福祉の発展に寄与することを目的として生涯学習教育センターを設置した。
4. 平成21年度に、生活科学科を生活未来科に学科名称変更し、専攻課程を廃止してコース制を導入した。同時に、社会人として有用な人材を育成するビジネスキャリアコースを新設した。
5. 同年、幼児教育科にフィールド制を導入し、得意分野を伸ばす「保育士+」を目指すこととした。
6. 同年11月、地域の子育て支援を進めるため、学内に奈良市地域子育て支援センター「ゆめの丘SAHO」を設置した。
7. 平成22年度に幼児教育科を地域こども学科に学科名称変更し、幼児教育コースの他に、社会福祉士受験資格が得られる保育ソーシャルワークコースを新設した。

これからは自己点検・評価を連続的なものと捉え、その中で明らかとなった課題を全学的に共有して速やかに改善策をまとめる体制を整え、その結果を検証していきたいと考えている。

#### 【相互評価や外部評価について】

(1) 平成21年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

平成21年度までに相互評価、外部評価は実施していない。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

平成21年3月に、相互評価規程を制定した。

今年度相互評価を実施するため、平成21年6月に長崎女子短期大学と相互評価に関する協定書及び相互評価実施要領を締結した。

[参考資料 8 規程集 奈良佐保短期大学相互評価規程]

#### 【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

統括 自己点検評価室（自己点検評価室長）  
資料作成及び第一次原稿記述 点検評価担当員  
第二次原稿 所属長・役職者  
報告書作成 自己点検評価室

(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びALO（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

[自己点検評価室長] 今回長崎女子短期大学と相互評価を実施するにあたって、先の第三者評価の経験を踏まえて準備をしてきた。自己点検・評価の意義を共通の理解と認識にすることについては、日常業務に追われ十分浸透しなかった部分もあるが、なるべく大勢の教職員が関わる体制とすることの認識は、回を重ねるごとに深まったように思われる。

循環サイクルとしての自己点検・評価体制を確立するため、今後も全学に発信し、働きかけていきたい。

**【特記事項について】**

(1) この《X改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

自己点検・評価研修会

(平成20年度)

- ・第4回自己点検・評価研修会「本学の自己点検・評価体制について」

(平成21年度)

- ・第5回自己点検・評価研修会「本学の自己点検・評価活動を考える」
- ・第6回自己点検・評価研修会「改善策について」
- ・第7回自己点検・評価研修会「相互評価に実施に向けて」
- ・第8回自己点検・評価研修会「中央教育審議会答申について(1)」
- ・第9回自己点検・評価研修会「中央教育審議会答申について(2)」

F D研修会 (平成21年度)

- ・第4回F D研修会「外国人留学生の受入れのために」
- ・第5回F D研修会「授業改善に向けて」

S D研修会

(平成20年度)

- ・第5回S D研修会「補助金について」

(平成21年度)

- ・第6回S D研修会「学生への理解と対応」

(平成22年度)

- ・第7回S D研修会「第10回(平成22年度)「私立短大入試広報担当者研修会」(報告)」

[参考資料 53 研修会案内 配付資料等]

## 《卷末資料》

学校名

奈良佐保短期大学

別紙様式 1

## 過去3ヵ年(平成19年度～21年度)の収支計算書の概要

## 【資金収支計算書/資金収入の部】

(単位:千円)

区 分	19年度		20年度		21年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金収入	605,913	496,703	502,689	394,721	458,721	357,317
手数料収入	7,404	7,034	5,457	5,128	5,123	4,804
寄付金収入	2,910	1,954	3,793	2,772	2,379	1,814
補助金収入	153,118	78,870	161,378	88,642	199,044	128,682
資産運用収入	4,168	3,888	12,319	12,018	13,000	12,923
資産売却収入	5	5	0	0	0	0
事業収入	23,388	4,428	28,488	8,091	61,501	41,860
雑収入	51,993	45,719	10,352	8,394	6,984	4,401
借入金等収入	0	0	0	0	0	0
前受金収入	131,915	-	124,130	-	108,453	-
その他の収入	202,746	-	289,595	-	120,165	-
資金収入調整勘定	-224,606	-	-134,149	-	-142,455	-
前年度繰越支払資金	1,141,924	-	1,191,934	-	838,484	-
収入の部合計	2,100,878	638,601	2,195,986	519,766	1,671,399	551,801

## 【資金収支計算書/資金支出の部】

人件費支出	535,750	403,672	458,523	326,450	450,837	323,150
教育研究経費支出	93,634	71,815	103,029	82,559	103,707	81,810
管理経費支出	62,857	38,986	64,611	41,946	64,346	45,949
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	0
施設関係支出	13,244	9,398	13,252	2,879	87,946	1,180
設備関係支出	21,401	20,207	11,012	10,196	10,613	9,911
資産運用支出	0	0	548,181	0	85,000	0
その他の支出	204,912	-	172,059	-	129,498	-
資金支出調整勘定	-22,854	-	-13,166	-	-15,641	-
次年度繰越支払資金	1,191,934	-	838,484	-	755,093	-
支出の部合計	2,100,878	544,078	2,195,985	464,030	1,671,399	462,000

## 【消費収支計算書／消費収入の部】

区 分	19年度		20年度		21年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金	605,913	496,703	502,689	394,721	458,721	357,317
手数料	7,404	7,034	5,457	5,128	5,123	4,804
寄付金	8,267	6,624	6,736	5,601	3,988	3,052
補助金	153,118	78,870	161,378	88,642	199,044	128,682
資産運用収入	4,168	3,888	12,319	12,018	13,000	12,923
資産売却差額	5	5	0	0	0	0
事業収入	23,388	4,428	28,488	8,091	61,501	41,860
雑収入	52,346	46,424	10,353	8,394	7,006	4,424
帰属収入合計	854,609	643,976	727,420	522,595	748,383	553,062
基本金組入額合計	-19,285	-16,442	-18,166	-6,863	-177,843	-93,089
消費収入の部合計	835,324	627,534	709,254	515,732	570,540	459,973

## 【消費収支計算書／消費支出の部】

人件費	577,070	444,991	507,290	375,218	474,037	346,350
教育研究経費	140,719	110,612	149,638	121,274	149,938	122,063
（うち減価償却費）	( 47,044 )	( 38,757 )	( 46,609 )	( 38,715 )	( 46,231 )	( 40,253 )
管理経費	70,792	43,975	73,766	48,319	74,463	50,821
（うち減価償却費）	( 7,935 )	( 4,989 )	( 9,154 )	( 6,373 )	( 10,117 )	( 4,873 )
借入金等利息	0	0	0	0	0	0
資産処分差額	2,044	2,008	8,487	8,486	1,615	742
徴収不能引当金繰入額(または徴収不能額)	0	0	0	0	0	0
消費支出の部合計	790,625	601,586	739,181	553,297	700,053	519,976
当年度消費収入(支出)超過額	44,699	25,947	-29,927	-37,565	-129,512	-60,004
前年度繰越消費収入(支出)超過額	-942,000	-761,934	-855,000	-704,914	-884,927	-742,478
基本金取崩額	42,301	31,073	0	0	732	0
翌年度繰越消費収入(支出)超過額	-855,000	-704,913	-884,927	-742,478	-1,013,707	-802,482

短期大学名

奈良佐保短期大学

別紙様式2

## 平成21年度末の貸借対照表概要 (学校法人)

(21年度末日現在/単位:千円)

資産の部			
科 目	21年度末	20年度末	増 減
固定資産	2,649,713	2,522,535	127,178
有形固定資産	2,005,068	1,962,840	42,228
その他の固定資産	644,645	559,695	84,950
流動資産	774,073	840,935	-66,862
資産の部合計	3,423,786	3,363,470	60,316

負債の部			
固定負債	118,595	95,394	23,201
流動負債	144,648	155,863	-11,215
負債の部合計	263,243	251,257	11,986

基本金の部			
基本金合計	4,174,252	3,997,140	177,112

消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入(支出)超過額	-1,013,707	-884,927	-128,780

## 《Ⅱ 教育の内容》

## 【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

平成22年度に学科改組等を行った場合は、平成21年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

平成21年度 教育課程

(平成21年5月1日現在)

基礎教養科目(生活未来科・生活科学科・幼児教育科・地域こども学科共通)

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H20年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
人権と差別	○			2			○		72 (1)	卒業必修
国語表現法	○			2			○		169 (4)	卒業必修
日本の憲法	○				2			○	146 (2)	介1回選択必修・介2回・教職必修
健康・スポーツ論	○				1		○		187 (4)	介2回・教職・保・健必修
健康・スポーツ実習			○		1			○	173 (6)	介2回・教職・保必修
心理学	○				2		○		74 (1)	健康管理士必修
キャリアデザイン	○				2		○	○	141 (3)	
哲学と人生	○				2				24 (1)	平成22年度開講
文学	○				2		○		23 (1)	
奈良の自然と文化	○				2		○	○	24 (1)	
国際理解	○				2		○	○	7 (1)	
日本語・日本事情Ⅰ		○			1		○		- -	平成21年度開講
日本語・日本事情Ⅱ		○			1		○		- -	平成21年度開講
くらしの文化史	○				2		○		13 (1)	介1回選択必修
人と自然の共生	○				2		○		36 (1)	健康管理士必修
生命のつながり	○				2		○		14 (1)	介1回選択必修
健康管理概論	○				2		○		13 (1)	健康管理士必修
ジェンダー論	○				2		○		20 (1)	
情報処理演習Ⅰ		○			1		○		106 (4)	} 医・介事必修 教職は2科目必修
情報処理演習Ⅱ		○			1		○		141 (5)	
情報処理演習Ⅲ		○			1		○		26 (1)	
情報処理演習Ⅳ		○			1		○		19 (1)	
英語Ⅰ(英語表現Ⅰ)		○			1			○	135 (4)	}
英語Ⅱ(英語表現Ⅱ)		○			1			○	47 (2)	
英語Ⅲ(アドバンス・イングリッシュⅠ)		○			1			○	14 (1)	
英語Ⅳ(アドバンス・イングリッシュⅡ)		○			1			○	- -	
英会話		○			1			○	17 (1)	2単位卒業必修
フランス語Ⅰ		○			1			○	97 (2)	
フランス語Ⅱ		○			1			○	19 (1)	
ドイツ語入門Ⅰ	○				2				放送大学互換科目	0 (0)
中国語入門Ⅰ	○				2				放送大学互換科目	0 (0)
韓国語入門Ⅰ	○				2				放送大学互換科目	0 (0)
介護食演習		○			2				提携校科目	6 (1)
宇宙観の歴史と科学	○				2				放送大学互換科目	0 (0)
文化人類学	○				2				放送大学互換科目	0 (0)

生活未来科・生活科学科 専門教育科目（生活福祉コース・専攻）

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H20年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
生活概論	○			2		○			26 (1)	
育児学	○				2	○			4 (1)	生活科学科共通
家族社会学	○			2			○		27 (1)	
生活衛生	○				2	○			6 (1)	
社会福祉概論 I	○					○			23 (1)	
老人福祉論 I	○			2		○			23 (1)	
老人福祉論 II	○			2		○			26 (1)	
社会福祉援助技術	○			2			○		49 (1)	
社会福祉援助技術演習		○		1		○			27 (2)	
家政学概論 I	○			2		○			24 (1)	
家政学概論 II	○			2		○			26 (1)	健康管理士科目
調理実習			○	1		○			26 (1)	
衣服実習			○	1				○	27 (1)	
精神保健	○			2				○	27 (1)	
介護技術Ⅲ		○		1		○			26 (1)	
形態別介護技術Ⅱ		○		2		○			26 (1)	
形態別介護技術Ⅲ(手話・点字)		○		1				○	26 (1)	
介護実習Ⅱ			○	4		○			26 (1)	
介護実習Ⅲ			○	4		○			26 (1)	
実習指導Ⅱ		○		1		○			26 (1)	
実習指導Ⅲ		○		1		○			26 (1)	
手工芸実習			○		1			○	8 (1)	
リズム運動			○		1		○		16 (1)	
音楽療法		○			1			○	12 (1)	
ゼミナール		○			2		○		58 (3)	
コミュニケーション演習		○		1					- -	平成22年度開講
社会福祉概論	○			2		○			- -	
キャリアナビⅡ 数学・科学のおもしろさ	○				2	○			- -	介1回選択必修
グリーンプランニングⅠ	○				2	○		○	- -	介1回選択必修
グリーンプランニングⅡ	○				2	○		○	- -	
施設経営論	○				2				- -	介1回選択必修 平成22年度開講
介護概論Ⅰ	○			2		○			21 (1)	
介護概論Ⅱ	○			2		○			22 (1)	
高齢者福祉サービスの制度と実践	○			2				○	- -	
生活レクリエーション	○			2					- -	平成22年度開講
介護予防	○			2					- -	平成22年度開講
セラピー概論	○			2				○	- -	
コミュニケーションの基本	○			2		○			- -	
点字・手話		○		1					- -	平成22年度開講
生活支援技術Ⅰ		○		2		○			- -	健康管理士科目
生活支援技術Ⅱ		○		2		○			- -	健康管理士科目
生活支援技術Ⅲ		○		2					- -	平成22年度開講
生活経営・管理の技法	○			1					- -	平成22年度開講
居住環境整備の技法		○		1		○			- -	
家事支援の技法Ⅰ・被服		○		1				○	- -	
家事支援の技法Ⅱ・栄養	○			1					- -	健康管理士科目 平成22年度開講
家事支援の技法Ⅲ・調理		○		1					- -	平成22年度開講
介護過程Ⅰ	○			2		○			- -	
介護過程Ⅱ		○		1		○			- -	
介護過程Ⅲ		○		1					- -	平成22年度開講
介護過程Ⅳ		○		2					- -	平成22年度開講
介護総合演習Ⅰ		○		1		○			- -	
介護総合演習Ⅱ		○		1					- -	平成22年度開講

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H20年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
介護総合演習Ⅲ		○		2					- -	平成22年度開講
介護実習Ⅰ			○	3		○			21 (1)	
発達と老化の理解	○			2				○	- -	健康管理士科目
高齢者の心理	○			2			○		- -	
認知症の理解Ⅰ	○			2		○			- -	
認知症の理解Ⅱ	○			2					- -	平成22年度開講
障害の理解Ⅰ	○			2					- -	平成22年度開講
障害の理解Ⅱ	○			2					- -	平成22年度開講
こころとからだのしくみⅠ	○			2			○		- -	
こころとからだのしくみⅡ	○			2				○	- -	
こころとからだのしくみⅢ	○			2		○			- -	
こころとからだのしくみⅣ	○			2		○		○	- -	
医療事務管理総論	○				2				- -	平成22年度開講
介護事務管理総論	○				2				- -	平成22年度開講
地域福祉論	○				2	放送大学互換科目			0 (0)	
資格に必要な単位数(平成20年度入学生)				68						
資格に必要な単位数(平成21年度入学生)				74	8					

生活未来科・生活科学科 専門教育科目 (食物栄養コース・専攻)

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H20年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
公衆衛生学	○			2				○	38 (1)	健康管理士科目 (科目等履修生2名)
社会福祉概論	○			2		○			37 (1)	
人体の構造と機能Ⅰ	○			2				○	43 (1)	
人体の構造と機能Ⅱ	○			2				○	44 (1)	健康管理士科目
生理学実習			○	1		○			34 (1)	
運動生理学	○			2			○		35 (1)	
生化学	○			2				○	51 (1)	
生化学実験			○	1				○	44 (2)	
食品科学	○			2		○			43 (1)	フードスペシャリスト科目
食品材料学(加工学を含む)	○			2		○			44 (1)	フードスペシャリスト科目 (科目等履修生1名)
食品学実験			○	1		○			43 (2)	フードスペシャリスト科目
食品衛生学	○			2		○			38 (1)	フードスペシャリスト科目 (科目等履修生1名)
食品衛生学実習			○	1		○			36 (1)	フードスペシャリスト科目
基礎栄養学	○			2		○			43 (1)	フードスペシャリスト科目 健康管理士科目
応用栄養学	○			2		○			36 (1)	健康管理士科目
応用栄養学実習			○	1				○	35 (1)	
栄養指導論Ⅰ	○			2		○			43 (1)	フードスペシャリスト科目
栄養指導論Ⅱ	○			2		○			37 (1)	(科目等履修生1名)
栄養指導論実習Ⅰ			○	1		○			43 (2)	
栄養指導論実習Ⅱ			○	1				○	36 (1)	
臨床栄養学	○			2				○	35 (1)	
食事療法論	○			2		○			37 (1)	(科目等履修生1名)
食事療法実習			○	1		○			36 (1)	
公衆栄養学	○			2				○	38 (1)	健康管理士科目 (科目等履修生1名)
給食実務論	○			2		○			43 (1)	
給食計画論	○			2		○		○	36 (1)	
給食管理実習			○	2		○			36 (1)	
学外実習Ⅰ			○	1		○			33 (1)	
学外実習Ⅱ			○		1	○			12 (1)	

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H20年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
調理学	○			2		○			43 (1)	フードスペシャリスト科目
調理実習Ⅰ			○	1		○			43 (2)	フードスペシャリスト科目
調理実習Ⅱ			○	1		○			43 (2)	フードスペシャリスト科目
調理実習Ⅲ			○	1		○		○	36 (1)	フードスペシャリスト科目
食料経済	○				2			○	19 (1)	フードスペシャリスト科目
育児学	○				2	○			3 (1)	生活科学科共通
食品微生物学	○				2	○			8 (1)	
フードスペシャリスト論	○				2	○			2 (1)	フードスペシャリスト科目
食品の官能評価・鑑別演習		○			2	○			20 (1)	フードスペシャリスト科目
フードコーディネータ論	○				2			○	17 (1)	フードスペシャリスト科目
食品加工実習			○		1	○			20 (1)	フードスペシャリスト科目
カラーコーディネータ論	○				2		○		33 (1)	フードスペシャリスト科目
情報処理演習		○			1		○		41 (2)	フードスペシャリスト科目
専門調理		○			2	○		○	27 (1)	
ゼミナール		○			2	○			32 (1)	
がんの健康科学	○				2	放送大学互換科目			0 (0)	
食と健康	○				2	放送大学互換科目			0 (0)	
栄養士免許に必要な単位数				52						
フードスペシャリスト資格に必要な単位数				29						

生活未来科 専門教育科目 (ビジネスキャリアコース)

授業科目名	授業形態			単位	教員配置			H20年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習		専任	兼任	兼任		
キャリアナビⅠ 職業人意識	○			2	○		○	- -	
キャリアナビⅡ 数学・科学のおもしろさ	○			2	○			- -	
キャリアナビⅢ ビジネス文書	○			2				- -	平成22年度開講
キャリアナビⅣ 時事問題	○			2				- -	平成22年度開講
キャリアナビⅤ キャリアナビゲーション	○			2	○		○	- -	
コミュニケーション演習		○		1	○			- -	
観光ビジネス	○			2				- -	平成22年度開講
地域活性化論	○			2				- -	平成22年度開講
文書作成Ⅰ		○		1		○		- -	
文書作成Ⅱ		○		1				- -	平成22年度開講
データ処理Ⅰ		○		1		○		- -	
データ処理Ⅱ		○		1				- -	平成22年度開講
データベース		○		1				- -	平成22年度開講
プレゼンテーション・ビデオ編集		○		1				- -	平成22年度開講
ホームページ作成		○		1				- -	平成22年度開講
イラスト・画像処理		○		1			○	- -	
2次元CADⅠ		○		1			○	- -	
2次元CADⅡ		○		1			○	- -	
3次元CADⅠ		○		1				- -	平成22年度開講
3次元CADⅡ		○		1				- -	平成22年度開講
カラーコーディネータ演習		○		1			○	- -	
イラストレーション		○		2			○	- -	
クラフトデザイン		○		1			○	- -	
テキスタイルアートⅠ		○		1			○	- -	
テキスタイルアートⅡ		○		1				- -	平成22年度開講
奈良の伝統工芸演習Ⅰ		○		2	○			- -	
奈良の伝統工芸演習Ⅱ		○		2				- -	平成22年度開講
奈良の自然と文化Ⅰ	○			2	○		○	- -	
奈良の自然と文化Ⅱ		○		1	○			- -	
卒業制作・研究報告		○		4				- -	平成22年度開講
ゼミナール		○		2		○		- -	

幼児教育科 専門教育科目

授業科目名	授業形態			単位				教員配置			H20年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	幼稚園免許 必修	幼稚園免許 選択	保育士資格 必修	保育士資格 選択	専任	兼任	兼任		
音楽Ⅰ		○		2		2		○		○	122 (9)	(科目等履修生5名)
音楽Ⅱ		○			2	2		○			16 (1)	
音楽Ⅲ		○			2	2		○		○	57 (4)	
造形美術		○		1		1				○	88 (3)	
体育		○		1		1				○	88 (3)	
国語(書写を含む)	○				2			○			18 (1)	
こどもと自然	○				2			○			108 (2)	
生活	○				2			○			27 (1)	
文章作法	○				2	2		○			65 (3)	
社会福祉	○					2		○			91 (2)	
社会福祉援助技術		○				2		○			110 (3)	
児童福祉	○					2			○		110 (2)	
保育原理A	○				2	2		○			91 (2)	
保育原理B	○				2	2		○			91 (2)	
養護原理	○					2		○			89 (2)	
障害者福祉	○						2	○			42 (1)	
教職論	○			2						○	90 (2)	
教育原理	○			2		2		○			115 (2)	(科目等履修生1名)
教育学	○				2			○			47 (1)	
発達心理学	○			2		2		○			89 (2)	
発達臨床心理学	○				2		2				- -	平成22年度開講
教育心理学	○				2	2		○			89 (2)	
小児保健A	○					2		○			90 (2)	
小児保健B	○					2		○			92 (2)	
小児保健実習			○			1			○		90 (3)	
小児栄養		○				2				○	112 (3)	
精神保健	○				2	2				○	113 (2)	
家族援助論	○				2	2		○			110 (2)	
保育課程総論		○		1		1		○			90 (2)	
保育(健康)		○		1		1		○			115 (3)	(科目等履修生2名)
保育(人間関係)		○		1		1		○			99 (2)	
保育(環境)		○		1		1		○			88 (2)	
保育(言葉)		○		1		1		○			89 (2)	
保育(表現・音楽Ⅰ)		○		1		1				○	61 (5)	(科目等履修生8名)
保育(表現・幼児造形Ⅰ)		○		1			1			○	89 (3)	
保育(表現・身体表現Ⅰ)		○		1			1	○			90 (3)	
保育(表現・音楽Ⅱ)		○		1			1			○	33 (4)	
保育(表現・幼児造形Ⅱ)		○		1			1			○	114 (4)	
保育(表現・身体表現Ⅱ)		○		1			1			○	110 (4)	
保育方法		○			1		1				- -	平成22年度開講
乳児保育		○				2		○			90 (3)	
障害児保育		○			1	1				○	89 (2)	
養護内容		○				1		○			110 (3)	(科目等履修生1名)
教育方法メディア論	○			2				○			111 (2)	
こどもの発達相談	○				2		2	○			104 (2)	
幼児理解		○		1			1				93 (2)	平成22年度開講
保育相談	○			1			1			○	113 (2)	
保育ソーシャルワーク	○				2		2				- -	平成22年度開講

授業科目名	授業形態			単位				教員配置			H20年度履修 人員/クラス	備考		
	講義	演習	実習	幼稚園免許		保育士資格		専任	兼任	兼任				
				必修	選択	必修	選択							
障害児理解	○							2			○	94 (1)		
乳児と環境	○				1			1	○			11 (1)		
合唱		○			1						○	49 (1)		
器楽合奏		○			1			1			○	14 (1)		
レクリエーション指導法		○			1			1			○	64 (2)		
児童文化		○			1			1	○			57 (1)		
環境教育フィールド演習		○			1			1	○			17 (1)		
ゼミナール		○			2				○			1 (1)		
総合演習A・B・C		○			2			2	○			105 (8)		
教育実習			○		5				○			187 (2)	(科目等履修生5名)	
保育実習Ⅰ			○					5	○			189 (2)	(科目等履修生5名)	
保育実習Ⅱ			○					2	1 科目 必修	○		65 (1)	(科目等履修生9名)	
保育実習Ⅲ			○					2		○			22 (1)	
地域福祉論	○				2			2		放送大学互換科目		0 (0)		
資格に必要な単位数					31	19		52	8					

### 専攻科福祉専攻 専門教育科目

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H20年度履修 人員/クラス	備考	
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任			
介護に必要な制度の理解	○			2				○		- -	
介護概論Ⅰ	○			2				○		20 (1)	
介護概論Ⅱ	○			2				○		20 (1)	
高齢者福祉サービスの制度と実践	○			2				○		- - -	
障害者福祉サービスの制度と実践	○			2				○		- - -	
介護予防	○			2				○		- - -	
生活レクリエーション		○		1				○		- - -	
コミュニケーションの基本		○		1				○		- - -	
手話・点字		○		1				○		- - -	
生活支援技術Ⅰ		○		2				○	○	- - -	
生活支援技術Ⅱ		○		2				○	○	- - -	
生活支援技術Ⅲ		○		2				○	○	- - -	
生活経営・管理の技法	○			1				○		- - -	
居住環境整備の技法		○		1				○		- - -	
家事支援の技法Ⅰ:被服		○		1				○		- - -	
家事支援の技法Ⅱ:栄養	○			1				○		- - -	
家事支援の技法Ⅲ:調理		○		1				○		- - -	
介護過程Ⅰ	○			2				○		- - -	
介護過程Ⅱ		○		1				○	○	- - -	
介護過程Ⅲ		○		1				○	○	- - -	
介護過程Ⅳ		○		2				○	○	- - -	
介護総合演習Ⅰ		○		1				○	○	- - -	
介護総合演習Ⅱ		○		1				○	○	- - -	
介護実習Ⅰ			○	1				○	○	20 (1)	
介護実習Ⅱ			○	3				○	○	20 (1)	
介護実習Ⅲ			○	4				○	○	20 (1)	
発達と老化の理解	○			2				○		- - -	
認知症の理解Ⅰ	○			2				○		- - -	
認知症の理解Ⅱ	○			2				○		- - -	
障害の理解	○			2				○		- - -	
人体の構造と機能	○			2				○		- - -	

授業科目名	授業形態			単位		教員配置			H20年度履修 人員/クラス	備考
	講義	演習	実習	必修	選択	専任	兼任	兼任		
現代社会と疾病	○			2			○		- -	
ゼミナール		○			2	○			20 (1)	
資格に必要な単位数				54						

〔注意〕

1. 実習には実験、実技を含みます。
2. 講義、演習、実習のうち2以上の方法の併用により授業を行う場合については、該当するそれぞれの授業形態に○印を付して下さい。
3. 前年度の履修人員欄の括弧書き数字は、履修人員を幾つのクラスに分けているかを示します。
4. 前年度の履修人員には正規の学生の履修人員を記入し、その他の学生（科目等履修生等）の履修人員は、備考欄に注記して下さい。
5. 通信教育学科の場合にあつては、備考欄に主たる授業の方法（「印刷教材等による授業」、「放送授業」、「面接授業」、「メディアを利用して行う授業」）の別を「印刷」、「放送」などと略記して下さい。